

第九六號	臺灣類漁業	臺下新川郡魚津町大字下新町一三五 四十萬半右衛門	明治三十六年十一月十六日四 十萬半右衛門死亡ニ付相續
第一〇七號	特別漁業第三種 漁地曳網	同	同
第一一四號	特別第三種漁業 罾地曳網	同	同

●富山縣告示第九十五號

明治三十八年五月十二日

左記漁業ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登録セリ

免許 番號	年 月 日	許 漁業種類 及名稱	漁業 位置	漁獲物 種類	漁業 時期	業 免許 期間	漁業權代表者ノ氏名住所
第四二號	明治三十八年五月五日	落網類漁業 罾網	字辨慶	鱈、鯉、 鰍、鯖、 ふくらぎ	自十一月一日 至三月卅一日 自三月卅一日 至五月十六日 自五月十六日 至十月卅一日	二十 ク	婦負郡四方町大字四方町二六 五六 荒井久四郎

●富山縣告示第九十六號

明治三十八年五月十二日

左記ノ通免許漁業原簿ニ登録セリ

免許 番號	年 月 日	許 漁業種類 及名稱	漁業 位置	漁獲物 種類	漁業 時期	業 免許 期間	漁業權代表者ノ氏名住所
第四明治 三十八年五月五日	三十八年五月五日	臺灣類漁業 罾網	字東郷	鱈、鯉、 鰍、鯖、 ふくらぎ	自十一月一日 至三月卅一日 自三月卅一日 至五月十六日 自五月十六日 至十月卅一日	二十 ク	婦負郡倉垣村大字打出村八二〇 大場義成

●富山縣告示第九十七號

明治三十八年五月十二日

左記ノ通明治三十八年五月五日變更ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登録セリ

免許 番號	年 月 日	許 漁業種類 及名稱	漁業 位置	漁獲物 種類	漁業 時期	業 免許 期間	漁業權代表者ノ氏名住所
第四七號	自十一月一日 至四月二十五日	臺灣類漁業 罾網	至四月二十五日				婦負郡倉垣村大字打出村八二〇 大場義成

●富山縣告示第九十八號

明治三十八年五月十二日

左記ノ通明治三十八年五月五日免許漁業原簿ニ登録セリ

免許 番號	年 月 日	許 漁業種類 及名稱	漁業 位置	漁獲物 種類	漁業 時期	業 免許 期間	漁業權代表者ノ氏名住所
第四三號	自十一月一日 至四月二十五日	臺灣類漁業 罾網	至四月二十五日				婦負郡倉垣村大字打出村八二八 江西甚口衛門 拋棄ス

●富山縣告示第九十九號

明治三十八年五月十二日

左記漁業ヲ免許シ漁業原簿ニ登録セリ

免許 番號	年 月 日	許 漁業種類 及名稱	漁業 位置	漁獲物 種類	漁業 時期	業 免許 期間	漁業權代表者ノ氏名住所
第四明治 三十八年五月五日	三十八年五月五日	落網類漁業 罾網	字寬延	鱈、鯉、 鰍、鯖、 ふくらぎ	自三月十日 至七月十五日	二十 ク	婦負郡四方町大字四方町二二三〇 蛇谷與三郎

第四一號 同 落網類漁業 字中才 自四月十五日 同 同郡同町同大字二三〇一 米次郎

●富山縣告示第百號

左記漁業ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登錄セリ

明治三十八年五月十二日

免許年	月	日	漁業種類	漁場	漁獲物	業期	免許期間	漁業權代表者ノ氏名住所
第四	明治	三十八年	落網類漁業	字五社	鮎、鱒、鱒、鱒	自三月十日	二十	婦負郡倉垣村大字打出村八二八
四號	五月	五日	鮎、鱒、鱒、鱒	字五社	鮎、鱒、鱒、鱒	至八月卅一日	夕年	江西 甚右衛門

●富山縣告示第百一號

左記ノ通明治三十八年五月八日免許漁業原簿ニ登錄セリ

明治三十八年五月十二日

免許年	月	日	漁業種類	漁場	漁獲物	業期	免許期間	漁業權代表者ノ氏名住所
第六	台網類	漁業	射水郡海老江村大字海老江村二四六	中西	清八	明治三十八年三月三十日	漁業權ヲ拋棄ス	由

●富山縣告示第百二號

左記ノ通明治三十八年五月八日免許狀ヲ書換下付シ免許漁業原簿ニ登錄セリ

明治三十八年五月十二日

免許年	月	日	漁業種類	漁場	漁獲物	業期	免許期間	漁業權代表者ノ氏名住所
第九	六號	台網類	漁業	白下新川郡魚津町大字新下獵師町二	濱本	久次	因リ明治卅八年三月廿四日	代表者變更改
第一〇	七號	特別漁業	第二種	同郡同町大字下新町一三五	四十	方半右衛門	同	同
第一二	四號	特別漁業	第三種	同	同	同	同	同

●富山縣告示第百三號

左記漁業ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登錄セリ

明治三十八年五月十二日

免許年	月	日	漁業種類	漁場	漁獲物	業期	免許期間	漁業權代表者ノ氏名住所		
第一	六號	明治	三十八年	落網類	漁業	字森中	鮎、鱒、鱒、鱒	自四月一日	二十	下新川郡生地町大字芦崎村三四
二號	五月	八日	鮎、鱒、鱒、鱒	字森中	鮎、鱒、鱒、鱒	至八月卅一日	夕年	村椿 與右衛門		

●富山縣告示第百四號

左記ノ通明治三十八年五月八日免許狀ヲ書換下付シ免許漁業原簿ニ登錄セリ

明治三十八年五月十二日

免許年	月	日	漁業種類	漁場	漁獲物	業期	免許期間	漁業權代表者ノ氏名住所
第一	五號	特別漁業	第三種	下新川郡魚津町大字下新町	明治三十八年一月二十七日	代表者島崎藤左衛門	由	由
五號	漁業	鮎、鱒、鱒、鱒	地曳網	三九	松倉 善右衛門	其ノ持分ヲ讓渡シタルニ由リ	代表者變更	由

第二二〇號 同郡同助同大字七四 濱岡彌三兵衛 同

●富山縣告示第百五號

左記漁業ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登録セリ

明治三十八年五月十二日

免許 番號	免 許 年 月 日	漁業種類 及名稱	漁 場 位 置	漁獲物 種類	漁 業 時 間	免 許 期 間	漁業權代表者ノ氏名住所
第七號	明治三十八年 四月二十八日	臺網類漁業 魚鱒	字川尻	魚鱒、柔	自十月一日 至三月三十一日	二十年	中新川郡西水橋町大字水橋西大 町五一八上口伊橋平
第八號	同	同	字小塚	魚鱒、柔	同	同	同郡同助同大字辻ヶ堂村二五六四 押田喜訓
第九號	同	同	字手崎	同	同	同	同郡同助同大字二五二五 藤木治郎平
第十號	同	同	字小入道	同	同	同	同郡同助同大字水橋山王町六二九 山田正雄
第十一號	同	同	字伊勢塚	同	同	同	同郡同助同大字辻ヶ堂村二五八四 神田興之助
第十二號	同	同	字塚出	同	同	同	同郡同助同大字二五九一 石金長造

●富山縣告示第百十九號

左記ノ通變更ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登録セリ

明治三十八年六月三十日

免許 番號	免 許 年 月 日	漁業種類 及名稱	漁 場 位 置	漁獲物 種類	漁 業 時 間	免 許 期 間	漁業權代表者ノ氏名住所
第五六號	明治三十八年 六月二十八日	臺網類漁業 魚鱒	同	同	同	同	同郡同助同大字四方町二三一六 井本三信

●富山縣告示第百二十號

左記ノ通變更ヲ免許シ明治三十八年六月二十八日漁業原簿ニ登録セリ

明治三十八年六月三十日

免許 番號	免 許 年 月 日	漁業種類 及名稱	漁 場 位 置	漁獲物 種類	漁 業 時 間	免 許 期 間	漁業權代表者ノ氏名住所
第五三號	同	臺網類漁業 魚鱒	同	同	同	同	同郡同助同大字四方町二三一 高木長三郎
第五四號	同	同	同	同	同	同	同

●富山縣告示第百二十五號

富山縣水産講習所ニ於テ左記ノ通短期講習生ヲ募集ス入學志願者ハ明治三十七年四月富山縣令第二十二號富山縣水産講習所講習規則及同年同富山縣令第二十三號富山縣水産講習所短期講習規則ニ據リ本年八月四日迄ニ同所長ニ出願スヘシ

明治三十八年七月二十八日

講習科目	場	所	期	間	人	員

鯛油漬製造及使用方法
網延網釣漁業
網一本釣漁業

中新川郡滑川町
水産講習所

明治三十八年八月五日ヨリ
五十日間

三 十 名

●富山縣告示第五百五十六號

左記漁業ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登録セリ

明治三十八年八月二十五日

免許 番號	年月日	漁業種類 及名稱	漁場 位置	漁獲物 種類	漁業 時期	免許 期間	漁業權代表者ノ氏名住所
一七四	明治三十八年八月十六日	特別漁業第 三種漁業 鮭 鱒 字壹番場 地曳網		鮭、鱒、鱒	自一月一日 至十二月三十 一日	二十 ケ年	下新川郡生地町大字生地 村五四八 米生清七郎

●富山縣告示第五百五十七號

明治三十八年八月二十六日

一 明治三十八年八月陸軍省告示第十五號樺太島漁業假規則ニ依リ營業及身元證明書ノ下付ヲ受ケン
トスル者ハ所轄町村役場、郡市役所ヲ經由シ當廳ヘ願書ヲ差出スヘシ

一 同年同月陸軍省告示第十六號樺太島出入船舶及渡航者規則ニ據リ身元證明書ノ下付ヲ受ケン
トスル者ハ從來ノ職業及渡航ノ目的ヲ記シタル願書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ本籍地若ハ居住地ノ警察官
署ニ差出スヘシ

●富山縣告示第六十三號

明治三十八年九月八日

富山縣水産講習所ニ於テ本年十月一日ヨリ入學スヘキ本科生徒二十名募集候條志願ノ者ハ明治三
十七年四月富山縣令第二十二號ニ據リ本月二十五日迄ニ願書ヲ所長ニ差出スヘシ

●富山縣告示第六十九號

明治三十八年九月十五日

左記ノ通明治三十八年九月十一日免許漁業共同人名簿ニ登録セリ

免 番號	漁業ノ種類及名稱	共有者ノ氏名住所	事 由
第二〇號	落網類漁業 鮭 鮒 網	中新川郡滑川町大字下小泉村 二八八 加藤甚右衛門	明治三十八年九月七日加藤重 吉ノ持分ヲ讓受
第四二號	臺網類漁業 鮒 臺 網	同	同

●富山縣告示第七十號

明治三十八年九月十五日

左記ノ通明治三十八年九月十一日免許漁業共同人名簿ニ登録セリ

免 番號	漁業種類及名稱	共有者ノ氏名住所	持分	事 由

第九五號 臺網類漁業鱒類臺
 同 同 同
 同郡同町大字上獵師町二 一步
 同郡同町大字上獵師町二 二步
 同郡同町大字上獵師町二 二步
 同郡同町大字上獵師町二 二步

●富山縣告示第七十一號

明治三十八年九月十五日

左記ノ通明治三十八年九月十一日免許漁業原簿ニ登錄セリ

免許番號	漁業種類及名稱	漁業權者ノ氏名住所	事由
第五號	臺網類漁業鱒魚網	射水郡新湊町大字放生津町一〇九六 放生津漁業組合	明治三十八年五月十一日漁業權ヲ拋棄ス

●富山縣告示第七十九號

明治三十八年九月二十九日

左記漁業ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登錄セリ

免許番號	漁業種類及名稱	漁業權者ノ氏名住所	期間
第一號	九月二十一日業築山	東礪波郡東山見村大字金屋岩黒村一〇二二 野村理吉	自八月廿五日明治卅八年十一月三十日迄

●富山縣告示第八十五號

明治三十八年十月十三日

左記漁業ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登錄セリ

免許番號	漁業種類及名稱	漁業權者ノ氏名住所	期間
第二號	明治三十八年業築字八番島	東礪波郡般若村大字安川村一八	自十月一日明治三十八年十二月三十一日迄

●富山縣告示第八十六號

明治三十八年十月十三日

左記漁業ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登錄セリ

免許番號	漁業種類及名稱	漁業權者ノ氏名住所	期間
第三號	明治三十八年業築字堂田	東礪波郡中田町大字上麻生村一一二九 長森長藏	自十月一日明治三十八年十二月三十一日迄

●富山縣告示第八十七號

明治三十八年十月十三日

左記漁業ヲ免許シ漁業原簿ニ登錄セリ

免許番號	漁業種類及名稱	漁業權者ノ氏名住所	期間
第一號	年月日及名稱	漁業權者ノ氏名住所	期間

●富山縣告諭第四號

明治三十八年六月二十三日

從來蠶繭ハ掻キ落ノ儘之ヲ賣買ニ附スルノ習慣ナリシモ上ノ屑、同切繭ヲ混同セハ屑繭ノ他ヲ汚穢スルコトアリ爲メニ價格上及ボス所ノ影響極カシサルヲ以テ宜シク精繭取引習慣ヲ養成シ賣買双者ノ利益ヲ謀ルヲ要ス

●富山縣告諭第六號

明治三十八年七月七日

明治三十六年十二月ニ發布シタル縣令第百二號米穀乾燥取締規則ハ本縣産米ノ品質ヲ良好ニスル爲メ稻ノ乾燥ヲ七日以上架干ニスヘキヲ本旨トシテ規定シタルモノナルモ土地ノ狀況架干ヲ爲シ難キモノニ限り特ニ郡市長ノ承認ヲ經テ地干ト爲スコトヲ得ルノ途ヲ開キ置ケリ然ルニ往々土地ノ狀況架干ヲ行ヒ得ルニ拘ラス地干ノ承認ヲ出願スル者アリ斯クテハ本縣産米ノ改良ハ之ヲ期シ難ク隨ツテ農家ノ福利ハ増進スル能ハサル次第ナレハ本年ハ今日ヨリ注意シテ架干ノ材料ヲ準備シ秋季收穫ノ時ニ至リテ當惑セム勉メテ架干ヲ實行シテ以テ本縣産米ノ聲價ヲ揚ケ利益ヲ享クル様心掛クヘシ

●富山縣告諭第七號

明治三十八年七月二十八日

本縣下ニ於ケル馬匹蕃殖ノ狀態ハ漸次改良ヲ加ヘツ、アリト雖モ未タ猶完全ノ域ニ達セリト云フヲ得ス殊ニ近來時局ノ發展ト産業ノ發達トヨリシテ軍用ニ農用ニ交通ニ馬匹ノ需用益々多大且緊切ヲ加フルニ及ヘリ依テ畜産ノ業ニ從フ者ハ此際一層馬種ノ改良ト蕃殖トニ銳意シ一面刻下ノ急要ニ應シテ補給ニ豐カナラシムルト共ニ一面ハ農家ノ需用ニ資シテ良好ノ効果ヲ舉グルニ至ラシメサル可ラス而シテ産牛馬組合設置ノ如キハ當業者ノ結合ヲ鞏固ニシ改良ノ實ヲ舉グル好手段タルヘキヲ以テ協力一致以テ之ヲ組織シ能ク之ヲ活動セシメテ適當ノ施設ヲ計畫實行シ依テ以テ斯業ノ隆盛ヲ期シ農家ノ福利ヲ増進スルニ至ランコトヲ努ムヘシ

○米穀検査

●富山縣令第九號

明治三十八年二月十七日

明治三十七年二月富山縣令第六號米穀検査規則中左ノ道改正ス

第一條 「生産スル」ノ四字ヲ削ル

第四條 中輸出スルモノノ下「付」ヲ「就キ」ニ訂止シ合格米ノ下「ハ三等」ノ三字ヲ削リ「申玄米ハ

三等ニ精米ハ四等」ノ十二字ヲ加フ

第七條ノ五項及六項ヲ左ノ如ク改ム

五 産米ノ俵裝ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

俵ハ乾燥セシ藁ニテ製シ四ヶ所編トシ重量四百五十匁以上トス
棧俵ハ乾燥セシ藁ニテ製シ徑九寸重量ハ五十匁以上トス

六 繩ハ能ク打子柔ケタル繩ヲ以テ製シ周リ八分以上トス横繩ハ四ヶ所各二廻リ結トシ緊縮ス
 縦繩ハ二筋ヲ以テ二方掛トシ悉ク横繩ニ引掛ケ四ツ目結トス
 輸出米ノ俵裝ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

俵造ハ二重トシ内俵ハ産米ノ俵裝ニ依ル外包ハ乾燥セシ藁莖ヲ用ヒ重量ハ三百匁以上トス
 繩ハ能ク打子柔ケタル繩ヲ以テ製シ摺掛ケトナス
 横繩周リ八分以上トシ五ヶ所各二廻リ結トス縦繩ハ周リ一寸以上トシ二筋ヲ以テ四方掛ケ
 トシ悉ク横繩ニ引掛ケ四ツ目結トシ充分ニ緊縮ス

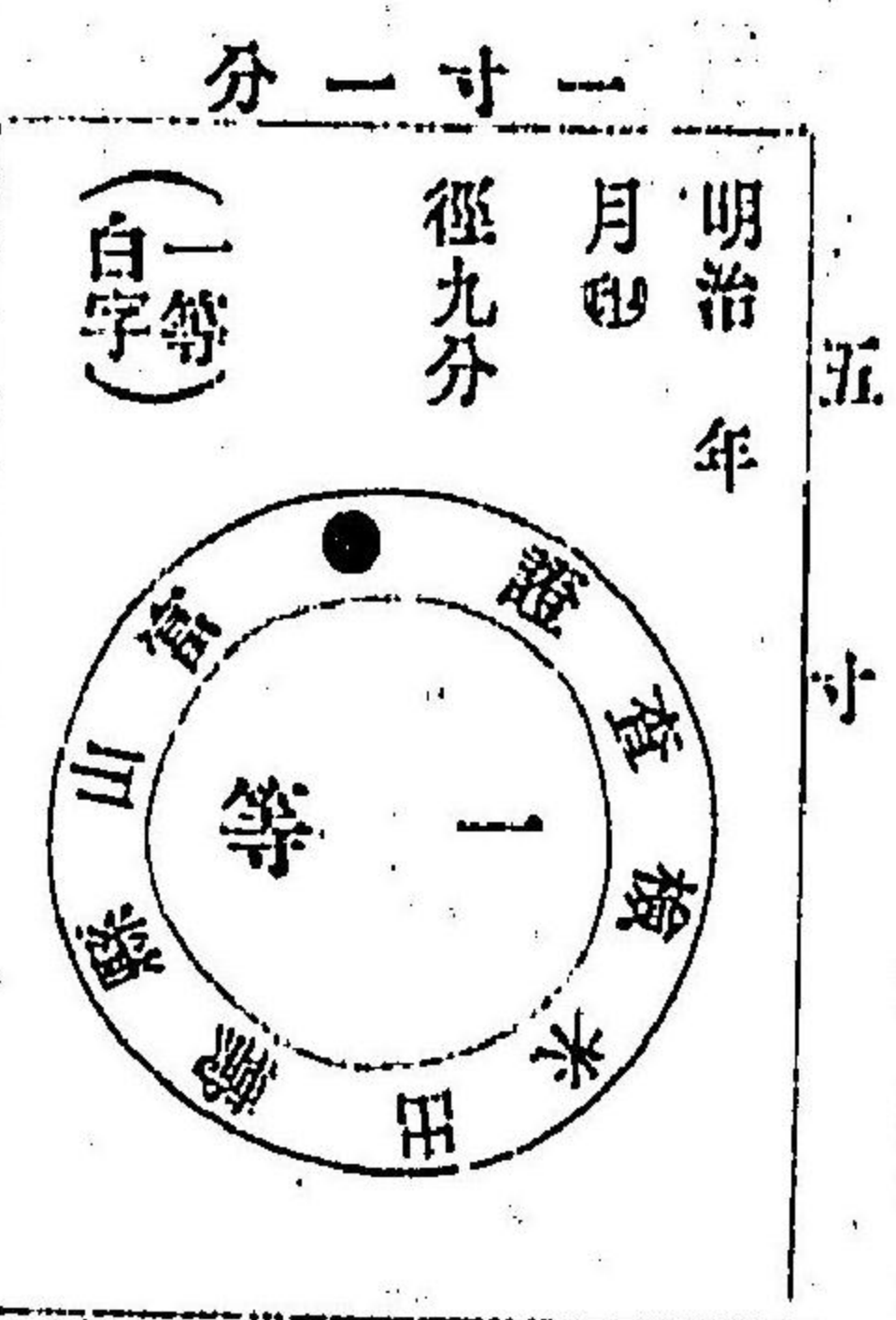
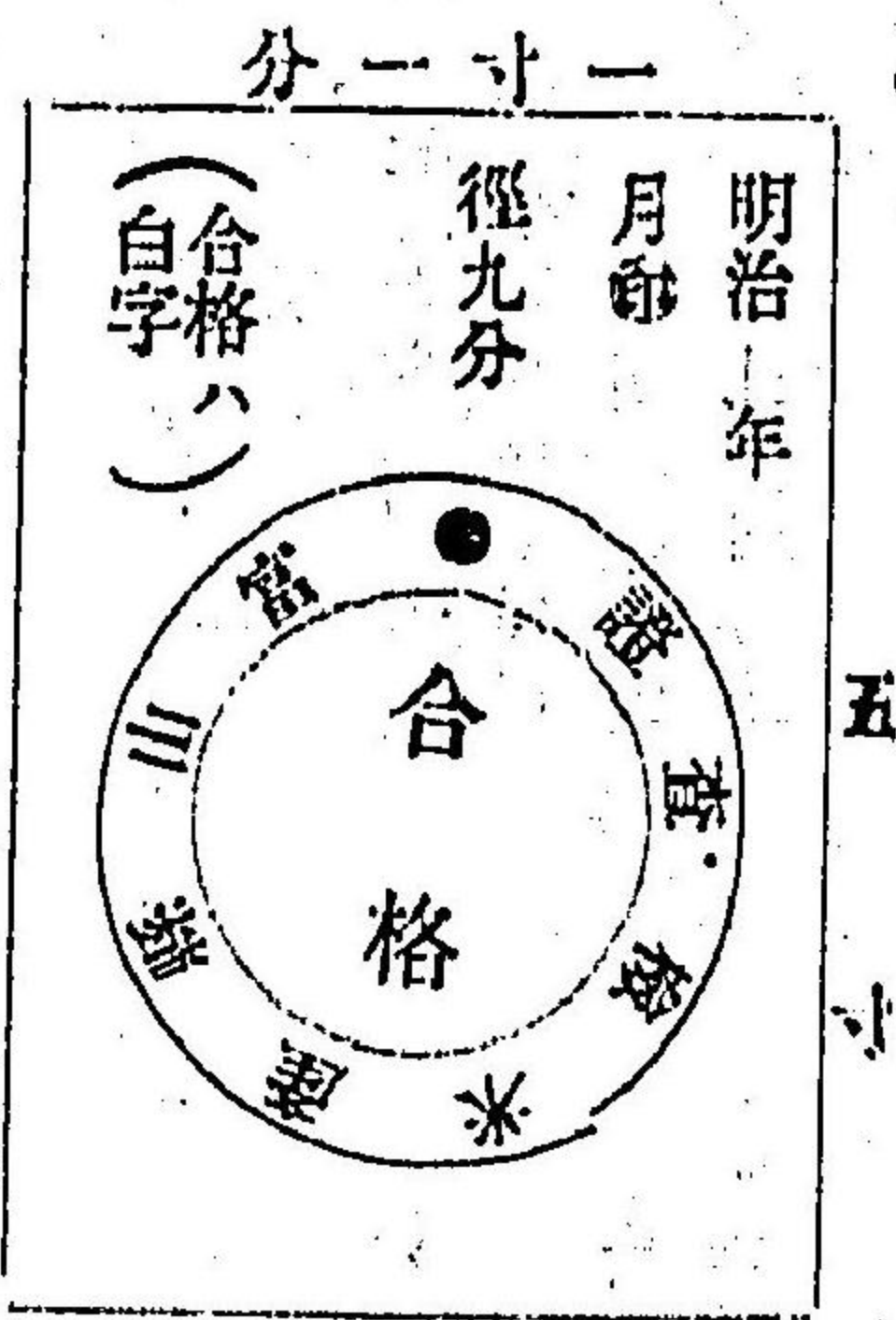
第七條 次ニ左ノ一條ヲ追加シ以下順次繰下ケ
 第八條 産米ノ検査ヲ受ケントスル者ハ左ノ様式ニ依リ票箋ヲ俵口ノ結繩ニ結付シ米穀検査員ノ
 檢印ヲ受ケヘシ

厚紙又ハ寒冷紗 約 七 寸

明治何年産米
 何年何月
 市町村名
 氏名
 名

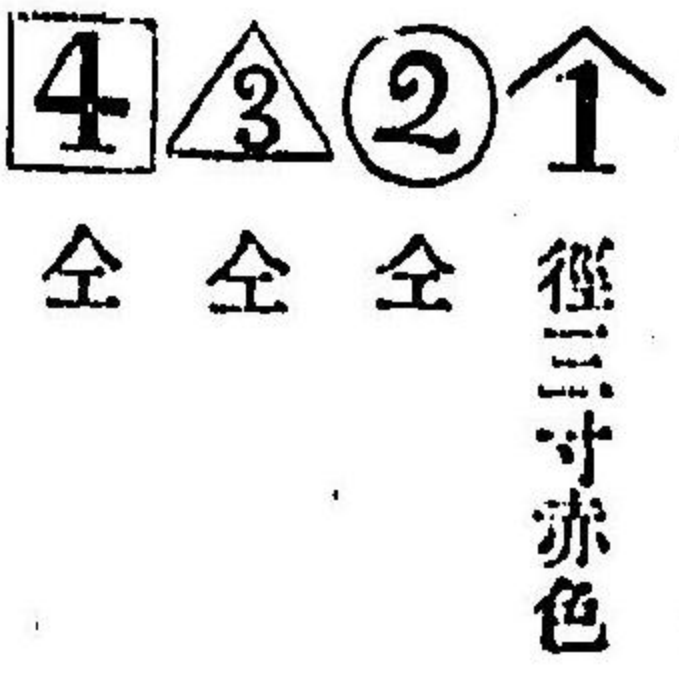
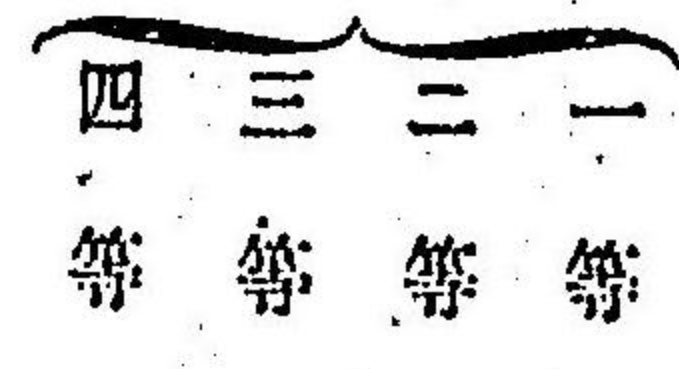
第九條中以テノ下俵ノ兩口ノ掛ノ六字ヲ削リ縦ノ一字ヲ加フ
 第十一條中證票及證印ノ雜形中左ノ如ク改ム

證票



二等 票以 下一 等ニ 準ス

輸出米検査合格印



第十二條中改俵ノ下「シタル」ノ三字ヲ削リ「」ノ一字ヲ加フ第二項證票ノ下「」ノ一字ヲ削リ「
 票箋ノ亡失若ハ」ノ七字ヲ加フ

第十三條 産米検査ヲ受ケントスル者ハ左ノ書式ニ依リタル願書ヲ最寄米穀検査出張所ニ差出ス
 へシ

(願書式)
 産 米 檢 査 願

何年産 何俵

一、粳(糯)玄(精)米 此検査料金何程

所在地

何郡市町村大字番地

右産米御検査相成度料金領收證書貼付此段奉願候也

住所

年月日

何

誰

富山米穀検査所何出張所

御中

第十四條 輸出米検査ヲ受クントスル者ハ左ノ書式ニ依リタル願書ヲ其ノ検査ヲ受クヘキ日ノ五

日前ニ最寄米穀検査出張所ニ差出スヘシ

但シ至急ヲ要スル場合ハ此限ニアジス

(願書式)

輸出米検査願

何年産

一、粳(糯)玄(精)米

此検査料金何程

所在地

仕向地

何郡市町村大字番地 何府縣又ハ港灣名

右輸出米御検査相成度料金領收證書貼付此段奉願候也

年月日

住所

何

誰

富山縣米穀検査所何出張所

御中

第二十三條中第八條ヲ第九條ニ第十二條ヲ第十三條ニ第十八條ヲ第十九條ニ第二十一條ヲ第二十

二條ニ改メ第六項ヲ削ル

第二十五條 産米ニ關スル規定ハ第七條及第二十三條ヲ除クノ外明治三十八年生産米ヨリ施行ス

第二十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加シ以下順次繰下ク

第二十六條 第七條ノ五項六項及第十一條ノ證印ニ關スル改正ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ

施行ス但シ證印中精米ノ四等ニ限リ本令發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

●富山縣令第二十三號

明治三十八年五月十二日

明治三十七年二月 富山縣令第六號米穀検査規則第二十四條第一項中「輸出シタル者」ノ下「若ハ輸出

セントスル者」ノ下「字ヲ加フ

●富山縣令第二十四號

明治三十八年五月十九日

明治三十七年八月 富山縣令第四十三號富山縣米穀検査監督員及検査員ノ服制中左ノ通追加ス

一 正服上衣袖章ノ欄内「單線ヲ加」ノ下「フ」ノ一字ヲ削リ「ヒ米銀二個ヲ附ス」ノ八字ヲ加フ

一 帽徽章ノ欄内「監督員ハ」ノ下、黒蛇腹(巾二分三線ヲ施シ)ノ十一字ヲ加フ

●富山縣令第三十二號

明治三十八年七月十四日

米穀検査手数料納付手續左ノ通改止ス

米穀検査手数料納付手續

- 第一條 米穀検査手数料ハ検査出願前米穀検査出張所若ハ町村役場(米穀検査出張所々在地ノ町村役場ヲ除ク)在勤ノ縣出納吏ニ納付シ其ノ領收證書ヲ受ケハシ
- 第二條 町村役場ニ於テハ輸出米検査手数料ノ收納ヲ取扱ハズ
- 第三條 領收證書ハ検査願書ノ餘白ニ貼付シ願面名下ノ印ト同一ノ印ヲ以テ証票ノ上部ト下部トニ願面ヘ掛ケ消印スヘシ
- 第三條 納付シタル手数料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス手数料領收証票ノ使用期限ハ發行ノ日ヨリ滿一年限トス
- 第四條 領收証票ニ記載スル金員ノ數字ニハ一、二、三、十、廿、卅ノ字体ヲ用フヘカラス
- 第五條 領收証票ノ様式ハ別記書式ニ依ルヘシ
- 第六條 町村吏員ニ縣出納吏ヲ命シ米穀検査手数料ノ收納事務ヲ取扱ハシムル町村ヘハ其ノ收納金額ノ(百分ノ五)ヲ交付ス

附 則

- 第七條 本令ハ明治三十八年八月十一ヨリ施行ス
- 第八條 本令施行前既ニ發行シタル米穀検査手数料領收証票ハ發行ノ日ヨリ滿一ケ年間効力ヲ有ス

備考 産米検査手数料領收証票ハ白地輸出米検査手数料領收証票ノ背地トス

領收証票 明 治 三 十 八 年 八 月 十 一 日 付 出 納 吏 何 某 金 員 何 某 納 入 何 某 出 納 吏 印		領收証票 明 治 三 十 八 年 八 月 十 一 日 付 出 納 吏 何 某 金 員 何 某 納 入 何 某 出 納 吏 印	
--	--	--	--

●富山縣訓令第三號

明治三十八年一月二十日

米穀検査所 米穀検査出張所
米穀検査出張所在勤

縣出納吏 縣金庫

米穀検査手数料領收證票再發取扱方左ノ通相定ム

米穀検査手数料領收證票再發取扱方

- 第一條 米穀検査手数料領收證票ヲ滅失又ハ紛失ノ故ヲ以テ再渡方申出ツルモノアルトキハ事實ヲ審査シ相違ナシト認ムルトキハ更ニ領收證票ヲ調製シテ之ヲ交付シ滅失又ハ紛失ノ證票ハ無効トス但シ紛失ノモノハ再渡請求書ニ警察官署へ届出濟ノ旨ヲ記載セシムヘシ
 - 第二條 前條ニ依リ更ニ調製スル證票ノ番號ハ通常ノ分ト區別シ再發第何號ト記載スヘシ
 - 第三條 領收證票ヲ再發シタルトキハ書式ニ依リ各米穀検査出張所へ通報スヘシ
 - 第四條 米穀検査出張所ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ該報告書ハ別ニ編綴シ置キ該滅失又ハ紛失ノ證票ニ相當スル證票ヲ貼付シテ受檢ヲ出願スルモノナキヤ否ヤヲ注意スヘシ
 - 第五條 紛失ノ申出アリタル證票ヲ發見シタル旨申出ツルモノアルトキハ該證票ヲ取立テ適宜之ヲ棄却スヘシ
 - 第六條 滅失又ハ紛失ノ申出アリタル證票ヲ貼付シテ受檢ヲ出願スルモノアルトキハ其ノ事實ヲ詳查シ該願書ハ却下シ領收證票ハ適宜棄却方取計フヘシ
- 但シ犯罪ノ證憑物件トシ其ノ他必要アルトキハ相當ノ處置ヲ爲スヘシ
前項ノ取扱ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ顛末ヲ米穀検査所長ニ報告スヘシ

(書式)

米穀検査手数料領收證票再發通報

納人住所氏名	事故	無効	證票	再渡	證票
	金	額	年月日	番號	年月日

右ノ通當所ニ於テ發シタル米穀検査手数料領收證票無効ニ歸シ再發致候條此段及通報候也

年 月 日

何々米穀検査出張所 (何々縣金庫)

何米穀検査出張所宛

●富山縣訓令第十八號

明治三十八年四月七日

内務部 米穀検査所

明治三十七年四月富山縣訓令第三十五號富山縣米穀検査所規程中左ノ通追加ス

第二條中書記ノ次ニ助手ヲ加フ

第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第七條ヲ第八條ニ繰下ク

第七條 助手ハ所長ノ命ヲ受ケ米穀検査ノ事務ヲ助ク

富山縣訓令第四十三號

明治三十八年七月十四日

郡 役 所
米穀検査所 米穀検査出張所
町村役場 縣 金 庫

米穀検査手数料取扱方左ノ通改正ス

米穀検査手数料取扱方

- 第一條 米穀検査出張所及町村役場ニ縣出納吏ヲ置キ手数料ノ收納ヲ取扱ハシム
- 第二條 町村收入役(米穀検査出張所々在地ノモノヲ除ク)ニ縣出納吏ヲ命ス
- 第三條 縣出納吏検査手数料ノ納付ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク領收証票ニ金額納人名發行年月日番號ヲ記入捺印シテ納入ニ交付シ原符ハ之ヲ留置クヘシ
- 番號ハ年度毎ニ之ヲ改ムヘシ
- 第四條 縣出納吏ハ第一號書式ノ現金出納簿ヲ備ヘ料金ノ出納ヲ登記スヘシ
- 第五條 收納シタル手数料ハ隨時第二號書式ノ拂込書ヲ添ヘ縣金庫ニ拂込ムヘシ但シ甲月分ト乙月分トヲ混同シテ拂込ヲ得ス
- 收納金額百圓ニ達シタルトキハ二日以上留置クコトヲ得ス
- 第六條 米穀検査出張所諸縣出納吏ハ第三號書式ノ收納報告書ヲ製シ每一ヶ月分ヲ翌月五日以内ニ當廳ニ差出スヘシ
- 第七條 検査願書ニ貼付シタル手数料領收証票ハ調査ノ上消印スヘシ
- 第八條 検査願書ニ貼付シタル領收証票ハ之ヲ原符ニ對照シ何年何月何日使用済ト付記シ主任認

印スヘシ

- 第九條 米穀検査出張所ニ於テハ其ノ出張所以外ノ縣出納吏ニ於テ發シタル領收証票ヲ貼付シテ検査ヲ出願シタルモノアルトキハ第四號書式ニ依リ每一ヶ月分ヲ翌月五日迄ニ其ノ發行シタル縣出納吏ニ報告スヘシ
- 前項ノ報告ヲ受ケタル縣出納吏ハ該報告ニ依リ前條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十條 縣金庫ニ於テ第五條ノ拂込ヲ受ケタルトキハ米穀検査出張所縣出納吏ノ拂込ニアツテハ縣知事ニ町村役場縣出納吏ノ拂込ニアツテハ當該郡長ニ報告スヘシ
- 第十一條 町村役場ハ第五號書式ニ依リ一ヶ月毎ニ縣金庫ヘ拂込ミタル金額ヲ翌月五日迄ニ當該郡長ニ報告スヘシ
- 第十二條 郡長ハ第十一條ノ報告書中縣出納吏ノ受領高ヲ調定額、縣金庫ヘ拂込高ヲ收入額トシ縣稅外諸收入ニ屬スル收入簿ニ記載整理スヘシ但シ第十條ノ報告ハ之ヲ第十一條ノ報告ト照合スヘシ
- 第十三條 町村役場ニ於テ使用スル領收証票用紙ハ米穀検査出張所ヨリ之ヲ交付ス
- 第十四條 領收証票用紙ニ押捺スル縣出納吏ノ印ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ



徑七分

(第一號書式)

現金出納簿

備考 町村役場ニ於テハ本式ニシ和式ト爲スモ妨ケナシ

年月日	摘要	受	拂	残
	何月分合計			
	累計			

通知書

領收証書

込拂書

(第二號書式)用紙適宜 縦四寸五分 横三寸三分 ノモノ三枚接續

<p>第何號 何年度 拂込人 何々出張所(何々役場)</p> <p>雜收入 手数 數料 米穀検査手数數料</p> <p>一金何程</p> <p>右收入済ニ付通知候也</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>富山縣知事(何某殿)</p> <p>富山縣知事(何某殿)</p> <p style="text-align: right;">縣金庫印</p>	<p>第何號 何年度 拂込人 何々出張所(何々役場)</p> <p>雜收入 手数 數料 米穀検査手数數料</p> <p>一金何程</p> <p>右領收候也</p> <p>明治何年何月何日</p> <p style="text-align: center;">縣金庫印</p> <p style="text-align: right;">富山縣金庫印</p>	<p>第何號 何年度 何々出張所(何々役場)</p> <p>雜收入 手数 數料 米穀検査手数數料</p> <p>一金何程</p> <p>右拂込候也</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>何々米穀検査出張所(何々役場) 何々米穀検査出張所(何々役場)</p> <p>何町村役場(何某) 何町村役場(何某)</p> <p style="text-align: center;">縣金庫印</p> <p style="text-align: right;">何某(印)</p>
---	--	---

(第五號書式)

明治何年何月中米穀検査手数料受拂報告書

金 何 程	前月拂込未済高
金 何 程	本月中受領高
但シ領收証票第何號ヨリ第何號迄ニ對スル分	
合計金何程	
内	
金 何 程	本月中縣何々金庫へ拂込高
差 引	
金 何 程	拂込未済高

右ノ通り受拂相違無之此段及報告候也

明治何年何月何日

縣出納吏

何々町村收入役 何 某 印

何郡長何某殿

●富山縣訓令甲第五十八號

明治二十八年十月六日

郡 役 所 町 村 役 場

町村役場在勤縣出納吏交替ノ場合ニ於ケル出納検査ノ規程左ノ通相定ム

町村役場在勤縣出納吏交替検査規程

- 第一條 郡長ハ町村役場在勤縣出納吏(收入役)交替ノ届出ヲ受ケタルトキハ郡書記ヲシテ前任者取扱ニ係ル現金ノ出納ヲ検査セシムヘシ
- 第二條 出納吏取扱期間ノ數年度ニ渡ルモノハ郡長又ハ検査員ニ於テ特ニ必要ヲ認ムル場合ノ外交替前年度以降ノ出納ヲ検査スヘシ
- 第三條 検査員ノ検査スヘキ事項左ノ如シ
 - 一 現金出納簿ト領收証票原符、各庫領收證書、受拂報告書トノ照査
 - 二 現在取ノ檢定
 - 三 手数料取扱方第八條及第九條ノ手續ノ整否
 - 四 領收証票用紙保管出納ノ整否
- 第五條 検査員ハ出納及關係事務ノ簿冊ヲ檢閲シ其ノ他必要ト認ムル書類ノ提出ヲ求メ又ハ口頭若ハ書面ヲ以テ出納吏ノ辨明ヲ求ルコトヲ得
- 第六條 検査員ニ於テ検査上發見シタル事項ハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ
 - 一 重大ノ事項ト認ムルトキハ其ノ顛末及意見ヲ速ニ郡長ニ報告スヘシ郡長ハ必要ト認ムルトキハ知事ニ急報スヘシ
 - 二 粗誤怠慢又ハ規定ニ背戾スル取扱ニ關シ注意ヲ促スノ必要アルカ若ハ責任者ノ答辯ヲ確ムルノ必要アルモノハ注意書又ハ推問書ヲ發スルコトヲ得
 - 三 輕微ノ事項ニシテ直ニ更正シ得ラル、モノ、外取消シ又ハ更正セシムヘキモノアルモ直接之カ指揮ヲ爲スヘカラス
- 第七條 検査了了シ不都合ナキトキハ現金出納簿ニ明治何年何月何日迄檢了ト記載シ検査員記名

調印スヘシ

第八條 検査員検査ヲ終リタルトキハ關係書類ヲ添付シ郡長ニ詳細復命スヘシ

第九條 郡長ハ検査員ノ復命ニ依リ検査後三日以内ニ書式ニ依リ検査報告書ヲ調製シ知事ニ提出スヘシ

(書式)

検査報告書

- 一 検査員氏名及検査月日
郡書記何某何月何日檢了
前任者元何々町村收入役何某
後任者何々町村收入役何某
前任者何月何日迄
- 二 前後縣出納吏氏名
前年度中領收金額何程
同 拂込金額何程
本年度何月何日迄 領收金額何程
同 拂込金額何程
差引 現在金額
- 三 取扱分界
- 四 取扱金額
- 五 検査ノ成績
検査ノ狀況概要ヲ摘記スヘシ不都合ノ點アリ又ハ前年度以前ニ廻リ調査シタルトキニ其ノ詳細ヲ掲クヘシ

右及報告候也

年 月 日

知事 宛

郡長 氏名 印

●富山縣訓令甲第六十八號

明治三十八年十一月十日

郡市役所 町村役場

産米検査實施ニ付テハ豫メ各町村米穀ノ收穫高石數ヲ查覈シ尙地利ノ便否集散ノ狀況ヲモ斟酌シ本年六月告示第百十八號ヲ以テ米穀検査出張所及駐在所ノ名稱位置ヲ定メ一町村若ハ二三町村ヲ一區域トシ以テ検査員ヲ駐在セシメ可成生産者ノ便利ヲ計ランカ爲メ各自ノ居宅ニ就キ検査セシムル方針ヲ取レリ然ルニ實施後ノ狀況ヲ觀察スルニ時々繁閑アルモ今ヤ逐日米穀搬出ノ最盛期ニ赴キ各町村検査ノ出願數日々數百俵ノ多キニ達スルコトアリ此ノ場合ハ検査員ヲシテ交互應援ヲ爲サシムル等臨機ノ措置ヲ怠ラス努メテ検査ノ敏捷ヲ計ルハ勿論ナリト雖トモ限リアル検査員ヲ以テ到底一般受檢者ノ希望ヲ滿タシ難キ虞ナキヲ保セス若シ之カ爲メ検査ニ遲延ヲ來シ時機ヲ失シ損失ヲ招クカ如キコトアリテハ甚ダ遺憾トスル所ナリ故ニ此際各町村ニ在テハ大字町村毎ニ一ヶ所若ハ二三ヶ所ノ検査場ヲ設ケ二十俵以下ノ俵米ハ可成集合検査ヲ受ケシムル等便宜ノ方法ヲ講シ以テ検査ノ進捗ヲ計ラシムヘシ

●富山縣告示第十七號

明治三十八年二月二十四日

明治三十七年二月 富山告示第二十四號米穀検査員及米穀検査所書記採用規則中左ノ通改正ス

第二條 米穀検査ノ採用試験ハ左ノ科目ニ就キ之レヲ行フ

- 一、作文 (通俗文、記事文)
- 二、筆蹟 (楷、行)
- 三、算術 (四則) 珠算若ハ筆算
- 四、米質ノ鑑定

志願者中左記各號ノ一ニ該當スル者ハ第一號乃至第三號ノ試験ヲ要セム

一、農學校、中學校、商業學校ノ卒業生又ハ之レト同等以上ノ學校ヲ卒業シタル者

二、一ケ年以上列任文官ノ職ニ在リタル者

三、普通文官試験ニ合格シタル者

四、陸海軍滿期下士及陸海軍兵ニシテ下士適任證書ヲ有スル者

五、公立小學校正教員タルノ資格ヲ有スル者

六、巡査看守ニケ年以上在職シタル者

七、二ケ年以上縣郡市町村事務ニ従事シタル者

八、二ケ年以上米穀検査事務ニ従事シタル者

第二條ノ二 博覽會、共進會又ハ縣郡市ノ開催ニ係ル品評會ノ米穀審査員トナリタル者ハ前條ノ試験ヲ要セム

第四條 米穀検査所書記ノ採用試験ハ左ノ科目ニ就キ之レヲ行フ

- 一、作文 (通俗文、記事文)
- 二、筆蹟 (楷、行)
- 三、算術 (四則) 珠算若ハ筆算

志願者中左記各號ノ一ニ該當スル者ハ前項ノ試験ヲ要セム

一、農學校、中學校、商業學校又ハ之レト同等以上ノ學校ヲ卒業シタル者

二、一ケ年以上列任文官ノ職ニ在リタル者

三、普通文官試験ニ合格シタル者

四、陸海軍滿期下士及陸海軍兵ニシテ下士適任證書ヲ有スル者

五、公立小學校正教員タルノ資格ヲ有スル者

六、二ケ年以上巡査看守ノ職ニ在リタル者

七、二ケ年以上縣郡市町村ノ事務ニ従事シタル者

第八條中「身体健全徵兵ニ相當セス且」ノ十二字ヲ削ル

第九條中「内務部第四課」ノ六字ヲ削リ「米穀検査所」ノ五字ヲ加フ

第十條中「身分職業」ノ四字ヲ削リ「志願者」ノ下「族籍」ノ二字ヲ加ヘ「及」ノ下「免役延期豫備徵

員一年志願兵等」ノ十四字ヲ削リ「兵役」ノ二字ヲ加フ

第十五條中「當廳ヨリ志願者ニ通知スヘシ」ノ十三字ヲ削リ「富山縣報」ヲ以テ告示ス「ノ十字ヲ加フ

第十七條中「試験合格者」ノ六字及「金五圓以上」ノ五字ヲ削リ「保證人」ノ下「二名」ノ二字ヲ加フ

第十八條中「兵役ニ關スル」ノ六字ヲ削ル

富山縣告示第百十八號

明治三十八年六月三十日

明治三十七年八月富山縣告示第百五十三號米穀検査出張所ノ名稱位置左ノ通改正ス

三十八年五月十一日

三十八年七月三十一日
三十八年八月三十一日
三十八年九月三十一日
三十八年十月三十一日
三十八年十一月三十一日
三十八年十二月三十一日

但シ新設ニ係ル出張所及駐在所ハ本年八月一日ヨリ開始ス

出張所名稱	位	置	検査員駐在所	管轄區域
富山出張所	富山縣廳構内		堀川村	富山市(愛宕元町ヲ除ク)堀川村
			山室村	山室村
			奥田村	奥田村
			東吳羽村	東吳羽村 櫻谷村 富山市愛宕元町
			新庄町	新庄町 島村 廣田村
			太田村	太田村
			熊野村	熊野村
			蛭川村	蛭川村
			月岡村	月岡村
			大庄村	大庄村 上瀧町 大山村
			大久保村	大久保村 大澤野村 下夕村
			新保村	新保村

				船峠村	船峠村 福澤村
				豊田村	豊田村
				大廣田村	大廣田村 東岩瀬町
				針原村	針原村
				濱黒崎村	濱黒崎村
東岩瀬出張所	上新川郡東岩瀬町		四方町	四方町 倉垣村 八幡村	
			寒江村	寒江村	
			西吳羽村	西吳羽村 長岡村	
			草島村	草島村 百塚村	
			西加積村	西加積村	
			中加積村	中加積村	
			北加積村	北加積村	
			東加積村	東加積村	

早月加積村	早月加積村
濱加積村	濱加積村
下條村	下條村
滑川出張所	中新川郡滑川町
西三郷村	東三郷村 西三郷村 西水橋町
東水橋町	東水橋町 滑川町
宮川村	宮川村
相ノ木村	相ノ木村
上市町	音杉村 上市町 白萩村
南加積村	南加積村 山加積村
上條村	上條村
上段村	上段村 東谷村
柿澤村	大岩村 柿澤村 弓庄村
五百石町	五百石町 高野村
下段村	下段村
五百石出張所	中新川郡五百石町

寺田村	寺田村
舟橋村	舟橋村 利田村
釜ヶ淵村	大森村 釜ヶ淵村 立山村
下野方村	魚津町 上野方村 下野方村
上中島村	下中島村 上中島村 松倉村
魚津出張所	下新川郡役所管内
加積村	片貝谷村 加積村
經田村	天神村 經田村 道下村
西布施村	西布施村 東布施村
生地町	生地町 村椿村
若栗村	若栗村
荻生村	荻生村
蒲山村	蒲山村 下立村 内山村
石田村	石田村 三門市町
三門市出張所	下新川郡三門市町

泊出張所	下新川郡泊町	青木村	飯野村	青木村	舟見町	野中村	山崎村	舟見町	愛本村	大家庄村	泊町	南保村	宮崎村	境村	五箇庄村	前澤村	田家村	大布施村	大布施村						
		入善町	入善町	上原村	新屋村	小摺戸村	横山村	梶山村																	
		八尾町	野積村	八尾町	黒瀬谷村	村卯花村	仁步村	細入村																	
		保内村	内保村																						
		古里村	古里村																						
		千里村	富川村	千里村																					

長澤出張所	婦負郡古里村	熊野村	熊野村	熊野村	速星村	速星村	速星村	神明村	池多村	古澤村	池多村	朝日村	朝日村	杉原村	杉原村	音川村	音川村	山田村	下関村	下関村	野村	野村	二塚村	二塚村	佐野村	佐野村	西條村	西條村	横田村	西條村	二上村	守山村	守山村
高岡出張所	高岡市一番新町	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	守山村	

伏木出張所	射水郡伏木町	掛開發村	能町村
新湊出張所	射水郡新湊町	掛開發村	能町村
		水戸田村	水戸田村 二口村
		櫛田村	櫛田村
		金山村	金山村 橋下條村
		大門町	大門町 淺井村
		塚原村	牧野村 塚原村
		作道村	作道村 新湊町(新庄川以 西ヲ除ク)
		片口村	片口村 堀岡村
		海老江村	海老江村 打出本江村 七美村
		下村	下村
		大島村	大島村
		小杉町	小杉町 大江村
		老田村	老田村 黒河村
		掛開發村	伏木町 新湊町(新庄川以 東ヲ除ク)

氷見出張所	氷見郡役所構内	阿尾村	氷見町 阿尾村 藪田村 八代村
		宇波村	宇波村 女良村
		稻積村	基石村 余川村 加納村 稻積村
		上庄村	上庄村 熊無村 速川村 久目村
		布勢村	佛生寺村 布勢村 神代村
		十二町村	十二町村
		宮田村	窪村 宮田村 太田村
		出町	出町
		五鹿屋村	五鹿屋村
		中野村	中野村
		太田村	太田村 柳瀬村
		南般若村	南般若村 北般若村
		油田村	油田村
出町出張所	東礪波郡役所構内	庄下村	庄下村

福野出張所		東礪波郡福野町		高瀬村	井口村	井波町	野尻村	東野尻村	廣塚村	南野尻村	林村	戸出町	鷹栖村	雄神村	般若村	梅檀野村	中田町
				高瀬村	井口村	井波町	野尻村	東野尻村	廣塚村	福野町	林村	戸出町	鷹栖村	雄神村	般若村	梅檀野村	中田町
						南山見村				南野尻村		是戸村		梅檀山村		般若野村	

福光出張所		西礪波郡福光町		津澤町	青島村	山野村	廣瀬館村	廣瀬館村	廣瀬館村	石黒村	西野尻村	東石黒村	吉江村	東太美村	城端町	蓑谷村	大鋸屋村	南山田村
				津澤町	青島村	山野村	西太美村	廣瀬館村	廣瀬館村	南盤谷村	西野尻村	東石黒村	吉江村	東太美村	城端町	蓑谷村	大鋸屋村	南山田村
							廣瀬館村			石黒村			太美山村	北野村		平村		
						利賀村										上平村		

石動出張所 西礪波郡役所管内	北蟹谷村	東蟹谷村	石動町	子撫村	埴生村	敷波村	水島村	松澤村	若林村	正得村	荒川村	福光町	北山田村	山田村
	北蟹谷村	東蟹谷村	石動町 南谷村	子撫村 宮島村	埴生村	敷波村	水島村	松澤村	若林村	正得村	荒川村	福光町	北山田村	山田村

福岡出張所 西礪波郡福岡町	西五位村	山王村	大王村	大瀧村	高波村	醍醐村	福田村	立野村	國吉村	赤丸村	小勢村
	西五位村 五位山村	山王村	大王村	大瀧村	高波村	醍醐村	福田村 東五位村	立野村 福岡町	國吉村	石堤村 赤丸村	小勢村

●富山縣告諭第二號

明治三十八年二月二十七日

米穀ノ改善ニ伴ヒ之レカ俵裝ノ改良モ亦必要ニ屬セリ故ニ明治三十六年十二月
 豫メ俵裝ノ方法ヲ發表シタリ亞テ米穀検査規則ヲ發布シ之レカ俵裝ノ規定ヲ明記シタルニモ拘ハ
 ラス輸出検査實施後ノ今日ニ於ケル狀況ニ徴スルニ稍ヤ改良ノ實蹟見ルヘキモノアリト雖モ尙ホ

内依ニ在ツテハ規定ニ背反シ製造俵装一定セサルモノアルヲ認ム又外包莖ニ於ケルモ粗製澁造ノモノ頗ル多シ又縦横繩ノ如キハ細小ニシテ堅牢ナル緊約ニ耐ヘサルモノアルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ抑モ米穀ノ俵造俵装ハ倉庫貯藏及運搬上何レモ堅牢ヲ要スルハ言ヲ俵タサルヘシ苟モ俵装ノ粗製ナルモノヲ用ウルトキハ貯藏取扱上ハ勿論運搬ニ際シ自然縦横緊約繩切斷解俵セラル、ノ虞アリ且ツ俵装及莖等ニ損傷ヲ及ボスニ至ルハ數ノ免レサル所ナリ然ルトキハ之レカ爲メ脱米ヲ生シ容量ニ不足ヲ告グルト改造等ノ勞力費用ヲ要スル爲メ他ノ損害擧テ鮮少ナラサルヘシ以上ノ事實ナルニ依リ當業者宜シク茲ニ鑑ミ今ヤ俵造ノ期ニ際會セルニ依リ注意スルヲ要ス殊ニ本年産米ヨリ生産ノ検査施行ト俱ニ俵装ノ規定ヲ左記標準ノ如ク改正セントス當業者豫メ之レカ準備ヲナシ検査ニ際シ差支ヘサル様深ク留意シ米穀ノ改善ト相俵ツテ將來一層改良ニ努力シ他日遺憾ナキヲ期スヘシ

俵装ノ標準

一 産米ノ俵装方法左ノ如シ

- 俵
 - 長四 二寸 幅二尺五寸五分
 - 重量四百五拾匁以上
 - 封ハ四ヶ所編トシ各五寸五分編繩ハニゴ繩ヲ用キ莖ハ乾燥セルモノヲ能ク「スグリ」テ用ウヘシ
- 棧俵
 - 直径九寸
 - 重量五拾匁以上乾燥セル莖ヲ能ク「スグリ」テ用ウヘシ

繩 能ク柔ケタル莖ニテ製シ周リ八分以上トシ横繩ハ四ヶ所二廻リ縦繩ハ二筋ヲ以テニ方掛トス

一 輸出米ノ俵装方法左ノ如シ

- 内俵
 - 長四尺九寸 幅十七目(二尺三寸)トス
 - 重量三百匁以上
 - 織方ハ乾燥セル莖ヲ能ク「スグリ」テ一筋乃至二筋織トス
- 外包莖
 - 能ク打チ柔ケタル莖ヲ以テ絢ヒ摺掛トシ周リ八分以上ニ製シタルモノヲ用キ五ヶ所各二廻リトス
- 横繩
 - 能ク打チ柔ケタル莖ヲ絢ヒ摺掛クトシ周リ一寸以上ニ製シタルモノヲ用キ五ヶ所各四方掛トス
- 縦繩
 - 能ク打チ柔ケタル莖ヲ絢ヒ摺掛クトシ周リ一寸以上ニ製シタルモノヲ用キ二筋ヲ以テカガリ方
- 繩ハ横繩ト同一ノモノヲ用キ八ヶ所以上摺ヒテ皿目掛トス

○會社

●富山縣告示第二十八號

明治三十八年三月十日

富山商業會議所議員半数改選及補欠員ノ選舉ヲ行フ其ノ投票ノ日時場所及選舉スヘキ議員ノ員數左ノ如シ

- 一 選舉ヲ行フヘキ日時
 - 明治參拾八年參月貳拾七日午前八時ヨリ同日午後參時迄 第參級選舉
 - 同年同月貳拾八日午前八時ヨリ同日午前九時迄 第壹級選舉
 - 同年同月同日午前拾時ヨリ午後參時迄 第貳級選舉

一 選舉スヘキ議員ノ員數 拾七名 (内貳名ハ補欠員)
 一 選舉ヲ行フヘキ場所 富山市南新町七十七番地 清源寺

●富山縣告示第六十號

明治三十八年四月七日

左記ノ者富山商業會議所議員ニ當選セリ

二ノ井 彌三郎
 吉田 外次郎
 小泉 爲次郎
 永井 爲次郎
 松原 信敏
 岩田 伊兵衛
 吉川 傳四郎
 高桑 安次郎
 柴草 松太郎
 關野 善次郎
 稻垣 善三郎
 小谷 忠助
 磯好 吉平

三十八年四月十四日正誤

補欠員 福井 伊八郎
 岡部 榮太郎
 同上 近江 萬次郎
 藤藏

● 第九類 ○ 社 寺

● 富山縣訓令甲第六十四號

明治三十八年十月二十七日

郡市役所 町村役場

明治二十八年^九月本縣訓令第百二十五號社寺總代人規程第三條ヲ左ノ通改正ス

第三條 社寺總代人ハ其ノ當選届出ノ日ヨリ起算シ滿三年毎ニ改選スルモノトス但シ再選スルモ妨ケナシ

前項届出ノ日ヨリ滿三ケ年ヲ經過スルモ後任者當選届出ノ日マテ總代人タル資格ヲ失ハサルモノトス

● 富山縣訓令甲第七十四號

明治三十八年十二月二十二日

郡市役所 町村役場

神社寺院等移轉許可ヲ得タルモノハ滿二年以内ニ移轉シ其ノ建物巨大ニシテ工事數年ニ渉ル可キモノハ期限滿了前更ニ狀ヲ具シ期限ヲ定メ出願許可ヲ受ヘシ若シ右期限ヲ過キ移轉セサルトキハ其ノ許可ヲ取消ス

前項移轉許可取消ノ際ニ於テ既ニ從來ノ境内地及其ノ建物其他ニ賣却等ノ爲メ在來ノ場所ニ存立スルコト能ハサルモノハ移轉許可取消ノ日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院ハ管

長副書ヲ以テ届出ルヲ要ス其ノ方法確實ト認ムルモノニ限り建築ノ爲メ滿二ケ年間ノ猶豫ヲ與フルコトアルヘシ若シ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ届出テ又ハ滿二ケ年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヨリ削除ス

前二項ノ旨趣ハ所轄内神社寺院等ヘ示達方取計フヘシ

三十一年八月十四日告示
第七百四十四號
更七號以テ

第十類 ○兵 事

●富山縣告示第四百二十二號

明治三十八年八月十一日

管下立野原砲兵射撃場ニ於テ本月十八日ヨリ同二十一日迄實彈射撃演習施行ニ關シ野戰砲兵第九聯隊補充大隊ヨリ左ノ通り通牒アリ

- 一 射撃施行ノ當日ハ射撃開始若干時前ニ於テ號砲一發ヲ發ス
- 二 射撃施行ノ當日ハ射撃高所ニシテ見易キ所ニ若干ノ赤旗ヲ掲ケ此赤旗アルトキハ號砲ヲ開カサル時ト雖モ射撃スルモノト心得ヘシ
- 三 射撃ハ立野原ノ東北端附近ヨリ南山田村大字西原北方高地附近ニ向テ施行ス故ニ此矢先ハ最モ危険タルヘシ
- 四 射撃施行中ハ立野原警戒線内ヘ立入ルヘカラス
但シ原内ニ通スル道路ノ要所ニハ射撃中通行禁止ノ制札ヲ植立シ尙ホ最要點ニハ哨兵ヲ置クヘシ
- 五 射撃ノ施行セサル時ト雖モ砲兵彈藥庫ハ勿論厩舎等火害ノ恐レアル場所ニ近寄ルヘカラス
- 六 發射シタル彈丸ハ決シテ拾取スヘカラス若シ全彈ヲ發見シタルトキハ同隊ヘ其ノ所在ヲ届出ツヘキモノトス(全彈内ニハ九子及炸藥ヲ填實シアルヲ以テ頗ル危険ナレハナリ)

●富山縣告示第四百七十八號

明治三十八年九月二十九日

明治三十九年度舞鶴鎮守府管内ニ於テ徵募セシルヘキ海軍志願兵ノ兵種ハ左記ノ通り有之候ニ依リ志願ノ者ハ本年十一月十日迄ニ左ノ書式ニ依リ願書ヲ郡市長(郡内居住者ハ町村長ヲ經山)ニ差出スヘシ但シ未成年者ニアリテハ民法第八百八十一條ニ依リ父母ノ許可書ヲ添付スルヲ要ス

水兵、木工、機關兵、看護、主厨
書式

海軍志願兵採用願

何府何郡何町何番地
何縣何市何村何番地

何府何郡何町何番地
何縣何市何村何番地

族籍某何男又ハ何々

職 業 何

某

年齡明治三十九年十二月三十一日

ニ於テ何年何月何日

出生地(郡何市何町何番地)何番地(現住地ニ同シ)

右ハ海軍水兵(機關兵又ハ何々)志願ニ付御検査ノ上御採用相成候様其筋ヘ御申立被成下度戸籍謄本及履歷書相添此段奉願候也

年 月 日
郡(市)長 宛

右 何 某 印

追テ第二希望ハ何々
備考 志願者年齢制限

水	兵	工
機	兵	主
關	關	看
		木

兵 十九年一月二日生ヨリ
 兵 二十三年一月一日生マテ 満十七歳以上二十一歳未滿
 工 二十四年一月二日生ヨリ
 厨 二十三年一月一日生マテ 満十七歳以上二十六歳未滿

履歷書ニハ必ス左記事項ル記載スヲコト

- 一 既往志願回数及成績 何回乙合格、活量不足又ハ何々
- 二 陸軍兵役關係ノ有無 補充兵何兵(教育召集ヲ受ケタルヤ否)又ハナシ
- 三 教育程度 尋常小學校卒業又ハ高等小學校何年修業又ハ何々
- 四 氏名ニハ振リ假名ヲ附ス 何 某
- 五 其ノ他就職等ニ關スル事項

●富山縣告示第二百十九號

明治三十八年十二月八日

本年九本縣告示第七十八號明治三十九年度舞鶴鎮守府管内ニ於テ徵募セラルヘキ海軍志願兵ハ
 兵種中へ軍樂生ヲ追加セラレタリ
 前項軍樂生ノ願書差出期日ハ本月二十日迄トス

備考

軍樂生 二十一年一月二日生ヨリ 満十六年以上十九年未滿
 二十四年一月一日生迄

● 第十一額 ○ 教 育

● 富山縣令第十號

明治三十八年三月三日

明治三十七年三月 富山縣令第十一號富山縣立中學校規則中左ノ通改出ス

第三條 第一項中族籍以下二十九字ヲ削リ「戶籍謄本ヲ添ヘ」ノ七字ニ代ヘ但書ヲ削ル

第五條 第一項中保證人ハノ上ニ「正副」ノ二字ヲ冠シ且左ノ但書ヲ加フ
但シ法定代理人アルモノハ副保證人ヲ設ケサルコトヲ得

第十一條ニ左ノ一項ヲ加ヘ元第一項ヲ二項トス
學校長ハ校務ノ申告ニ由リ生徒ニ休學ヲ命スルコトヲ得

第二十一條 但書中「許可ヲ得タル者ハ其ノ」ノ十字ヲ削リ「者ハ其ノ休學ノ」ノ七字ヲ加フ

第二十八條中每學年以下ヲ削リ「學校長之ヲ定メ知事ニ報告スヘシ」ノ十五字ヲ加フ

第二十九條 補習科ノ修業期間ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第三十條 補習科ニ入學セントスルモノハ第一號書式ニ準シ四月十五日限り學校長ニ出願スヘシ

第三十一條ノ二 全項削除
第三號書式 收入印紙ノ金高ヲ參錢トス

● 富山縣令第十三號

明治三十八年三月二十四日

明治三十六年十二月 富山縣令第九十三號小學校令施行細則第四百二十二條ニ左ノ二項ヲ追加ス

本科正教員ニシテ師範學校卒業者ノ俸給ハ男九級上俸女十級上俸以上トス
尋常小學校本科正教員ノ月俸額ハ當分八圓ニ減給スルコトアルヘシ

● 富山縣令第十四號

明治三十八年三月二十四日

明治三十六年三月 富山縣令第二十八號富山縣立農學校規則第六條中夏季休業ノ下「三週間」トアルヲ

「自八月一日」トシ第九條ニ左ノ一項ヲ加フ
至八月三十一日

學校長ハ夏季休業ノ期間ニ於テ生徒ヲ數組ニ分テ交互ニ實習ニ從事セシムヘシ

● 富山縣令第十五號

明治三十八年三月二十九日

明治三十二年八月 富山縣令第四十二號富山縣立工藝學校規則左ノ通改正ス

富山縣立工藝學校規則

第一章 總 則

第一條 本校ハ工業學校規程ニ從ヒ工藝ニ從事セントスル者ニ必須ノ教育ヲ授クルヲ以テ目的トス

第二條 本校ニ本科別科及專攻科ヲ置ク

第三條 本校ノ實科ハ木工金工漆工及ヒ圖案トシ生徒ヲシテ其ノ一科ヲ專修セシム

第四條 修業年限ハ本科別科ハ各四ケ年トシ專攻科ハ二ケ年トス
 第二章 學科課程及教授時數
 第五條 本科及別科ノ學科課程及每週教授時數左ノ如シ
 本科課程表

科	學									
	修身	國語	數學	物理化學	歷史	博物	解剖	圖案	圖畫	英語
第一年度	一 人倫道德ノ要旨	六 讀書 習字	三 算術		二 日本歷史	一 博物大意			七 自在畫 用器畫	三 音讀 譯解
第二年度	一 同上	三 讀書 習字 作文	三 代數	三 化學	二 東洋歷史	一 同上		二 圖案	五 同上	三 音讀 譯解
第三年度	一 同上	二 讀書 習字 作文	四 代數 幾何	四 化學 物理	二 西洋歷史			二 同上	五 自在畫	三 同上
第四年度	一 同上	二 讀書 習字	一 幾何	五 同上	一 工業史			二 解剖大意	四 同上	三 音讀 譯解

科	實					合 計
	體操	木工	金工	漆工	圖案	
第一年度	二 普通體操 兵式體操	一四 木工術	一四 金工術	一四 漆工術	一四 圖案繪畫 用器畫	三九
第二年度	二 同上	一四 木彫刻 指物	一四 同上	一四 同上	一四 同上	三九
第三年度	二 同上	一四 同上	一四 同上	一四 同上	一四 同上	三九
第四年度	二 同上	一四 同上	一四 同上	一四 同上	一四 同上	三九

別科課程表

科	目			
	第一年度	第二年度	第三年度	第四年度
修身	一 人倫道德ノ要旨	一 同上	一 同上	一 同上
國語	七 讀書 習字 作文	七 同上	六 同上	六 同上

解剖科ハ圖案及木工ノ木彫刻金工ノ原型ヲ修ムルモノニ第四年ニ於テ一週二時ヲ課ス
 國語科ノ習字ハ圖案科ヲ修ムル生徒ニ限リ第一及第二年ニ於テ一週各二時ヲ課ス
 圖案科ヲ修ムル生徒ニハ圖案圖畫ノ學科ハ實科トシテ之ヲ課ス
 實科ハ木工ハ第二年以上ノ生徒ニ木彫刻ト指物トノ二科ニ分チテ其一ヲ專修セシメ金工ハ第三年以上ノ生徒ニ原型用機金工及鑄金ノ三科ニ分チ漆工ハ同夕糝漆描金ノ二科トシ各之ヲ專修セシム

學科	實科		學科		數學	四則度量衡	小數	分數	百分算	比例	日本地理	日本歷史	物理	化學	日本地理	日本歷史	求積	比例	
	工	工	工	工															
圖畫	六	自在畫	六	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二
體育	二	普通體操	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二
木工	一〇	木工術	一五	木彫刻	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七
金工	一〇	金工術	一五	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七
漆工	一〇	漆工術	一五	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七	同上	一七
合計	三四		三九		三九		三九		三九		三九		三九		三九		三九		三九

第四年ノ國語及地理ハ隨意科トシ之ヲ修メサルモノノ時數ハ實科ニ充用ス
 實科專修方ハ本科ニ同シ
 第六條 專攻科ハ其ノ生徒ノ修メタル實科ニ就キ專修セシム但シ其ノ教授時數ハ每週三十九時トス
 第七條 學校長ハ日ノ長短ニ依リ每週教授時數ヲ三十六時迄減スルコトヲ得
 第三章 學年學期及休業日

第八條 學年ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス
 第九條 學年ヲ分テ左ノ三學期トス
 第一學期 自四月二日至八月三十一日
 第二學期 自九月一日至十二月三十一日
 第三學期 自一月一日至三月三十一日
 第十條 休業日ハ左ノ如シ
 春季休業 學年試驗後一週日
 夏季休業 自七月二十一日至八月三十一日
 冬季休業 自十二月二十五日至翌年一月七日
 祝日 大祭日 日曜日 創校紀念日
 教育ニ關スル勅諭下賜紀念日
 第四章 入學在學休學及退學
 第十一條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始メヨリ三十日以内トス但シ欠員アルトキハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
 募集生徒ノ種類及員數ハ其ノ都度之ヲ定ム
 第十二條 入學スルコトヲ得ル者ハ男子ニシテ品行方正身體健康且左ノ資格ヲ有スル者スルヘシ
 本科第一年
 一 年齡滿十四年以上ニシテ修業年限四ヶ年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者若クハ國語、算術、日本歷史、地理、理科ノ諸教科ニ於テ修業年限四ヶ年ノ高等小學校卒業程度以上ノ學力ヲ有スル者

二 中學校第二年修了以上ノ者

三 本校別科卒業ノ者ニシテ全部ノ學科ヲ修メタル者別科第一年

一 尋常小學校卒業ノ者若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有セル者
 入學試験ヲ要セサル者ハ他ノ志願者ニ先テ入學ヲ許スモノトス
 入學試験ヲ要セサル者ノ員數募集員數ニ超過スルトキハ試験ニ依リ之レヲ撰拔ス
 撰拔試験ハ本料ハ國語算術理科及圖畫別科ハ國語算術ニ就キ之ヲ行フモノトス
 本料及別科共第二年級以上ノ補欠入學ハ相當年齡以上ノ者ニシテ前各學年ノ程度ニヨリ其ノ各學科目ニ就キ試験ヲ行ヒ之ヲ許可ス
 専攻科ニ入學スヘキ者ハ本校本科卒業生ニ限ル

第十三條 本校退學生徒ニシテ一ケ年以内ニ再入學ヲ志願シタルトキハ試験ニ依ラスシテ同一學年以下ノ學年ニ入學セシムルコトヲ得

第十四條 入學志願ノ者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書學科卒業書ハ寫ヲ添付スヘシ
 添付スヘシ
 添へ出願スヘシ

學校長ハ性行不良其ノ他ノ事由ニ依リ入學ヲ許スヘカシサルモノト認メタル者ノ願書ハ之ヲ却下スルコトヲ得若シ入學許可ノ後ニ於テ其ノ事由ヲ認知シタルトキハ其ノ許可ヲ取消コトヲ得

第十五條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ一ケ月以内ニ第三號書式ノ在學證書ニ保證人ノ印鑑ヲ添へ差出スヘシ若シ期限内ニ差出ササルトキハ學校長ハ其ノ登校ヲ停止スヘシ但シ登校停止ノ日ヨリ二週間ヲ經過スルモ尙差出ササルトキハ入學ノ許可ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第十六條 保證人ハ本人ト同籍内ニアラサル成年以上ノ男子ニシテ獨立ノ生計ヲナシ生徒ノ身上ニ關シテ一切引受クルニ足ルヘキモノトス

保證人死亡シ又ハ前項ノ資格ヲ失ヒタルトキハ直ニ相當ノ保證人ヲ立テ在學證書ヲ更止スヘシ

第十七條 保證人旅行一ケ月以上ニ涉ルトキハ相當代理人ヲ立テ直ニ學校長ニ届出ツヘシ

保證人轉居改印改名等ノ事故アルトキハ一週日以内ニ學校長ニ届出ツヘシ

第十八條 保證人ニシテ其ノ責ヲ盡ササルトキハ學校長ハ之ヲ變更セシムヘシ

第十九條 學校長ハ校醫ノ申告ニ依リ生徒ニ休學ヲ命スルコトヲ得
 生徒疾病ノ爲メ三ケ月以上缺席シ尙引續キ修學スルコト能ハサルトキハ法定代理人及保證人連署醫師ノ診斷書ヲ添へ學校長ノ許可ヲ受ケ休學スルコトヲ得但シ休學期間ハ缺席ノ始ヨリ起算シ一ケ年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十條 生徒疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ記シタル願書ニ法定代理人及保證人連署學校長ニ差出スヘシ

第二十一條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ミナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ミナシト認メタル者

三 引續キ一ケ年以上欠席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上欠席シタル者

第五章 修了及卒業

第二十二條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム但シ正當ノ事由アリテ試験ニ欠席シタルモノノ爲メ特ニ試験後二週日以内ニ於テ追試験ヲ行ヒ又ハ平素學業ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第二十三條 試驗ヲ分テ學期末及學年末ノ二種トス

學期末試驗ハ第一學期及第二學期ノ終リニ於テシ學年末試驗ハ每學年ノ終リニ施行ス
學年間八百時ニ充タサル出席者ニハ學年末試驗ヲ施行セス但シ平素成績優等ナル者ニ限り特ニ
試驗ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十四條 各學科目ノ學期評点及學年評点ヲ考査シテ學年成績ヲ定メ各生徒ノ及第落第ヲ判定
シ及第者ハ學年ヲ進メ落第者ハ猶原學年ニ留メシム

第二十五條 本科及別科ヲ卒業シタル者ニハ第四號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

第二十六條 専攻科ノ生徒ニハ試驗ヲ行ハス平素ノ成績ヲ考査シテ左ノ證書ヲ授與ス

一 一年以上修業シタル者ニハ第五號書式ノ修業證書

二 修業年限ノ全部修了シタル者ニハ第六號書式ノ卒業證書

第二十七條 在學中品行方正成績優等ナリシ者ニハ卒業ノ際第七號書式ノ証明書ヲ付與ス

第二十八條 每學年ノ生徒學業成績ハ其ノ都度保証人ニ報告ス

第六章 授業料及特待生

第二十九條 本科及専攻科ノ生徒ハ授業料ヲ徴收ス

第三十條 授業料ハ一ヶ月金五拾錢トシ毎月五日(四月及一月八十五日)迄ニ納附スヘシ但シ納期
後入學シタル者ハ其ノ時々納附スヘシ

第三十一條 授業料ハ日割計算ヲ爲サス又全月欠席スルモ之ヲ免除セス但シ學校定例ノ休業及臨
時休業ニ依リ其ノ月全ク授業セサルトキ又ハ休學ノ者ハ其ノ休學ノ翌月ヨリ出席ノ前月迄之ヲ
徴收セス

第三十二條 授業料ノ滞納者ハ其ノ期間授業ヲ受クルヲ得ス

第三十三條 本科第二年以上ノ生徒ニシテ品行方正學術優等ナル者ヲ特待生ト爲シ其ノ學年間授
業料ヲ免除スルコトアルヘシ

特待生ノ員數ハ本科第二年以上各學年三名以内トス

第三十四條 特待生ニシテ其ノ面目ヲ損スル行為アリト認ムルトキハ直ニ之ヲ免スヘシ

第三十五條 生徒ノ法定代理ハニシテ授業料ヲ納付セサルトキハ保證人ニ於テ納付ノ義務ヲ負フ
モノトス

第七章 生徒心得及賞罰

生徒心得及賞罰

第三十六條 生徒ハ教育ニ關スル勸諭ノ趣旨ヲ奉體シ其ノ實踐躬行ヲ努ムヘシ

生徒ハ諸般ノ規則命令ヲ遵守シ師長ノ指導訓誨ニ服従スヘシ

第三十七條 學校長ハ生徒ノ品行方正ニシテ他ノ模範タルニ足ル者又ハ成績優等ナル者ニ賞品又
ハ賞狀ヲ附與スルコトヲ得

第三十八條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フヘシ

第三十九條 懲戒ヲ分テ譴責謹慎停學ノ三トス

一 譴責ハ叱責ニ止ム

二 謹慎ハ七日以内ノ期限ヲ以テ通學生徒ニ在リテハ放課後之ヲ拘止シ寄宿生徒ニ在リテハ外
出ヲ禁ス

三 停學ハ一ヶ年以内昇校ヲ停止ス

第四十條 生徒校有ノ物品ヲ亡失毀損シ又ハ汚染シタル者ハ其ノ情ニ依リ全部又ハ一部ヲ辨償セ
シムルコトアルヘシ

第八章 寄宿舍

第四十一條 生徒ハ設備ノ許ルス限りニ於テ本校内ニ寄宿セシムルモノトス

附 則

第四十二條 本則施行ニ關スル教授細目及細則ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第四十三條 本則ハ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス

第四十四條 本則施行以前ニ於テ入學シタル本科生徒ノ學科課程ハ學校長ニ於テ適宜意見ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘク其ノ別科生徒ノ修業年限及學科課程ハ従前ノ規則ニ依ル

第一號書式

入 學 願

某 儀

御校本科(別科專攻科)へ入學程度實科ハ何科へ御編入被成下度別紙履歷書及學業證書寫相添へ此段相願候也

年 月 日

住所族籍某長(二)男(戶主)

何

生 年 月 日

右父母又ハ后見人

何

生 年 月 日

富山縣立工藝學校長宛

第二號書式

履 歷 書

住所族籍某長(二)男(戶主)

何

生 年 月 日

學 事

一 何年何月ヨリ何學校ニ入り何年何月何學年卒業又ハ修業

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何誰ニ就キ何々學ヲ修ム等

職 業

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何々營業

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何々方ニ於テ何々業ニ従事又ハ見習

一 父兄ニ就キ何々營業ヲ補助ス

賞 罰

一 何年何月何日何々ノ件ニ付何々賞受領

一 何年何月何日何々ノ件ニ付何處罰ヲ受ク

右私履歷ニ相違無之候也

年 月 日

何

某 印

第三號書式

在 學 證 書

某 儀

在學中御校規則及命令ヲ堅ク遵守可致ハ勿論濫リニ退學等致間敷又在學中本人ニ係ル一切ノ事ハ保證人并ニ法定代理人ニ於テ連帶引受ケ可申候依テ證書如斯候也

年 月 日

住所族籍某長(二男(戶主))

何

住所族籍某父母又ハ後見人

生 年 月 日

職業 何

某 印

住所族籍

生 年 月 日

保證人 職業 何

某 印

富山縣立工藝學校長宛

右保證人ハ成年以上ニシテ當市(町村)内ニ於テ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

年 月 日

富山縣何市町村長 何

某 印

第四號書式

卒業證書

族籍

何

生 年 月 日

右ハ本校本科(別科)何科ノ課程ヲ卒業シタルヲ以テ茲ニ之ヲ證ス

學校長位勳 氏

名 印

第 何 號

年 月 日

第五號書式

修業證書

族籍

何

生 年 月 日

右ハ何年何月ヨリ何年何月マテ本校專攻科ニ於テ何科ノ實習ヲ專攻シタルニトシテ證ス

學校長位勳 氏

名 印

第 何 號

年 月 日

第六號書式

卒業證書

族籍

何

生 年 月 日

右ハ本校專攻科(修業年限二年)ニ於テ何科ヲ卒業シタルヲ以テ茲ニ之ヲ證ス

學校長位勳 氏

名 印

第 何 號

年 月 日

第七號書式

證明書

族籍

何

某

右ハ本學校在中品行方正ニシテ成績優等ナリシヲ以テ茲ニ之ヲ證明ス
年 月 日 學校長位勳 氏 名 印

生 年 月 日

●富山縣令第三十五號

明治三十八年八月十八日

明治三十七年二月富山縣令第九號富山縣立農學校附屬農業補習學校規則第七條第三號夏期休業二三週間ニテ「自八月一日」ト改正ス
至八月三十一日

●富山縣訓令甲第二十八號

明治三十八年五月十二日

郡 役 所 市 役 所
町 村 役 場 市 町 村 立 學 校

學校職員ニシテ召集ニ應スル場合ニハ同僚職員ハ進ンテ應召者ノ職務ヲ分擔スヘク管理者ハ經費ノ許ス範圍内ニ於テ成ルヘク優待ヲナス等便宜ノ處分ヲ執ルヘキ儀ハ曩ニ文部大臣ノ訓令ヨリ次キニ出征又ハ應召軍人ノ子女ニ對シテハ事情ノ許ス限り授業料ヲ減免シ又ハ學用品ヲ給與スル等ノ方法ヲ設ケ以テ後顧ノ患ナカラシムヘク本縣訓令ヲ發セリ爾來實施ノ狀況ヲ調査スルニ就學出席ニ關シテハ開戰前ニ比シ殆ト差異ナシト雖モ授業料ノ減免學用品ノ給與等ニ關シ訓令ノ趣旨普

ク貫徹セサルアリテ動モスレハ出席ニ影響セントスル傾キナキヲ保スヘカラス又教員ノ應召軍人ニ休職給ヲ支給スル如キハ甚タ少數ニシテ教員待遇上大ニ遺憾トスル所ナリ

右ハ市町村ノ實力ニ於テ實際止ムヲ得サル關係アルヘシト雖モ事情ノ許ス限り前訓令ノ趣旨ノ實行ニ努メ應召軍人ヲシテ後顧ノ患ナカラシムルト共ニ益々教育ノ發展ヲ期スヘシ

●富山縣訓令甲第四十號

明治三十八年七月七日

郡 役 所

學校林ノ設置ハ兒童教育上幾多ノ利益アルト兼子テ學校基本財産造成ノ一方法タルヲ以テ昨三十七年八月訓令甲第八十一號ヲ發シテ之ヲ獎勵シ其ノ實施ヲ期待セシカ爾來山地ニ富メル町村ニシテ尙ホ未タ之カ設置ヲ見サルノ多キハ寔ニ遺憾トスル所ナリ
今回ノ戰役ハ振古未曾有ノ事件ナルニヨリ此際學校林ヲ設置スルハ光輝アル戰捷ヲ永遠ニ傳フル好箇ノ紀念タルヲ以テ機ヲ逸セス關係町村ヲ督勵シ左記事項ノ標準ニヨリ造林ノ經營ニ一層力ヲ盡シ其ノ實行ヲ期スヘシ

記

- 一、紀念學校林ハ山地ニ富メル町村ニアリテハ一校ニ付成ル可ク面積壹段歩以上ヲ設置スルコト
- 二、林地ハ成ル可ク附近ノ大字共有地又ハ個人所有ノ山地ヲ無償ニテ借入レ又ハ篤志者ノ寄付

ヲ受クルコト

- 三、林地ハ成ル可ク緩傾斜ノ地ヲ擇ヒ急峻瘠惡ノ箇所ヲ避クルコト
- 四、苗木ハ滿三年生ニシテ發育健全ナルモノタルヘキコト
- 五、前項ノ苗木ハ所屬町村樹苗圃又ハ郡町村農會樹苗圃ヨリ寄付ヲ仰キ又ハ篤志者ノ寄贈ヲ受クルコト
- 六、植付クヘキ苗木ハ土地ノ狀況ニ應シ杉、扁柏、赤松、黒松、落葉松、樺ノ六種中ヨリ一種又ハ二種ヲ選擇スルコト
- 七、林地ノ地拵ハ成ル成ク兒童ノ父兄又ハ地方篤志者ニ對シ勞力ノ寄付ヲ求ムルコト
- 八、植付ハ學校兒童ニ爲サシムルコト
- 九、植付ハ成ル可ク本年秋季ヨリ着手スルコト
但シ秋季ハ十月下旬ヨリ十一月月上旬迄春季ハ三月中旬ヨリ四月上旬迄ノ間ニ於テ適宜施行スルコト
- 十、植付後苗木ノ枯損ニ歸シタルモノハ其ノ翌年ニ於テ補植ヲ爲スヘキコト
- 十一、植付地ノ草刈ハ毎年夏季學校兒童ニ爲サシムルコト
- 十二、紀念學林ヨリ生スル收入ハ之ヲ學校基本財産ニ編入スルコト
- 十三、植付ニ關スル諸般ノ準備ハ町村長ト學校長ト協力シテ之ヲ爲スコト
- 十四、學林ニハ標柱ヲ建設シ設置年月ハ學校名並戰捷紀念林タルコトヲ表示スルコト
- 十五、學林造成ニ關スル書類ハ能ク之ヲ整理シ永久之ヲ保存スルコト

●富山縣訓令甲第六十六號

明治三十八年十一月十日

縣立學校 市町村立小學校

學校ノ兒童生徒ヲシテ動植物ノ愛護育成ニ從事シ天然ノ風光ニ浴セシメ努メテ自然ニ接觸セシムルハ高尚ナル趣味ノ助長品性ノ陶冶、美的觀念ノ發揚勞動勉ノ習性ヲ養成スル等ノ點ニ於テ頗ル有効ナリ而シテ學校園ノ施設ハ此等ノ目的ヲ達スルニ優良ナル一方法ニシテ歐米諸國ニ於テハ既ニ之ヲ實施シテ好果ヲ收メツ、アリ本縣ニ於テモ近年其ノ必要ヲ認ムルニ至レルカ如キモ其ノ施設ノ尙微々タルハ甚々遺憾トスルトコロナリ依テ學校ニ於テハ土地ノ情況ニ應シ便宜ノ方法ニヨリ成ルヘク學校園ノ施設ヲナシ以テ自然物ノ觀察研究ト品性ノ陶冶養成ニ資シ教育ノ効果ヲ圓滿ナラシムルヲ期スヘシ

●富山縣告示第廿二號

明治三十八年一月十三日

本縣師範學校ニ於テ本年四月入學セシムヘキ本科生徒左記ノ通募集ス入學志願ノ者ハ明治三十七年三月富山縣令第十六號第七條及第八條ニ依リ本月末日限り該校長ニ出願スヘシ

- 一 生徒種別人員
男公費第一年生凡六十八人同私費生凡十八人
男公費第二年生及第三年生各若干人
- 一 入學試驗期日
本年二月十四日午前第八時ヨリ

●富山縣告示第三號

明治三十八年一月十三日

本年四月ヨリ開設スヘキ小學校教員講習科乙種第一類講習生女子凡四十八ヲ募集ス其ノ試験期日及場所ハ左記ノ通ニ付志願ノ者ハ本年二月十五日迄ニ本縣師範學校長ニ出願スヘシ

一 試験期日

本年二月二十七日午前第八時ヨリ

一 試験場所

富山縣師範學校内

●富山縣告示第二十號

明治三十八年三月三日

富山市總曲輪尋常小學校位置明治三十六年富山縣告示第三百三十二號ヲ以テ指定ノ處更ニ左ノ通追加指定ス

一 富山市

總曲輪三百九十六番地ノ一

市街宅地七坪九合八勺

同 三百九十七番地

同 百十五坪五合三勺

●富山縣告示第二十一號

明治三十八年三月三日

本縣々立各中學校ニ於テ來四月入學セシムヘキ第一年生徒左記ノ通募集ス志願ノ者ハ明治三十七年三月富山縣令第十一號富山縣立中學校規則第三條第一項ニ依リ願書ヲ認メ入學試験手数料金壹圓

縣金庫 相添ヘ來三月二十五日限最終在學ノ學校長ヘ差出スヘキ該學校長ハ同則第三條第二項ニ依リ調製スヘキ書類ヲ添付シ同月三十一日迄ニ生徒募集區域所屬ノ學校長ヘ回致スヘシ

入學スヘキ學校名	募集人員	入學試験日時	募 集 區 域
富山 中學校	凡ソ百人	自四月五日至同七日 午前八時ヨリ	富山市 上新川郡 婦負郡
高岡 中學校	凡ソ百人	同	高岡市 射水郡 氷見郡
魚津 中學校	凡ソ百人	同	東礪波郡 西礪波郡 中新川郡 下新川郡

●富山縣告示第二十四號

明治三十八年三月十日

本縣立高等女學校ニ於テ來ル四月ヨリ入學セシムヘキ生徒左記ノ通募集ス志願ノ者ハ明治三十四年四月富山縣令第四十四條及同三十六年二月富山縣令第二十三號ニ依リ本年三月廿五日迄ニ該校長ヘ出願スヘシ

一 募集人員

第一學年凡百三十名

一 入學試験期日

三月廿九日午前第九時ヨリ

●富山縣告示第二十五號

明治三十八年三月十日

本縣々立農學校及同分校ニ於テ四月ヨリ入學セシムヘキ生徒左記ノ通募集ス志願ノ者ハ明治三十
 六年三月三十一日以前富士縣令第二十八號縣立農學校規則第十三號及明治三十七年二月
 附屬農業補習學校規則第十條ニ依リ來ル四月五日限リ願書ヲ認メ蠶業本科志願者ハ分校ヘ其ノ他
 ノ志願者ハ本校ヘ差出スヘシ

募集生徒ノ種類員數及試験期日

- 一 農業本科第一年生 凡七十人
- 一 蠶業本科第一年生 凡三十五人
- 一 豫科第二年生 凡四十人
- 一 入學試験期日 四月十一日午前第九時ヨリ
- 一 附屬農業補習學校第一年生 凡三十八人

●富士縣告示第二十六號

明治三十八年三月十日

明治三十八年度富士縣小學校教員講習科乙種第一類講習學費補助金額ハ一ヶ月金四圓トス

●富士縣告示第二十七號

明治三十八年三月十日

來四月十日ヨリ本縣師範學校ニ於テ小學校教員講習科乙種第一類講習ヲ開設ス

●富士縣告示第四十三號

明治三十八年三月二十四日

明治三十八年四月ヨリ使用スヘキ小學校算術教科用書左ノ如シ
 文部省著作權所有

- 一、尋常小學算術書 教師用 四冊 各學年一冊宛
- 二、高等小學算術書 教師用 四冊 各學年一冊宛
- 三、高等小學算術書 兒童用 四冊 各學年一冊宛

●富士縣告示第四十五號

明治三十八年三月二十四日

本縣立工藝學校及附屬工業補習學校ニ於テ來ル四月ヨリ入學セシムヘキ生徒左記ノ通り募集ス志
 願者ハ本月三十一日限リ該校長ヘ出願スヘシ

但シ入學試験ハ四月四日ヨリ施行ス

募集生徒ノ種類員數

- 本科一年及別科一年生 約八十名
- 本科三年生補欠 三名内圖案繪畫科二名
金工科一名
- 工業補習學校一年生 約四十名

●富山縣告示第五十九號

明治三十八年四月七日

市町村立小學校教員試驗檢定ヲ施行ス受驗者ハ明治三十六年十二月十二日富山縣令第九十三號小學校令施行細則第八十六條ノ書類ニ同第九十四條ノ手数料ノ領收證ヲ添ヘ本年五月三十一日限り出願スヘシ

受驗者ニシテ受驗地ヲ變更セントスルトキハ六月五日迄ニ其ノ旨ヲ直チニ當廳内務部第三課ニ申出ツヘシ其ノ以後當廳ヘ到達ノ分ハ之ヲ受理セス

試驗施行ノ場所、日時割及受驗者心得ハ小學校教員檢定委員長之ヲ公告ス

試驗地

尋常小學校准教員

富山市、高岡市、下新川郡魚津町、東礪波郡福野町

尋常小學校本科正教員
 小學校准教員
 小學校專科正教員
 小學校本科正教員

富山市

●富山縣告示第百二十二號

明治三十八年六月三十日

明治三十八年度ニ於テ開設スヘキ小學校教員夏季講習會ノ講習學科、開會期限、教授時數、始業

時刻、開會場所、講習員資格、及講習員數等左ノ通相定ム

講習學科	開會期限	每週教授時數	始業時刻	開會場所	講習員資格	講習人員
工業	繪畫 七月二十一日ヨリ 陶案 八月九日マテ二十 彫刻 八月九日マテ二十	八時	午前八時	富山縣立 工業學校	本縣小學校在職本科訓導同 准訓導並圖書專科教員ノ男	男 二十四人 女 十六人
農業	肥料 八月一日ヨリ同二 昆蟲 八月二十日ヨリ同二 園藝 八月二十日ヨリ同二	二十四時	午前八時	富山縣立 農業學校	本縣小學校在職訓導同准訓 導ノ男女及農業專科教員	男 三十五人

備考

繪畫ハ臨畫寫生摸寫新案ノ描法及用器畫法並ニ練習及教授說明等
 陶案ハ意匠各種ノ摸樣法並ニ品物ノ製作法及鑑識法等
 彫刻ハ粘土彫刻ヲ課シ水澱法使用法彫刻法製物燒成法石膏造型法
 寒天利用造型法等

- 講習志望者ハ願書ヲ認メ郡市長ヲ經由シテ志望學科講習會會長(工業科ハ縣立工業學校長)ハ七月十五日限り出願スヘシ
- 講習會會長ハ前項ノ願書ニ就キ審査シ其ノ許否ヲ七月十八日限り知事ニ開申シ同時ニ本人ヘ通知スヘシ
- 講習員ノ心得左ノ如シ
 - 講習員タルヘキ許可ヲ得タルモノハ開會當日始業三十分前ニ會場ヘ參集スヘシ
 - 講習ニ關スル費用ハ自辨タルヘシ
 - 當該學校長ノ許可ヲ得テ寄宿スルコトヲ得
- 講習ヲ了ヘタルトキハ出席日數ヲ考査シ證明書ヲ授與ス

●富山縣告示第二百二十三號

明治三十八年七月七日

富山市西田地方町及上新川郡洲川村大字西田地方村ニ建築中ノ本縣師範學校寄宿舎ノ一部落成ニ付同校男生徒ヲ移シ授業ヲ開始ス

●富山縣告示第二百五號

明治三十八年十一月十七日

市町村立小學校教員試驗檢定ヲ本年十二月六日ヨリ左記場所ニ於テ施行ス受験者ハ明治三十六年十二月 富山縣令第九十三號小學校令施行細則第八十六條ノ書類ニ同第九十四條ノ手数料領收證ヲ添ヘ本年十一月三十一日限リ住所地ノ郡役所又ハ市役所ヲ經テ出願スヘシ

尋常小學校 准教員

富山縣師範學校内
下新川郡役所内
射水郡役所内

尋常小學校本科正教員

小學校 准教員

小學校 本科正教員

富山縣師範學校内

●富山縣告示第二百十七號

明治三十八年十二月八日

合名會社 國定教科書共同販賣所理事長大橋新太郎ヨリ富山縣ニ於ケル明治三十九年度以降使用ノ國定小學校教科用圖書特約販賣所ノ供給區域、位置、代表者氏名及取次販賣區域、取次販賣者ノ氏名左ノ通り届出テダリ

國定教科書特約販賣所

供給區域	特約販賣所位置	特約販賣所	代表者
富山縣	富山市東四十物町	中田書店	中田清兵衛
取次販賣區域等			
取次販賣區域	區	住	所
一 富山市	拾分ノ貳		
一 上新川郡第五區域	全部		
一 内 藤木尋常、小原尋常、西番尋常			
一 婦負郡第二區域	全部		
一 内 譯 古里尋常、東吳羽尋常、朝日尋常			
一 速星尋常、鶴坂尋常、富川尋常			
一 千里尋常、池多尋常、古澤尋常			
一 神明尋常、熊野尋常			
		富山市中町 清重堂	小林伊八郎

<p>一富山市 拾分ノ壹</p> <p>一上新川郡第三區域 全部</p> <p>內譯 福澤尋常、文珠寺尋常、和田尋常</p> <p>一婦負郡第三區域 全部</p> <p>內譯 月岡尋常、大庄尋常、上瀧尋常</p> <p>一婦負郡第二區域 全部</p> <p>內譯 湯村尋常、外輪野尋常、宿坊尋常</p> <p>鍋谷尋常、山田清水尋常</p>	同市越前町	螢雪堂	山本吉三郎
<p>一富山市 拾分ノ壹</p> <p>一高岡市 拾分ノ七</p> <p>一射水郡第一區域 全部</p> <p>內譯 大門尋常、佐野尋常、二塚尋常</p> <p>野村尋常、淺井尋常、二口尋常</p> <p>一射水郡第四區域 全部</p> <p>內譯 伏木尋常、能町尋常、掛開發尋常</p> <p>二上尋常、守山尋常、下關尋常</p> <p>西條組合尋常</p> <p>一西礪波郡津澤區域 全部</p> <p>內譯 津澤尋常、水島尋常、末友尋常</p> <p>數波尋常、東蟹谷尋常、內山尋常</p> <p>下川崎尋常、岩木尋常、菱輪尋常</p> <p>鷹栖尋常</p>	富山市太田口	聚星堂	守川吉兵衛
<p>一高岡市 拾分ノ七</p> <p>一射水郡第一區域 全部</p> <p>內譯 大門尋常、佐野尋常、二塚尋常</p> <p>野村尋常、淺井尋常、二口尋常</p> <p>一射水郡第四區域 全部</p> <p>內譯 伏木尋常、能町尋常、掛開發尋常</p> <p>二上尋常、守山尋常、下關尋常</p> <p>西條組合尋常</p> <p>一西礪波郡津澤區域 全部</p> <p>內譯 津澤尋常、水島尋常、末友尋常</p> <p>數波尋常、東蟹谷尋常、內山尋常</p> <p>下川崎尋常、岩木尋常、菱輪尋常</p> <p>鷹栖尋常</p>	高岡市守山町	學海堂	磯野小兵衛

<p>一同 福岡區域 全部</p> <p>內譯 藏野町尋常、東五位尋常、立野尋常</p> <p>大瀧尋常、山王尋常、上向田尋常</p> <p>土屋尋常、三日月尋常、淵ヶ谷尋常</p> <p>西廣谷尋常、赤丸尋常、石堤尋常</p> <p>島崎尋常、高辻尋常、頭川尋常</p> <p>出島尋常、全部</p> <p>一 同 戶 出島尋常、中島尋常、高波尋常</p> <p>是戶尋常、醍醐尋常、小勢尋常</p> <p>戶出尋常、戶出尋常</p>	高岡市 橫田町 片原町	文港堂	谷村外次郎
<p>一高岡市區域 拾分ノ參</p> <p>一上新川郡第一區域ノ内 堀川尋常</p> <p>一上新川郡第二區域ノ内 秋ヶ島尋常</p> <p>南中田尋常</p> <p>一上新川郡第四區域ノ内 岩瀬高等、岩瀬尋常</p> <p>大廣田尋常</p> <p>一中新川郡滑川區域 全部</p> <p>內譯 滑川尋常、濱加積尋常、早月加積尋常</p> <p>北加積尋常、東加積尋常、西加積尋常</p> <p>中加積尋常</p> <p>一中新川郡東水橋區域ノ内 西水橋尋常、下條尋常</p> <p>上條尋常、東西三尋常</p> <p>一中新川郡上市區域 全部</p>	富山市小泉町		中村平治
<p>一上新川郡第一區域ノ内 堀川尋常</p> <p>一上新川郡第二區域ノ内 秋ヶ島尋常</p> <p>南中田尋常</p> <p>一上新川郡第四區域ノ内 岩瀬高等、岩瀬尋常</p> <p>大廣田尋常</p> <p>一中新川郡滑川區域 全部</p> <p>內譯 滑川尋常、濱加積尋常、早月加積尋常</p> <p>北加積尋常、東加積尋常、西加積尋常</p> <p>中加積尋常</p> <p>一中新川郡東水橋區域ノ内 西水橋尋常、下條尋常</p> <p>上條尋常、東西三尋常</p> <p>一中新川郡上市區域 全部</p>	上新川郡東岩瀬町		山本佐七郎
<p>一中新川郡第一區域ノ内 堀川尋常</p> <p>一中新川郡第二區域ノ内 秋ヶ島尋常</p> <p>南中田尋常</p> <p>一中新川郡第四區域ノ内 岩瀬高等、岩瀬尋常</p> <p>大廣田尋常</p> <p>一中新川郡滑川區域 全部</p> <p>內譯 滑川尋常、濱加積尋常、早月加積尋常</p> <p>北加積尋常、東加積尋常、西加積尋常</p> <p>中加積尋常</p> <p>一中新川郡東水橋區域ノ内 西水橋尋常、下條尋常</p> <p>上條尋常、東西三尋常</p> <p>一中新川郡上市區域 全部</p>	中新川郡滑川町		高橋直基
<p>一中新川郡第一區域ノ内 堀川尋常</p> <p>一中新川郡第二區域ノ内 秋ヶ島尋常</p> <p>南中田尋常</p> <p>一中新川郡第四區域ノ内 岩瀬高等、岩瀬尋常</p> <p>大廣田尋常</p> <p>一中新川郡滑川區域 全部</p> <p>內譯 滑川尋常、濱加積尋常、早月加積尋常</p> <p>北加積尋常、東加積尋常、西加積尋常</p> <p>中加積尋常</p> <p>一中新川郡東水橋區域ノ内 西水橋尋常、下條尋常</p> <p>上條尋常、東西三尋常</p> <p>一中新川郡上市區域 全部</p>	中新川郡舟橋村		佐渡豊次郎

<p>一同 郡 第三區域 全部 新湊高等、打出水江尋常、七美尋常 內譯 海老江高等、片口尋常、堀岡高等 牧野尋常、塚原尋常、三日曾根尋常 放生津尋常、三夕新尋常、新湊尋常</p>	<p>一同 郡 井波區域 井波尋常、青島尋常、東山見尋常 內譯 湯山尋常、川原崎尋常、西院瀨見尋常 井口尋常、高瀬尋常、三浦尋常 山野尋常、種田尋常</p>	<p>一同 郡 東礪波郡城端區域 全部 城端尋常、山田尋常、示野尋常 內譯 是安尋常、新泉澤尋常、大鋸屋尋常 北野尋常、西明尋常、裝谷尋常 一同 郡 平原區域 全部 平原尋常、東中江尋常、利賀尋常 內譯 下梨校分場、東中江校分場、上平尋常 下梨校分場、東中江校分場</p>	<p>一同 郡 福野區域 全部 福野高等、福野尋常、北山田尋常 內譯 南野尻尋常、廣塚尋常、野尻尋常 一同 郡 般若區域 全部 般若尋常、中田尋常、雄神尋常 梅檀山尋常、東別所尋常、井栗谷尋常 梅檀野尋常、東般若尋常、般若野尋常</p>
同郡新湊新町	東礪波郡井波町	東礪波郡城端町	東礪波郡中田町
小柴源平	大谷辰二郎	小竹由次郎	青江宗七

<p>一同 郡 原野尋常 出町高等、出町尋常、南般若尋常 內譯 吉住尋常、春日吉江尋常、中野尋常 太田尋常、柳瀬尋常、油田尋常 庄下尋常、東野尻尋常、五郎九尋常 荒高屋尋常</p>	<p>一同 郡 西礪波郡石動區域 全部 石動尋常、宮島尋常、子撫尋常 內譯 荒川尋常、岩尾瀨尋常、安樂寺尋常 地生尋常、松澤尋常、金屋木江尋常 西中村尋常、正得尋常</p>	<p>一同 郡 福光區域 全部 福光尋常、砂子谷尋常、土山尋常 內譯 石黒尋常、廣瀬尋常、廣瀬宮尋常 西太美尋常、西太美山尋常、東太美尋常 吉江尋常、東石黒尋常</p>	<p>一同 郡 水見郡水見區域 拾分、七 水見郡水見町 同 同 同 同</p>	<p>一同 郡 下新川郡三日市區域 內 三日市尋常、尾山尋常、田糶尋常 內譯 田家尋常、村椿尋常、大布施尋常 前澤尋常、秋生尋常、若栗尋常 浦山尋常、(各五分)</p>	<p>一同 郡 富山市 六步 中田書店</p>
東礪波郡出町	西礪波郡石動	西礪波郡福光	水見郡水見町	下新川郡三日市	富山市
神澤理一	千島茂右衛門	堅田伊三郎	櫻田與作	清水健一郎未成年 二親権者 谷村 下	布瀬善次郎 塚原彦平

●第十二類 ○警察 察

●富山縣令第四號

明治三十八年一月二十日

林野火入取締規則左ノ通相定ム

明治二十一年三月三十一日 富山縣令第五十一號 山野火入取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

林野火入取締規則

第一條 森林法施行細則第十二條ニ依リ森林内ニ火入ヲ爲サシカ爲メ警察官署ノ許可ヲ受ケントスル者ハ其ノ住所氏名及左記ノ圖面并事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出ツヘシ
一 火入地ノ町村及字名、地番號、反別、隣接地トノ距離并其ノ地目ヲ記シタル圖面、
二 火入ノ目的
三 火入ノ日時
四 防火ノ方法

第二條 森林ニ隣接スル地ニ火入ヲ爲サントスル者ハ前條ニ準シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

第三條 火入地周圍ノ幅三間以上ハ火入前ニ柴草其ノ他ノ可燃物ヲ除去シ又ハ土堤堀溝等ヲ設ケ防火ノ設備ヲ爲スヘシ但シ警察官署ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

第四條 防火ノ方法又ハ火入ノ日時ヲ變更セントスルトキハ警察官署ノ承認ヲ受ケヘシ

第五條 日出前日没後及風勢強烈ナルトキハ火入ニ着手スヘカラス

第六條 火入地以外ニ延燒虞ノアル場合ハ火入ヲ中止スヘシ

第七條 火入ヲ爲ストキハ看守人ヲ置キ火氣消滅スルニ至ル迄火入地ヲ巡視セシムヘシ

第八條 火入ヲ中止シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ直ニ警察官署ニ届出ツヘシ

第九條 第二條乃至第八條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

●富山縣令第十九號

明治三十八年四月二十一日

明治三十七年十二月十二日 富山縣令第六十二號 牛馬賣買營業取締規則中左ノ通改正追加ス

但シ本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第三條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ營業ヲ免許セス

一 年齢二十年未滿ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ仍改悛ノ情ナシト認ムル者

三 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ス虞アリト認ムル者

第七條 營業者牛馬ヲ賣買交換シ若ハ口入ヲ爲シタルトキハ様式ニ依リ直ニ帳簿ニ記載スヘシ
第十條 中左ノ通改ム

三十八年六月
月令第三
十號ヲ以テ
第三條改正

一 賣買、交換、貸借及預入ヲ他人ニ強請スルコト
 三 口實ヲ設ケテ他人ノ賣買交換貸借及預入ニ干渉スルコト
 第二號様式 牛馬口入帳 (用紙美濃)

第 號	第 號	牛馬ノ種		産地	毛色	年 齡	特 徵	口入年日	入口		渡		住 所	
		牝	牡						買買(交換、貸借)	預入又ハ何々)	主	受		買讓、渡、交換、貸借
									價額又ハ賣買價額何圓	料數手			買讓受、交換、借受又ハ預リ主若ハ何々	氏 名
									幾圓				住 所	氏 名

一 番號ハ毎年之ヲ改ムヘシ
 二 賣買交換若ハ口入ノ際証人ヲ要シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ又警察官ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ年月日ヲ渡シ主欄内ニ即時記載スヘシ

●富山縣令第二十七號
 明治三十八年六月二日

明治二十七年五月富山縣令第三十五號消防組設置區域及人員表ニ左ノ追加ス

消防組名稱	消防組設置區域	消防組定員	部 別	小頭及消防手配置
柵山消防組	下新川郡 山村一圓	三十五人		
		内 小頭一人		
		消防手三十二人		

●富山縣令第二十九號
 明治三十八年六月二十三日

明治二十八年八月富山縣令第六十二號富山縣違警罪目第一條第六項ノ次ニ左ノ追加ス
 七官署公署其ノ他公共團體ニ於テ設置シタル測量標ヲ汚損若ハ毀棄シタル者

●富山縣令第三十九號
 明治三十八年八月二十六日

明治三十三年富山市内ニ建設セシ假家屋及明治三十三年高岡市并東礪波郡出町ニ建設セシ假家屋

三十八年八月十六號ヲ以テ定員改メ

ノ改造期限ハ明治三十九年八月三十一日迄延期ス

●富山縣令第四十三號

明治三十八年十月二十日

明治三十二年八月 富山縣令第四十四號工場内病傷者届出ノ件左ノ通改正ス

- 一 職工徒弟十人以上ヲ雇使シ且寄宿舎又ハ社宅アル工場ニ於テ其ノ舎、宅内ニ在ル職工ニシテ死者及疾病負傷ノ爲メ解雇ノ者アルトキハ其ノ都度口頭又ハ書面ヲ以テ警察官署ニ届出ツヘシ
 - 二 前記職工中疾病負傷ノ爲休業三十日以上ニ涉ル者アルトキハ其ノ職名、氏名、年齢、病症等ヲ翌月五日迄ニ警察官署ニ届出ツヘシ
 - 三 寄宿舎又ハ社宅内ニ職工百人以上ヲ有スル工場ハ毎月其ノ舎、宅内ニアル職工數及患者數死者數、并疾病負傷ノ爲メ解雇又ハ休業三十日以上ニ涉ル者アルトキハ其ノ職名、氏名、年齢、病症等ヲ翌月五日迄ニ警察官署ニ届出ツヘシ
 - 四 警察官吏ハ其ノ工場ニ臨ミ患者、死者及解雇者ニ關スル救護其ノ他ノ取扱振ヲ調査スルコトアルヘシ
- 本令第一項乃至第三項ニ違背シ届出ヲ爲ササル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

●富山縣令第四十四號

明治三十八年十月二十日

明治二十七年五月 富山縣令第三十五號消防組設置區域及人員表ニ左ノ通追加ス

消防組名稱	消防組設置區域	消防組定員	部別	小頭及消防手配置
新莊消防組	上新川郡 新莊町一圓	三十三人 内 組頭一人 小頭二人 消防手三十人		

●富山縣令第四十五號

明治三十八年十一月十七日

明治三十四年西礪波郡石動町ニ建設セシ假家屋ノ改造期限ハ明治三十九年十二月迄延期ス

●富山訓令甲第四號

明治三十八年一月二十日

警察署 警察分署

明治三十七年十二月 富山縣令第六十二號牛馬賣買營業取締規則取扱手續別冊ノ通相定ム(別冊ハ別ニ頒付ス)

●富山縣訓令甲第五號

明治三十八年二月二十日

警察署 警察分署

明治三十八年一月 富山縣令第四號林野火入取締規則取扱手續別冊ノ通相定ム(別冊ハ別ニ頒布ス)

● 富山縣訓令甲第十六號

明治三十八年三月十七日

警察部 警察署 警察分署

明治二十六年九月訓令第九十三號巡查身上記錄調製手續在ノ道改正シ本年四月一日ヨリ施行ス

巡查身上記錄調製手續

第一條 巡查身上記錄ハ一人毎ニ左ノ書類ヲ編綴シ調製スルモノトス

- 一 誓文
- 一 身上明細表
- 一 現職履歷
- 一 勤怠及賞罰表
- 一 採用ノ際ニ於ケル關係書類
- 一 各種試験ノ答按

第二條 巡查身上記錄ハ警察部警務課ニ備ヘ置キ異動アル毎ニ加除スヘシ

第三條 警察署長警察分署長ハ毎年一月十五日マテニ所屬巡查ノ前年中ニ係ル勤怠及賞罰表並現職履歷書ヲ調製シ警務課長ヘ送達スヘシ

第四條 警察署警察分署ニハ所屬巡查ノ身上明細表ヲ備ヘ置キ索引ヲ附シテ編纂シ異動アル毎ニ加除スヘシ

第五條 新ニ巡查ヲ命シタル者アルトキハ警務課ニ於テ身上明細表用紙或通ヲ本人ニ交附シ各項ノ記入ヲ爲サシメタル上壹通ヲ警務課ニ備ヘ壹通ヲ巡查教習所又ハ其ノ詰署タル警察署若クハ

警察分署ニ送付スヘシ

第六條 巡查教習所ヨリ警察署又ハ警察分署詰ニ又ハ甲署ヨリ乙署ヘ詰替ヲ命シタル者アルトキハ前所屬ノ所署長ハ其ノ者ノ身上明細表ヲ新所屬ノ署長ヘ送致スヘシ

第七條 身上明細表ニ登錄スヘキ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ本人ヨリ警務課長及所屬所署長ニ届出ツヘシ

第八條 休職及轉任免職又ハ死亡等ニ係ル者ノ身上記錄ハ之ヲ別ト爲シ保存スヘシ

附 則

本令ニ關スル諸種ノ様式ハ左ノ如シ

第一

明治何年何月何日拜命

巡查身上記録

氏名

第二 身上明細表

(用紙美濃)

前職務履歴	軍隊履歴	從軍	子	養父母	實父母	出生地	改氏名	族籍氏名年齢			妻	其他ノ家族	叙勳	年金	前職務履歴
								何府(縣)何郡(市)何町(村)大字何々何番地 士族(平民)	何 某 生年月日	何縣何郡何町村何某何女何年何月何日娶ル					
明治何年何月何日何々ト改名ス	何府(縣)何郡(市)何町(村)	氏名 (何年何月何日死亡)	氏名 (何年何月何日死亡)	氏名 (何年何月何日死亡)	氏名 (何年何月何日死亡)	氏名 (何年何月何日死亡)	氏名 (何年何月何日死亡)	何年何月何日ヨリ何隊ニ編入何年職役ニ從軍何年何月何日凱旋	長男 何某 何年何月何日生 次男 何某 何年何月何日生 長女 何某 何年何月何日生 以下同之	何年何月何日ヨリ何隊ニ編入何年職役ニ從軍何年何月何日凱旋	何年何月何日ヨリ何隊ニ編入何年職役ニ從軍何年何月何日凱旋	何年何月何日ヨリ何隊ニ編入何年職役ニ從軍何年何月何日凱旋	何年何月何日ヨリ何隊ニ編入何年職役ニ從軍何年何月何日凱旋	何年何月何日ヨリ何隊ニ編入何年職役ニ從軍何年何月何日凱旋	記載方右欄ニ準ス

第三

(用紙半紙)

現職履歷		(巡查部長) 巡查 何 某	
年 月 日	任	免	官 衙
明治何年何月何日	拜命 八圓給與		富 山 縣
同	巡查教習所學生ヲ命ス		巡 查 教 習 所
同	巡查教習科程卒業		同
同	何級俸給與		富 山 縣
同	何警察(分)署詰ヲ命ス		同
同	第何區受持ヲ命ス		何 警 察 (分) 署
同	何村駐在ヲ命ス		同
同	内勤ヲ命ス		同
同	精勤證書附與セラル		富 山 縣 知 事
同	何級俸給與		富 山 縣

第四

明治何年勤怠及賞罰表

(用紙半紙)

種別	日 數	賞		懲	
		月 日	摘 要	月 日	摘 要
服 務	何 日	何月何日	窃盜犯逮捕ニ依リ金何圓	何月何日	警邏缺回ニ依リ金何拾錢
休 暇	同	何月何日	殺人犯逮捕ニ依リ金何圓	何月何日	戸口調査ヲ缺キ金何拾錢
祭 日	同				
依 願	同				
不 依 願	同				
公 病	同				
疾 病	同				
忌 引	同				
合 勤	同				
計 怠	同				

●富山縣訓令第十七號

明治三十八年三月二十九日

警察署 警察分署

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官沒ニ關シ内務省令第二號ニ依リ警察署長警察分署長ニ於テ交付スヘキ命令書ハ左ノ書式ニ依ルヘク又官沒ニ係ル物件ヲ破毀セントスルトキハ豫メ檢事ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

命令書
本籍住所身分職業

名 氏

一 何々々 (種類) 何々程 (數量)

出生年月

右ハ明治三十八年法律第六十六號第十條ニ依リ之ヲ官沒ス

何々署長

官 氏 名 印

年 月 日

●富山縣訓令甲第二十號

明治三十八年四月二十一日

警察署 警察分署

明治三十八年一月富山縣訓令甲第四號牛馬賣買營業取締規則取扱手續第三條ヲ別紙ノ通告ム

(別紙ハ別ニ頒布ス)

●富山縣訓令甲第六十二號

明治三十八年十月二十日

警察署 警察分署

明治三十二年八月富山縣訓令甲第二十一號工場病傷者保護ニ關スル件左記ノ通告ム

- 一 警察官署ハ工場ニ於ケル病傷者ノ届出ヲ受ケタルトキハ速ニ現場ニ臨ミ救護ニ關スル方法ヲ看視シ其ノ顛末ヲ報告スヘシ
- 二 警察官吏ハ時々所轄内工場ニ臨ミ病傷者ノ有無ヲ視察スヘシ
- 三 警察官署ハ負傷者ノ數、職工數及ヒ其ノ患者、死者數等ヲ毎月各工場別ニ調査シ左記様式ニ依リ翌月十日迄ニ縣廳ヘ進達スヘシ

(様式) (一)

工場職工、患者及死者 (何年何月)

署名

工場名	種 類	男女月未現在職工數	前月ヨリ本月中發生患者數	本月中轉歸患者數	月未現
	別 類	總數	金宅	治癒	未治解雇
			患者	負傷者	死亡
					在患者

本表ノ患者、負傷者ハ寄宿舎又ハ社宅内ニアル職工中ノ患者及負傷者數トス

勞働不能ニ陥リタルトキト否トニ拘ハラス總テ疾病ニ罹リ又ハ負傷ヲ爲シ醫治ヲ受ケタル者ヲ患者トス

(様式) (二)

工場名	病症又ハ負傷ノ種類	死亡又ハ解雇ノ別	職名	氏名	年齢

本表ハ縣令第三項末段ノ事實ヲ記入スルモノトス

但シ該事實ナキモノハ工場名ノミヲ記載シ同行ニ事實ヲシト記入スヘシ

●富山縣訓令甲第六十五號

明治三十八年十月二十七日

警察署 警察分署

明治三十三年六月富山縣訓令甲第七十二號遺失物取扱手續第一號様式中差出年月日欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

公告ノ方法及期間	自年月日	何日間
何所ニ揭示、官報又ハ何新聞ニ掲載		

●富山縣告示第五百五十九號

明治三十八年八月二十八日

左記ノ者ニ對シ明治二十五年勅令第十一號ニ依リ豫戒命令ヲ爲シタル處改メノ情狀著シキモノト認ムルヲ以テ本月二十八日同令第六條ニ依リ該命令ヲ解除セリ

- 富山縣婦負郡口塚村大字田尻村千六百七十六番地
- 當時同郡櫻谷村大字愛宕村四百六十九番地平民八百物商 田中兼次郎
- 同縣上新川郡堀川村大字西田地方村三百六十六番地平民 東藏三男辨當仕出業 細野虎次郎
- 同縣富山市覺中町三十番地平民書籍販賣業 金山米次郎
- 同縣中新川郡滑川町大字下小泉村三百九十三番地平民 勞力合資會社雇人 加藤重右衛門

同縣同郡同町大字塚町二千二百十九番地平民
勞力合資會社雇人

魚 躬 達 三

同縣同郡同町大字河端町二千二百八十四番地平民
勞力合資會社雇人

稻 垣 定 次 郎

●富山縣告示第百七十二號

明治三十八年九月十五日

明治三十八年八月陸軍省告示第十七號大連灣出入船舶及渡航者規則ニ據リ身元證明書ノ下付ヲ受ケ
ントスル者ハ從來ノ職業及渡航ノ目的ヲ記シタル願書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ本籍地若ハ居住地ノ警察
官署ニ差出スヘシ

●十三類○衛生

●富山縣令第五號

明治三十八年一月二十七日

明治二十六年四月富山縣令第三十二號種痘細則第一條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス
第一條ノ二 市町村長ハ定期若クハ臨時種痘ヲ施行スル爲メ種痘醫ヲ撰定シ知事ニ報告スヘシ其
ノ變更シタルトキ亦同シ

●富山縣令第二十號

明治三十八年四月二十八日

明治三十六年九月富山縣令第七十九號鍼灸及按摩營業取締規則中左ノ通改正追加ス
但シ本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第三條 中左ノ通改ム

一、 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ滿三年ヲ經過セサル者
第四條 中左ノ通改正追加ス

二、 施術ノ際内用藥又ハ外用藥ヲ用ユルコト

七、 針ヲ自己ノ口中ニ嚙ヒ又ハ之ヲ舐リテ施術スルコト

第六條ノ二 施術ニ著手セントスルトキハ針、患者ノ施術部及施術者ノ手ヲ消毒スヘシ

●富山縣令第三十四號

明治三十八年七月二十一日

明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法第二條ニ依リ赤痢病ノ疑似症ニ對シ同法全部ヲ適用ス

●富山縣令第四十二號

明治三十八年十月十三日

明治三十五年四月富山縣令第三十二號賣肉營業取締規則中左ノ通改正ス
第六條中「清潔ナル布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ」トアルヲ「塵埃ノ附着昆蟲類ノ來集ヲ避クルニ足ルヘ

キ装置ヲ爲スヘシト改ム

●富山縣令第五十二號

明治三十八年十二月二十二日

ベスト豫防ニ關シ届出ノ件左ノ通相定ム

- 第一條 ベスト有病地ヲ發シ若ハ經過シテ來リタル者及之ヲ宿泊セシメタル者ハ到着后六時間以內ニ出發地并ニ經過地及其ノ住所氏名ヲ所轄警察官署巡査派出所若ハ巡査駐在所ニ届出ツヘシ
- 第二條 ベスト有病地ヲ發シ若ハ經過シタル左記ノ貨物ヲ輸入シタル者ハ其ノ包裝ヲ解カス到着后六時間以內ニ所轄警察官署巡査派出所若ハ巡査駐在所ニ届出ツヘシ
襪襪 古綿 落綿 古着 古紙 古革皮 古羽氈 古麻袋 古敷物
- 第三條 第一條第二條ノ届出ヲ要スヘキ地左ノ通指定ス
大坂市 神戸市
- 第四條 本令ノ届出ヲ怠タル者ハ科料ニ處ス

●富山縣訓令甲第十一號

明治三十八年二月十七日

郡市役所 町村役場

從來種痘ニ際シテハ種痘醫ヨリ種痘中ニ於ケル衛生方等ニ付夫々注意ヲ與ヘ居ル管ナルモ中ニハ之レカ看護ヲ忽セニシ甚シキハ其ノ成績ノ點檢ヲ受ケサル者モ有之趣ニ付本年春期ヨリ種痘者ニ

對シ左記ノ心得書ヲ交付シ種痘實施上遺憾ナキナ期セラレハシ
用紙西洋紙縦七寸横五寸大

種痘中の心得書

- 一 種痘中は天然痘を病める人若しくは其病家に近接べからざ
- 一 面部手先を洗ひ又は腰湯を爲すことは妨げない
- 一 飲食衣服等すべて平日の通にて妨げなきも襦袢は垢着かざるを可とす食物は不消化物を忌む
- 一 種痘中は其接種部を大切に爲し痘疱を摩擦或は掻破らざる様注意すべし
- 一 熱の強く發るか又は他の腫物を發したるときは直に醫師の診察を請くべし

來る 月 日 點檢の上種痘證書を渡すべ
ければ同日午前九時までに必き種痘を爲した
る場所へ此書を持參すべし

年 月 生
年 月 生
年 月 生

何市(町)役所(役場)

明治 年 月 日

●富山縣訓令甲第十三號

明治三十八年三月三日

郡市役所 町村役場

新式種痘法施術ニ際シ必要ナル消毒用ガーゼ、脱脂綿、無水アルコール、石炭酸、石鹼等ハ關係市町村ニ於テ購入スヘキモノナルヲ以テ擔當種痘醫士協議ノ上相當準備スヘシ

●富山縣訓令甲第二十三號

明治三十八年四月二十八日

警察署 警察分署

鍼術營業者施術ニ際シ針ヲ自己ノ口中ニ啣ヒ或ハ之ヲ舐リテ施術スル習慣今尙ホ止マサルモノ、如シ若シ營業者ニシテ肺病微毒其ノ他傳染性病毒ヲ有スルトキハ之レカ爲メ病媒媒介ヲ爲シ患者ニ其ノ病毒ヲ傳染セザムル恐ナキ能ハス公衆衛生上甚タ危險ノ虞アルヲ以テ自今施術ニ着手セシトスルトキハ針ハ勿論患者ノ施術部及施術者ノ手ヲ相當消毒藥ヲ以テ消毒シタル後施術ニ從事セシメ其ノ他公衆衛生上ニ注意ヲ要スヘキ大要ヲ一般營業者ニ指示シ其ノ實行ヲ期スヘシ

●富山縣訓令甲第二十四號

明治三十八年四月二十八日

郡役所 警察署 警察分署

滿韓其ノ他海外有病地方トノ交通ニ因リ既ニ客冬來痘瘡及流行性腦脊髓膜炎諸方ニ萌發シベスト病毒ハ東京其ノ他ニ船齎セラレ今又廣島市ニ於テベスト患者ノ發生アリ加之時季漸ク暖チ加フルニ從ヒ虎刺等劇性病毒ノ侵襲スルコトナキチ保シ難ク赤痢腸窒扶私ノ如キモ年々其ノ流行チ免カレサル實況ナレハ此際時局ニ對スル防疫施設ハ一層完備ナラシムルヲ要ス故ニ從來ノ訓達ニ基キ市町村ヲ督勵シテ防疫措施ノ實行ヲ期セシムルハ勿論清潔ノ持續ニ注意セシメ又急病死者ノ調査及檢病視察ニ因リテ患者ノ發見ヲ敏速ニシ沿海地方ニ於テハ一般ノ船舶ニ對シ衛生視察ヲ行ヒ必要ト認ムルモノニハ臨時清潔方法ヲ施行セシメ船舶ノ驅除飲水函ノ消毒ヲ勵行セシムル等防疫措置上遺算ナキヲ期スヘシ

●富山縣訓令甲第二十五號

明治三十八年四月二十八日

郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

客年來韓國仁川港ニ於テ木邦人間ニ痘瘡流行シテ今尙ホ終熄セス殊ニ近來ハ渡航者ニシテ同病ニ罹ル者尠カラサル狀況ナルヲ以テ自今種痘善感後五ケ年以上ヲ經過シ最近ニ種痘セサル者ニシテ渡韓セントスルトキハ目的地ノ仁川ナルト否トヲ問ハス渡航前必ス種痘セシメ其ノ證ヲ携帶渡航セシムル様取計フヘシ

●富山縣訓令甲第三十號

明治三十八年六月二日

郡 役 所 市 役 所
町 村 役 場

醫師藥劑師免狀下付再下付又ハ書替ヲ出願シタル場合ハ願書面記載ノ族籍氏名年齢等ヲ戶籍簿ニ對照シ其ノ相違ナキヲ認メタルトキハ願書ニ戶籍簿對照濟ノ旨ヲ記入シ且主任者檢印ノ上進達方取計フヘシ

●富山縣訓令甲第三十一號

明治三十八年六月二日

郡 役 所 市 役 所
町 村 役 場

市町村ニ於テ定期又ハ臨時種痘ヲ行ヒタルトキハ明治二十六年四月富山縣令第三十一號種痘細則第十二條ニ依リ種痘結了後十五日以内ニ其ノ成績報告スヘキ筈ノ處中ニハ該報告ヲ怠タル向往々有之統計調査上差支尠テサルヲ以テ報告期日ヲ誤ラサル様注意スヘシ

●富山縣訓令甲第三十二號

明治三十八年六月二日

郡 役 所 市 役 所
町 村 役 場

市町村ニ於テ傳染病豫防消毒法急施用トシテ明治三十二年四月富山縣訓令第四十二號ニ依リ豫テ消毒藥及器具ノ設備ヲ爲シ置クヘキ筈ノ處中ニハ其ノ準備不行届ノケ所モ有之趣ニ付規定ノ設備ヲ整ヘ必要ニ際シ處置上敏活ヲ欠クカ如キト無之様常ニ應急ノ設備ヲ爲シ置クヘシ

●富山縣訓令甲第三十三號

明治三十八年六月二日

警 察 署 衛 生 分 署

清涼飲料水ノ良否ハ直ニ公衆衛生上ニ影響スルヲ以テ平素之カ取締法ヲ勵行シツ、アリト雖尙ホ往々不良ニシテ規則第五條ニ抵觸スルモノヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スル者

有之趣ニ付右違犯行為ニ對シテハ相當處置スヘキハ勿論事情ニ依リテハ卸賣又ハ製造者ヲ相當處置スル等充分規則ノ精神ヲ徹底セシムル様注意執行スヘシ

●富山縣訓令甲第四十一號

明治三十八年七月七日

郡 役 所 市 役 所

吏員中衛生事務擔當者主務又ハ兼勤二名ヲ常置シ其ノ氏名ヲ報告スヘシ

●富山縣訓令甲第四十二號

明治三十八年七月七日

郡 役 所 市 役 所

町 村 役 場

一 市町村醫ヲ選定シタルトキハ其ノ住所氏名手當金額並傳染病豫防法令施行細則第二十九條ニ依リ支給スヘキ手當金額ヲ増減シタルトキハ其ノ都度報告スヘシ

一 市町村醫ヲ改選シ又ハ手當金額並傳染病豫防法令施行細則第二十九條ニ依リ支給スヘキ手當金額ヲ増減シタルトキハ其ノ都度報告スヘシ

●富山縣訓令甲第四十五號

明治三十八年七月十四日

郡 役 所 市 役 所

警 察 署 警 察 分 署

町 村 役 場

夏季衛生上殊ニ傳染病發生ノ時期ニ際シテハ常ニ不潔ナル所ニ對シ清潔方法消毒方法ノ執行ヲ完全ニセサレハ管ニ傳染病ノ發生ヲ未發ニ防クコトヲ得サルノミナラス公衆衛生上ニ及ボス危害モ亦大極カラサルヲ以テ毎年七月ヨリ十月迄左記清潔方法ヲ勵行シ豫防上遺算ナキ時期スヘシ

- 一 宿屋、料理屋、飲食店、貸座敷、湯屋ノ便所ハ毎日午前十時迄ニ掃除シ適量ノ消毒藥ヲ投入シ其ノ家屋ニ沿フタル溝渠下水路ハ悪水及汚物ノ停滯セサル様時々浚漑セシムルコト
- 二 劇場、興行場、遊技場、説教場、其ノ他多數ノ職工ヲ使用スル工業場及公衆ヲ集合セシムル場所ハ其ノ開設又ハ集合中ハ毎日一回以上便所ノ掃除ヲ爲シ適量ノ消毒藥ヲ投入セシムルコト
- 三 街頭便所ハ掃除請負人、人力車及馬車駐車場ノ便所ハ其ノ持主又ハ管理人ニ於テ可成毎日一回以上掃除ヲ爲シ適量ノ消毒藥ヲ投入セシムルコト
- 四 清涼飲料水製造所、氷雪販賣所、魚商、豆腐屋、麩屋、牛乳搾取所、及野菜、果物、販賣店ノ家屋ニ沿フタル溝渠下水路ハ悪水及汚物ノ停滯セサル様時々浚漑セシムルコト

●富山縣訓令甲第五十五號

明治三十八年九月一日

郡役所 市役所
警察署 警察分署
町村役場

野鼠驅除ノ目的ヲ以テ使用セル鼠竈扶私菌ノ取扱ヲ誤リ人體ニ危険ヲ及ホシタル實例モ有之ニ付
農會其ノ他ノ團體等ニ於テ該菌ヲ使用セントスルトキハ左記各號ヲ遵守セシメ不測ノ危害ヲ招カ
サル様一般ニ注意スヘシ

- 一 鼠竈扶私菌、同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ汚染セル物件等ハ一定ノ場所ニ於テ散乱セサル様
取扱上注意セシムルコト
- 二 消化器ニ異常アル者若ハ小兒ヲシテ鼠竈扶私菌、同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ汚染セル物件
等ヲ取扱ハシメサルコト
- 三 鼠竈扶私菌、同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ因スル齧鼠、同菌ニ汚染セル物件等ヲ取扱フモノ
ハ其ノ取扱中食事喫煙ヲ爲シ若ハ汚染セル手指ヲ口邊ニ觸レシメサルコト
- 四 鼠竈扶私菌、同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ汚染セル物件等ヲ取扱ヒ若ハ之ニ接觸シタルモノ
ハ石鹼及微温湯ヲ以テ顔面手指等ヲ丁寧ニ洗淨セシムルコト
- 五 鼠竈扶私菌、培養液容器又ハ同菌含有ノ材料調製ノ爲メ使用シタル器具等ハ使用後熱湯若
ハ三十倍炭酸曹達洗濯曹達溶液ニ加熱シタルモノヲ以テ洗淨セシムルコト

●富山縣訓令甲第五十九號

明治三十八年十月六日

郡役所 市役所
警察署 警察分署
町村役場

定期掃除規則ニ依リ春秋二回清潔法ノ施行ハ漸次從來ノ習慣ヲ改善スルニ至レリト雖尙義務者中
唯監督者ノ検査ニ合格スルヲ以テ足レリトシ所謂形式的ニ流ル、弊ナキニアラス亦タ一般ニ家屋
内ノ掃除ニ重キヲ置キ其ノ他ノ建物及住宅地内ノ清潔法併行セサル傾キアリ殊ニ規則第四條第二
項第三項ノ執行不充分ナルヲ以テ自今義務者ヲシテ是等ノ諸點ニ一層注意ヲ拂ハシメ監督ヲ周密
ニシ以テ規則ノ精神ヲ徹底セシムルコトニ勉ムヘシ

●富山縣訓令甲第六十號

明治三十八年十月六日

郡役所 市役所
警察署 警察分署
町村役場

本年六月内務省令第十七號ヲ以テ消毒方法清潔方法中ニ改正追加セシメタル消毒藥「クレゾール」水、加里石鹼又ハ綠石鹼及「フオルムアルデヒド」ハ規定ノ方法ニ據リ使用ノ制限注意ヲ遵守スルニアラサレハ消毒ノ目的ヲ達シ難ク殊ニ加里石鹼又ハ綠石鹼ニ在リテハ沸騰中ノ熱湯ニ溶解後直ニ使用シ既ニ冷却セル該溶液ニ對シテハ更ニ之ヲ加熱沸騰ニ至ラシメ使用中其ノ溫度ヲシテ攝氏六十度以上ノモノニアラサレハ消毒藥トシテ使用セサル様注意スヘシ

●富山縣訓令甲第七十三號

明治三十八年十二月二十二日

郡 役 所 市 役 所
警 察 署 警 察 分 署
町 村 役 場

ベスト豫防心得左ノ通相定ム

ベスト豫防心得

第一條 ベスト豫防ニ付テハ傳染病豫防法同法施行規則并ニ清潔方法消毒方法及傳染病豫防法施行細則ニ依ルノ外尙本令ニ從フヘシ
第二條 ベスト患者又ハベストニ疑ハシキ患者又ハ鷓鼠アリタルトキハ速ニ其ノ狀況ヲ縣廳ニ電報スヘシ

第三條 左記ノ急性患者發生シ又ハ死亡シタルトキハ市町村醫ヲシテ診斷又ハ檢案セシメベストニ非サルコトヲ證明スルコト能ハサルトキハ縣廳ニ電報スヘシ

腦膜炎(腦脊膜炎、) 腦血栓、腦出血(卒中) 脚氣衝心、氣管枝炎、肺炎、肋膜炎、敗血症、膿毒症、淋巴腺炎、丹毒、心臟麻痺症、腸間膜腺炎、腹膜炎、

其ノ他左記ノ症狀ヲ呈スル急性病

一 惡寒(又ハ戰慄)發熱頭痛煩渴ヲ訴ヘ時トシテ體温益々昇騰シ頸部、肘部、腋窩部、鼠蹊部、股部、等ニ腫起疼痛(急性淋巴腺炎)ヲ發シタルモノ

二 惡寒(又ハ戰慄)發熱ヲ以テ起リ頭痛煩渴特トシテ體温等ヲ伴ヒ體温依然トシテ高ク胸痛咳嗽咯痰(肺炎様症狀)等ヲ訴フルモノ

三 凡テ惡寒(又ハ戰慄)發熱シテ身體諸部ノ倦怠鈍痛ヲ訴ヘ體温愈高ク頭痛時トシテ體温等(腸室扶私様症狀)ヲ發スルモノ
其ノ他病名不詳

第四條 ベストノ診斷ハ臨床的症候ニ據ルノ外細菌検査ノ成績ニ依リテ決定スヘシ

第五條 ベストノ疑アル患者アリタルトキハ仮ニ病毒ノ散逸ヲ防クヘキ相當ノ手當ヲ爲シ可成四十八時間以内ニ診斷ヲ確定スヘシ

第六條 ベスト患者ハ直ニ之ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容セシムヘシ

第七條 ベスト患者アリタル家、有菌鼠ノ續出等ニ依リ著シク病毒ニ汚染セル家及同上ノ家ト棟ヲ同ブスル家其ノ他患者又ハ鼠ノ交通ニ依リ病毒ニ汚染セリト認ムル家ニ交通遮斷ヲ施行シ遮

斷區域ノ周圍ニハ亞鉛板ヲ繞ラシ下水口ニ金網ヲ施ス等鼠ノ交通ヲ杜絶スルノ設備ヲ爲スヘシ

第八條 遮斷區域内ノ居住者ハ其ノ袂服携帶品ヲ消毒シタル後之ヲ隔離所又ハ適當ナル場所ニ隔離シ同區域内ニハ二日以上多數ノ殺鼠劑及捕鼠器ヲ配置シタル後除鼠の消毒方法ヲ施行スヘシ

第九條 遮斷區域ニ接續セル地域、又ハ有菌若ハ有菌ノ疑アル鼠アリタル等ニ依リ豫防措置ヲ必要トスル地域ハ之ヲ豫防區域ト定メ除鼠の消毒方法ヲ施行スヘシ但シ有菌若ハ無菌ノ疑アル鼠アリタル家又ハ病汚染ノ疑アル物件其ノ他必要ト認ムル部分ニ對シテハ消毒方法ヲ施行スヘシ他ノ地ニ於テ感染シタルノ系統分明ナル者發病シ直ニ之ヲ發見シタル場合等病毒ノ鼠族ニ傳播シタル範圍未タ狭少ナリト認ムル場合ニハ前項ノ措置ヲ省畧スルコトヲ得

第十條 第八條ニ依リ隔離シタル居住者及豫防區域内ニ對シテハ相當期間健康診斷ヲ施行スヘシ除鼠の消毒方法ニ從事セシムル人夫ニ對スルモ亦前項ニ準スヘシ

第十一條 ペスト患者又ハ有菌鼠發生シタル地及同地又ハ特ニ指定シタル海外諸港ト交通頻繁ナル地ニ於テハ左ノ各號ニ據リ豫防措置ヲ施行スヘシ

一、懸賞の抽籤等ノ方法ニ依リ鼠ノ買収ヲ實行シ一般ニ鼠ノ殲除ヲ獎勵スルコト

二、鼠ニ對シテハ捕鼠、斃鼠ノ別ナシ細菌検査ヲ行フコト

三、貨物集積場附近、労働者居住地、不潔部落其ノ他豫防上注意ヲ要スヘキ部落ニ對シ検査的戶口調査ヲ行フコト

四、臨時清潔方法ヲ施行シ左ニ掲グル場所ニ對シテハ特ニ除鼠の清潔方法ヲ施行スルコト

(イ) 貨物陸揚場、停車場其ノ他貨物集積場及其ノ附近

(ロ) 貨物運送店、棉化、穀類、豆粕、革皮、襪襪、古綿、古着、古麻袋、古敷物、古羽毛、古

紙等ノ商店及同上倉庫物置

労働者居住地及不潔部落

(ハ) 紡績、製糸、織物、製紙、醸造、精穀、製粉、革皮、羽毛製品類工場

(ニ) 貨物運送船

(ホ) 第十二條 除鼠の消毒方法、清潔方法施行ノ際鼠ノ交通棲息ノ虞アル箇所ハ相當脩理セシメ且ツ剝離シタル箇所ハ原形ニ復サシムヘシ

第十三條 ペスト流行地域ニ於ケル塵芥ハ之ヲ燒却シ襪襪、紙屑、古綿、古着、古敷物類ハ消毒方法ヲ施行シタル後ニアラサレハ他ニ輸送セシムヘカラス

第十四條 ペスト流行地ト交通アル地ニ於テハ流行地ヨリ來リ又ハ其ノ地ヲ經過セル船舶汽車内ノ塵芥ハ一定ノ場所ニ於テ之ヲ燒却セシムヘシ

第十五條 船舶又ハ汽車内ニ「ペスト」患者死者又ハ有菌鼠アリタルトキハ左ノ各號ニ據リ豫防措置ヲ施行スヘシ

一 患者ハ傳染病院又ハ隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ收容シ死者ハ必要ナル處置ヲ爲シタル後引取者ニ引渡シ若シ引取者ナキトキハ明治三十二年三月法律第九十三號行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ據リ處置スルコト

二 患者又ハ死亡アリタル船舶及有菌鼠ノ輸出等ニ依リ病毒ニ汚染セル船舶ニハ除鼠の消毒方法ヲ施行シ乗客乗組人ハ消毒方法ヲ施行シタル後隔離所若ハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル船舶内其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト但シ病毒感染ノ虞ナシト認ムル者ハ此限ニアラス

三 船舶内ニ有菌若ハ有菌ノ疑アル鼠アリタルトキハ除鼠の消毒方法ヲ施行シ乗客、乗組人ニ

對シ周密ナル健康診斷ヲ行フコト

四 瀝車ニ在リテハ患者又ハ死者アリタル車室及病毒汚染ノ疑アル車室ハ之ヲ取離シテ消毒方法ヲ施行シ病毒感染ノ疑アル乘客ハ消毒方法ヲ施行シタル後隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト

五 患者又ハ死者ノ手荷物及病毒汚染ノ疑アル積荷手荷物ハ消毒方法ヲ施行スルコト

六 消毒其ノ他設備ノ都合等ニ依リ前各號ノ事項ヲ施行スルコト能ハサルトキハ仮ニ病毒ノ散逸ヲ防クヘキ相當ノ手當ヲ爲シ電報ヲ以テ指揮ヲ受クヘシ

七 船舶ノ寄港地又ハ瀝車ノ停車地ノ警察官署ニ關係事項ヲ急報スルコト

第十六條 船客乗組人ノ上陸後及積荷ノ陸揚後ニ於テ船舶ニ「ペスト」病毒汚染ノ事實アリタルコトヲ發見シタル場合ハ上陸人員ノ行先地及貨物輸送先上陸人員ノ宿所、姓名、貨物ノ數量、種類、記號(精確ニ調査シ相違ナキ様注意ヲ要ス)取扱店、荷主及發送月日等ヲ縣廳ニ急報スヘシ

當該船舶ノ出港後ニ在リテハ尙其ノ行先地及其ノ事由ヲ電報スヘシ

第十七條 第十五條第七ノ急報ヲ受ケタル警察官署ハ船舶瀝車ニ病毒潜伏ノ疑アル期間上陸人員及貨物運搬人夫其ノ他當該船舶瀝車ニ關係アル者ニ對シ其ノ健康狀態ヲ注意スヘシ

第十八條 病毒ニ汚染アル家屋、倉庫、船舶、瀝車内等ニ在リタル貨物ニシテ既ニ他ニ移シアルモノハ一時搬出輸送ヲ停止シ其ノ間積入倉庫及關係アル家屋ニ對シ殺鼠劑、捕鼠器ノ配置其ノ他適當ノ方法ニ依リ鼠ノ驅除ヲ嚴行シ且ツ驅除シタル鼠其ノ他必要ト認ムル材料ニ就テ細菌検査ヲ行フヘシ

前項未段ノ検査ニ於テ「ペスト」菌ヲ發見シタルトキ又ハ調査ノ結果病毒汚染ノ形跡アリト認メ

タルトキハ當該貨物、同積入倉庫及當該貨物ノ運搬用ニ供シタル船艙貨車等ニ對シ消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第十九條 病毒汚染ノ疑アル貨物ト同一ノ倉庫内ニ在リ又ハ同一ノ船艙貨車ニテ運搬セラレタル他ノ貨物ニ對シテハ當該倉庫、船艙、貨車内ニ於テ有菌鼠ヲ發見シタル等ニ依リ病毒汚染ノ疑アリト認メタル場合ハ消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第二十條 「ペスト」發生ノ狀況、豫防措置ノ大要ハ其ノ都度又繼續施行セル豫防事務ノ成績ハ毎月別紙雛形ニ準シ之ヲ縣廳ニ報告スベシ

(申號)

號ペスト患者報告

發見ノ方法	所住	業職	姓名	年齢
	病發	月	日	見發
住家及周圍ノ狀況有菌鼠又ハ疑ハシキ齧鼠ノ有無	發病前ノ健康状態	病毒ノ系統	傳染ノ原因	
發見ノ方法	病發	月	日	見發
住家及周圍ノ狀況有菌鼠又ハ疑ハシキ齧鼠ノ有無	發病前ノ健康状態	病毒ノ系統	傳染ノ原因	

機會等ノ認 ムヘキモノ	發見當時ノ 症候大要細 菌検査ノ成 績	發見地域ニ 對スル豫防 措置
----------------	------------------------------	----------------------

(注意) 本表ハ患者發生ノ順序ニ依リ番號ヲ附スルモノトス

轉歸月日ハ其都度報告ヲ要ス、死後ノ發見ニ係ルトキハ本報告中ニ死亡月日ヲ附記スヘシ

(乙號)

號有菌(ペスト)鼠報告

發見ノ場所	發見ノ月日	確定ノ月日	發見ノ方法
發見場所附近ノ狀況	發見ノ月日	確定ノ月日	發見ノ方法
病毒系統ト認ムヘキモノ			

發見地域ニ對スル豫防措置

(注意) 本表ハ有菌鼠發見ノ順序ニ依リ番號ヲ附スルモノトス

同一所ニ於テ數頭ヲ發見シタルトキハ其頭數、場所ヲ明記シ且號數ヲ自何號至何號ト記スヘシ

(丙號)

ペスト遮斷區域内豫防事務成績

區域ノ位置	戶數	庫倉
除鼠的消毒方法ニ從事シタル人員		
全上開始并終了月日		
除鼠裝置ノ配置個數全日數		
除鼠數	全上ノ生鼠	生鼠
普通鼠	内有菌	鼠
患者	ペスト	
患者	患者	
消費シタル消毒藥ノ概量		

(丁號) 月一般豫防事務成績報告

一、除鼠成績

市區町村名	除鼠數		細菌検査ヲ行ヒタルモノ	ペスト菌ヲ有スルモノ	細菌検査ヲ行ハサルモノ	乾固ハハ腐敗モナシ	其他	
	買收	其他計						
累計	同	同	同	同	同	同	同	
計								
市區町村名	住	家	市場	工場	停車場	貨物揚場	倉庫	除鼠數
累計								
計								

二、死体検案成績

市區町村名	脳膜炎	肺炎	肋膜炎	脚氣	心臓	出血	心臓	敗血症	腺腫	筋炎	毒丹	トスベ	其他ノ	其他	計
累計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
計															

三、除鼠の清潔方法施行成績

市區町村名	住	家	市場	工場	停車場	貨物揚場	倉庫	除鼠數
累計								
計								

四、検診成績

市區町村名	検診ヲ行ヒタル		検診ニ依リ發見シタル		其他傳染病患者
	戸數	人口	ペスト患者	同疑似患者	
注意患者					
累計					
計					

計							
累計							

●富山縣告示第百十四號

明治三十八年五月二十六日

左記ノ者石川縣河北郡津幡町字庄六十番地ノ一ハ轉居シ産婆名簿取消ノ登録出願ニ付本月二十二日産婆名簿ヨリ削除ス

年 月 日	登録番號	事 由	住 所	氏 名
明治三十六年十月十日	四五〇	産婆規則第十八條ニ依リ石川縣ニ高岡市木津町八十番地於テ登録ヲ受ケ居リシモノ	高岡市木津町八十番地	高橋ヤイ

●富山縣告示第百十七號

明治三十八年六月二十三日

高岡市白銀後町産婆勝島ツ子今回押田ツ子ト改姓シ富山市清水町七十三番地へ移轉開業ニ付産婆名簿ヲ訂正ス

●富山縣告示第百二十一號

明治三十八年六月三十日

左ノ通産婆名簿ニ登録ス

富山縣平民

高 田 セ キ

元治元年八月生

登録年月日	登録番號	住 所	開業地	登 録 事 由
明治三十八年六月二十四日	第四百六十四號	中新川郡東水橋町大字同町百四十九番地	住所ニ同シ	明治三十八年六月十四日富山縣ニ於テ産婆試験ニ合格シタルニ依ル

●富山縣示第百二十六號

明治三十八年七月七日

富山縣中新川郡下段村大字東大窪開六十八番地産婆杉谷クニ死亡ニ付産婆名簿ヨリ削除ス

●富山縣告示第百二十七號

明治三十八年七月七日

富山縣婦負郡古澤村大字杉谷村千四十番地産婆竹田ツル死亡ニ付産婆名簿ヨリ削除ス

●富山縣告示第百二十二號

明治三十八年七月七日

富山縣東波郡高瀬村大字南北市村六百二十六番地産婆岡田ムサ死亡ニ付産婆名簿ヨリ削除ス

●富山縣告示第百二十九號
左ノ通産簿名簿ニ登録ス

明治三十八年七月七日

富山縣平民

米澤しげ

文久二年十月生

登録年月日	登録番號	住	所	開業地	登録事由
明治三十八年第四百六	富山縣射水郡新湊町大字六	住	所	同シ	明治三十八年六月十四日富山縣ニ於テ産婆規則ニ依リ産婆名簿ニ登録シタル者左ノ如シ
六月二十九日十五號	渡寺町九百二十六番地				産婆規則ニ依リ産婆名簿ニ登録シタル者左ノ如シ

●富山縣告示第百六十二號

明治三十八年九月一日

産婆規則ニ依リ産婆名簿ニ登録シタル者左ノ如シ

登録年月日	登録番號	事	由	住	所	氏名
八月廿八日四六六	東京府ニ於テ産婆試験ニ合格シタルモ			住	所	氏名
	シタルモノ					

●富山縣告示第百七十五號

明治三十八年九月二十二日

富山縣水見郡敷田村大字敷田村百十七番地産婆齋谷キサ死亡ニ付産婆名簿ヨリ削除ス

●富山縣告示第百九十一號

明治三十八年十月二十七日

富山縣東礪波郡井波町大字井波町二千八十五番地産婆岡島ハツ死亡ニ付産婆名簿ノ登録ヲ取消ス

●富山縣告示第百九十二號

明治三十八年十月二十七日

富山縣射水郡二塚村大字二塚村八百九十三番地産婆坂田ハヨ死亡ニ付産婆名簿ノ登録ヲ取消ス

●富山縣告示第百九十九號

明治三十八年十一月十日

富山縣東礪波郡北股若村大字西部金屋村二千九百八十四番地産婆喜多ヒロ死亡ニ付産婆名簿ノ登録ヲ取消ス

●富山縣告示第百九十九號

明治三十八年十一月二十四日

左記ノ者東京市日本橋區堀江町三丁目四番地へ轉居シ産婆名簿取消ノ登録出願ニ付産婆名簿ヨリ削除ス

年	月	日	番號	事	由	住	所	氏名
明治三十三年	六月	三十日	第四百二十七號	産婆規則第五條ニ依リ本縣ニ下新川郡魚津町大字紺屋町	同シ	住	所	氏名
				於テ免許セシモノ				

●富山縣告示第二百十一號
左ノ通産婆名簿ニ登録ス

明治三十八年十二月一日

富山縣平氏

四十谷 八重

明治三十二年七月生

登録年月日	登録番號	住	所	開業地	事	由
明治三十八年十一月廿一日	第四百六十八番地	上	新川郡濱黑崎村大字濱黑崎村	同	上	明治三十四年九月十三日本縣ニ於テ産婆試験ニ合格シタルモノ

●富山縣告示第二百十二號

明治三十八年十二月一日

富山縣中新川郡滑川町大字滑川中町千二百七十九番地産婆目下勇廢業ニ付産婆名簿ヨリ削除ス
●富山縣告示第二百三十五號
産婆規則ニ依リ産婆名簿ニ登録シタル者左ノ如シ
明治三十八年十二月二十九日

登録年月日	登録番號	登録事由	開業地	出張所	住所	氏名
明治三十八年十二月十八日	第四六八號	玉縣ニ於テ施行シタル産婆試験ニ合格シタルニ因ル	住所在地ニ同シ	下新川郡魚津町大字馬出町十二番地	下新川郡東布村大字福平千六百四十四番地	富田トシ

●富山縣告示第二號

明治三十八年四月二十八日

客年來韓國仁川港ニ於テ本邦人間ニ痘瘡ノ流行アリテ今尙ホ終熄セサル狀況ナリ而シテ同地方ハ本邦其ノ他各地方トノ交通頗ル頻繁ヲ極メ日々數百名ノ多人數出入スルヲ以テ此際該地方ニ於テ痘瘡ヲ施行シ充分防禦セシムルコトハ非常ニ手數ヲ曠スノミナラス比較的多額ノ痘料ヲ要シ甚々不利益ナルヲ以テ自今種痘善感後五ヶ年以上ヲ經過シタル者ニシテ渡韓セントスルトキハ目的地ノ仁川ナルト否トヲ問ハス渡航前ニ於テ必ス種痘ヲ爲シ其ノ證ヲ携帶渡航スル様注意スヘシ

第十四類 ○統計

●富山縣訓令甲第七十一號

明治三十八年十二月一日

郡役所 市役所

明治三十七年十一月 富山縣訓令甲第九十五號富山縣勸業統計様式申左ノ通改正ス

一、一般ノ注意事項中ニ左ノ一項ヲ追加ス

一 本様式ニ定ムル小票ヲ以テ報告ヲ要スル件ハ其ノ用紙ハ當廳ヨリ交付ス

一、勸第四四、工産物雜類ノ注意事項中ニ左ノ一項ヲ追加ス

一 青銅器、銅器、菅笠、縫針、蒔莖等其ノ地ノ特産物ハ本表ニ準シ付表トシテ報告スベシ

一、勸第一八、勸第五九、勸第五四ノ様式左ノ通改ム

勸第一八 織物

(報告期翌年二月限)

市郡 明治 年 月 日 印者調取

勸第一八 織物

業 務	住 所	村 町	織 物 類 別 名 稱	織 物 類 別 名 稱	織 物 類 別 名 稱	織 物 類 別 名 稱	者 業 者		機 工			
							會 社 名	氏 名	數		數	
									男	女	手 織 機	力 織 機

(注意)

一 本票ハ一切ノ織物ニ就キ一年間ノ製出額ヲ調査スルモノトス (勸第五九、特別織物ニ屬スルモノモ本票ニ包含スヘキトス)

但シ營業者及機數ハ十二月末日ノ現在、織工ハ平常使用スル一日ノ平均數ニ依ル

一 營業種別ハ左ノ區別ニ依リ記入スヘシ但シ二種以上ヲ兼メル場合ニ於テハ其ノ各種類及主副ノ別ヲ記スヘシ此ノ場合ニ於テハ機數欄ノ各事項モ區別シ其ノ旨記入スヘシ

イ 工場 (十人以上ノ織工ヲ有スル機織場)

ロ 家内工業 (主トシテ家族相集マリ(十人未滿ニテ)機織ニ從事スルモノ但シ十人未滿ナレハ他人ノ相集マルモノト雖家内工業ト看做ス)

ハ 織元 (原料ヲ仕入置キテ貨織者ヲシテ機織セシムルモノ)

ニ 賃織業 (他人ノ原料ヲ受ケテ機織スルモノ)

一 力機織トハ水力、蒸力、瓦斯力、電氣力等ニ依リ運轉スル機械織機ヲ云ヒ、手織機トハ力機織ニ屬セサル總ヘテヲ云フ(「バツタン」「ジャカード」機ノ如キモ手織機トス)

一 自家用織物ハ合算スヘカラス

一 重複ヲ避クル爲左ノ通り記入スヘシ

一 織元ニ於テハ織物ノ數量、價額ヲ記入スヘキモ機數、織工ハ之ヲ記入スルニ及ハス

一 賃織業ニ於テハ機數、織工及織物ノ名稱、數量ヲ記入スヘキモ織物ノ價額ハ之ヲ記入スルニ及ハス

一 帶地ハ子供帶ハ男女トモ二本ヲ以テ一本ニ數ヘ女帶地半巾物ハ二本ヲ以テ一本トス

一 匹ハ反ニ換算シ其ノ他卷、本、枚、碼等ヲ以テ稱呼スルモノハ數量、價額トモ各別ニ記載スヘシ

一 織物ノ類別及名稱ハ左記ニ依リ記入スヘシ

イ 絹 織物 (紋織類、縮緬類、羽二重類、斜子類、絲織類、袖太、織類、平絹類、縮類、透綾類、海氣類、傘地類、袴地類、男帶地類、女帶地類、其ノ他)

ロ 絹綿交織物 (紋織類、縐子類、縮類、二子其ノ他絲入木綿類、勾配海氣類、袴地類、男帶地類、女帶地類、其ノ他)

ハ 綿 織物 (白木綿、二子其ノ他綿木綿、緋木綿、縮木綿、織色木綿類、縮フランネル、蚊帳地、袴地類、男帶地類、女帶地類、其ノ他)

ニ 麻 織物 (生麻布、上布類、蚊帳地、其ノ他)

ホ 毛織及其物交織物 (モスリン、(單位)フランネル類、(單位)セル類、(單位)毛布、(單位)藤肩掛類、(單位)羅紗、(單位)其ノ他 (價額ノミヲ記) (織スルコト)

ハ 綯 通 (綿綯通、麻綯通、毛綯通、其ノ他、(單位)孰モ豊)

ト 由多加織其他地 (區別ヲナサス (單位)ハ豊)

チ 織物 雜類 (以上列記ノ類ニ屬セサル總テノ織物ノ價額ノミヲ記入スルコト)

一 本票ハ一營業者毎ニ式ノ通り記入シ一票毎ニ番號ヲ付シ之ヲ一括シテ其ノ封筒ニ總計何枚ト記スヘシ但シ一枚ニ記載シ能ハサルトキハ他ヲ付表トシ其ノ數ニ合算スヘカラス

一 本票用紙ハ厚紙ヲ用ヒ其ノ寸法ハ曲尺縱五寸横五寸五分トス

勸第五九 特別織物 (報告期翌年二月限)

號

市郡

明治 年

印者調取

九五第勘		票物織別特				者業營		
價額	數量	織工		機數		營業種別	社名、會	住所
		計	女	男	手織機			
								村町

(注意)
 一 本票ハ勘第一八、織物中ノ輸出向羽二重類、縮縮、勾配海氣ニ就キ調査スルモノトス (勘第一八)
 織物ニ依リ報告スル額ト本票ニ記入スヘキ額ト全
 部同シキモ尙ホ本票ニ依リ報告ヲ要スルモノトス
 一 本票ハ各織物毎ニ一表ニ調製シ上欄 特別織物ノ次ニ其ノ名種 (輸出向羽二重、縮織、勾配海氣) ナ記入スルモノトス

一 單位ハ輸出向羽二重ハ「斤」縮縮ハ「反」勾配海氣ハ「碼」ニ依ルヘシ
 一 其ノ他ノ各事項ハ勘第一八織物ニ同シ
 勘第五四 公有社寺私有林野所有別 (報告期其年四月限) 明治 年三月末日現在

原	公有			野	社	寺	私	有	私	有
	郡	市町村	其他ノ団体							
	積簡	積簡	積簡	計	積簡	積簡	積簡	積簡	積簡	積簡
	段	段	段	段	段	段	段	段	段	段

一、縣勘第八〇、諸市場ノ次ヘ左ノ二表ヲ追加ス
 勘第八一 何鑛製煉業 (報告期翌年二月限) 明治 何年

位工製	置場煉	入煉製	住	氏	所	名
-----	-----	-----	---	---	---	---

事記	製 品		鑛 品	
	種別	越 高	製 出 高	販 賣 價

(注意)

- 一 本票ハ他人ノ掘探セル鑛物ヲ買入レ製煉スルモノ又ハ砂鑛ヲ製煉スルモノニ就キ調査スルモノトス
- 一 種別ノ欄ニハ越高以下各欄ニ記入スヘキ鑛品、製品ノ各種類ヲ列記スヘシ
- 一 鑛品ハ貫テ單位トシ製品ノ内金、銀ハ其ノ他ハ斤ヲ單位トス

- 但シ鑛品製品ノ區別ナク鐵類ハ貫、石油ハ升ヲ單位トス
 - 一 砂鑛ヲ製煉スル場合ニ於テハ自己ノ採取セルモノト買入レタルモノトヲ問ハズ同一ニ買入高ノ欄ニ記入スヘシ
 - 一 鑛業條例ニ所謂鑛業人ト雖モ買入鑛物ニ係ル分ハ總テ本表ニ記入スヘシ
- 縣勸第八二 民有山林 (報告期其ノ年五月限) 明治 年三月末日現在

郡 市 名	總 段 別	樹 林 地 反 別		無林地段別	不生産地反別
		潤葉樹林反別	針葉樹林反別		

(注意)

- 一 樹林地段別ノ欄ニハ現ニ樹林ノ林相ヲ爲シテ生育スル段別ヲ記スヘシ
- 一 無林地段別ノ欄ニハ草山柴草地等現ニ林相ヲナサ、ル地ノ段別ヲ記スヘシ
- 一 潤葉樹林地段別ノ欄ニハ雜木類ノ生シタル林地段別ヲ記スヘシ
- 一 針葉樹林トハ松林、杉林ノ類ヲ云フ
- 一 針葉樹ト潤葉樹ト混淆シテ生シタル林ニ在テハ其ノ歩合ノ多キ樹數ニ從ヒ記入スヘシ
- 一 不生産地ノ欄ニハ高山ノ絶頂若ハ岩山ノ類ニシテ到底林業ヲ營ムコト能ハサル段別ヲ記スヘシ
- 一 備考ニハ針葉樹林中例ヘハ赤松ハ七分ニシテ黒松ハ三分ナリト云フカ如ク記スルヲ便トス

第十五類 ○ 雜則

● 富山縣訓令甲第六十三號

三十八年十月二十日

郡市長

戰局終リテ告ケ 聖詔茲ニ煥發セラレタリ此時ニ當リ管下重要ノ職ニ膺レル各位ニ對シ切ニ其ノ留意ヲ求メントテ欲スルモノアリ

茲ニ帝國ノ露國ト覺テ啓キテヨリ爾來茲ニ二十閱月國民義勇奉公ノ精神ハ勤勉共助ノ實踐ト相俟テ克ク軍國ノ後援ヲ爲シタルモノ是レ主トシテ各位カ勵精其ノ力ヲ效シ一般民人ト相頼リ相信シテ指導其ノ宜シキヲ得タルモノニシテ殊ニ召集事務ニ國庫債券ノ募集ニ其ノ他軍隊ノ後援ニ孰レモ好成績ヲ呈シタルハ本官ノ深ク其ノ勞ヲ多トスル所ナリ

今ヤ帝國ト露國トノ和約成立シ平和茲ニ克復ヲ見ルノ時ニ於テ各位ト共ニ優渥ノ詔勅ヲ拜ス 聖旨宏遠之ヲ捧讀スルモノ誰カ 大御心ノ至仁至厚ナルニ感激セサルモノアラシヤ邦家萬世ノ基礎ヲ鞏固ニシ帝國ノ光烈ヲ發揚スルノ時機唯此時ヲ然リトス

仍テ各位ニ對シ切ニ留意ヲ求メントスル要項ヲ左ニ啓示ス

- 一 惟フニ帝國ノ位置ハ東洋ノ平和ヲ確保スルノ大任ニ膺リ茲ニ日英同盟ノ約亦新ニ成リ其ノ條章ノ發表セラレ我國光ノ益々宣揚セラルト同時ニ帝國ノ舉措國民ノ首動ハ更ニ列國ノ

注視ヲ惹ク極テ多キヲ加フルモノアリ而シテ其ノ一旦干戈ヲ交ヘタル露國ハ再ヒ舊盟ヲ尋テ亦帝國友邦ノ一タリ我國民ノ善隣緝睦ノ氣象ニ致キ爾餘締盟國ニ比シテ其ノ接遇敢テ厚薄ヲ見サルヘキハ本官ノ深ク信スル所ナルモ各位克ク其ノ趣旨ヲ體シ其ノ意義ヲ敷衍シ管下民人ノ帝國文明ノ光榮ヲ毀傷スルカ如キ言動ナキヲ期スヘシ特ニ宗教ニ關スル措置ニ就テハ將來一層其ノ保護ニ注意シ我國民ノ性格品藻ニ對シ苟モ列國國民ヲシテ疑惑ヲ懷カシムルカ如キコトナキヲ要ス

- 一 開戰以來鉅億ノ軍資ヲ供給シ而モ内地ニ於ケル經濟ノ狀態ハ頗ル健全ニシテ之ヲ時局以前ノ狀況ニ比シ却テ幾多民業ノ興振ヲ見ルニ至リタルモノ是レ實ニ内ニ在ル國民力出征將卒ノ勞苦ヲ察シ其ノ命ヲ重シ死ヲ輕ニスルノ精神ヲ移シテ一意奉公ノ誠ヲ致シ刻苦匪懈其ノ業ニ勤メ其ノ分ヲ竭シタルノ結果ニ依ルモノ多シト雖モ而モ軍資ノ多クカ内地産業社會ニ散布セラレタルノ餘慶亦與リテ力ナシトセス今ヤ平和克復ト同時ニ是等軍需品ノ供給ニ依リ其ノ衣食ノ資ヲ得タル細民ノ一時其ノ職ヲ失ヒ其ノ業ヲ轉スルノ際勢ヒ其ノ生途ノ困難ニ遭遇スルノ已ムヲ得サルモノ亦少キニアラサルヘシ此際戰後勞務ノ轉換ニ苦ム者ヲ救治シ併セテ經濟產業界ノ調和ヲ計ルノ途亦審サニ考慮ヲ要ス各位豫メ克ク提掖指導以テ戰後失業者ノ徒ヲニ其ノ方向ニ迷ヒ困弊疲憊ノ虞ナキヲ期スヘシ

一時局ノ始ニ當リ一般民人負荷ノ緩和ヲ圖ルガ爲メ地方公共團體ニ於テハ其ノ事業ノ緊縮ニ努メ其ノ從來地方行政ノ肅清ニ躊躇セシモノ之ヲ機トシテ斷行宜シキヲ得タルモノ亦極テ少カラス今後一般財務ニ關シ尙益々之カ整理ニ留意シ敢テ其ノ失墜ナキヲ期スヘキハ固ヨリ言テ俟タス而モ國運ノ進歩ハ退嬰徒ラニ消極ノ狀態ニ甘ンスルヲ許サ、ルモノアリ乃チ其ノ將來ニ處スル須ラク事ノ輕重緩急ヲ精査シ以テ公益ヲ進メ資源ヲ拓キ整理經營ニツナカラ其ノ宜シキヲ制シ地方團體ヲシテ其ノ鞏固健全ノ發達ヲ遂ゲシメ以テ益々其ノ大成ヲ期スヘシ

一時局以來士氣ノ奮興スル所發シテ殖産教化勤勉貯蓄其ノ他各種有益ノ施設トナリ地方協同ノ力ヲ要スル諸般ノ經營ニシテ平時之ヲ舉グルニ難カリシモノ却テ戰時ノ動機トシテ多ク其ノ緒ニ就キ或ハ紀念的專業ノ名ニ依テ各地其ノ發展ヲ見ルニ至リシハ各位ト共ニ深ク慶シテ措カサル所然レトモ創業ハ易ク守成ハ難シ經營漸ク成テ實行之ニ伴ハサルトキハ或ハ畏ル施設中道ニシテ廢絶ノ不幸ヲ見ルナキヲ今ヤ平和克復シ人心漸ク荒怠ノ虞ナキヲ保セス此際前叙各般ノ施設ハ更ニ一層其ノ充實ヲ完フシ其ノ戰時ニ於テ能クセシモノ戰後益々之ヲ擴充シ以テ帝國將來ノ進運ニ資センコトヲ期スヘシ此ノ如クシテ懈ラスンハ獨リ千古無前ノ凱旋ニ對シ好個ノ紀念タルノミナラス又以テ永ク後世ニ對シ其ノ率由スナキ範ヲ示スニ足ラン

一 戰時多數ノ壯丁出テ、軍事ニ從ヘルニ拘ハラス内殖産ノ效果散テ減退ヲ見ルニ至ラザリシモノ是レ一ニ老幼婦女相扶ケテ闔家其ノ業ニ勵ミ拮据勉勉其ノ力ヲ悉セルノ致ス所益々之ヲ砥勵シテ其ノ美風ヲ存養スルニ努ムヘシ今ヤ復タヒ其ノ子弟ノ凱旋ヲ迎ヘントスルノ時ニ際シ凱旋者ノ風氣ハ自ラ一郷ノ注視スル所タルヘキヲ以テ各位ハ地方有志ノ士ヲシテ宜シク歸還ノ壯丁ヲ善導シ其ノ必要アルモノニ對シテハ之ニ業ヲ介シ職ヲ授ケ戰時ノ勇士ヲシテ亦能ク平和ノ時ニ於ケル勤勉ノ民タルヲ得セシメ以テ長ヘニ其ノ功勳ト榮譽トヲ保タシムルノ道ヲ盡サンコトヲ望ム

一 交戦長日月ニ亘リテ一般人民ノ負荷特ニ其ノ重キヲ加ヘタルモノアルニ拘ハラス出征軍人ノ家族遺族ニ對シ男女力ヲ協セ貧富其ノ分ヲ竭クシテ援護ノ業ヲササルナク其ノ扶助ノ道ヲ圖ルニ方テモ亦徒ラニ金品ヲ給與シ遊手徒食ニ流ル、ノ弊ヲ避ケ各地其ノ狀況ニ應シ生業ニ依リ之ヲ扶助シ以テ將來自營獨立ノ效果ヲ擧ケタルモノ亦極シトセス帝國軍人ノ威武ヲ中外ニ發揚シタルモノ是等後援救護ノ道具サニ備ハリ出征者ヲシテ亦後顧ノ憂ナカラシメタルノ功與リテカアルコト多言ヲ要セス唯夫レ人心機微ノ間ニ杆極シ情感ノ昂低或ハ平和克復ノ爲ニ左右セラル、ノ虞ナシトセス出征軍人ノ凱旋其ノ郷ニ歸ルノ日ハ尙數箇月ヲ

除スモノアリ此際援護ヲ周到ニシ隣保相扶ノ誼ヲ發揮スルノ要彌々其ノ緊切ヲ加フルノ今日ニ於テ各位ハ一層其ノ部下ヲ督勵シ鄉黨隣里一般民人ヲ砥勵シ毫モ懈怠ナキヲ期スヘシ若シ夫レ戰死者ノ遺族及廢兵ニ至リテハ其ノ境遇悲慘眞ニ憫諒スヘキモノアリ是等遺族ニ對シ其ノ生業ヲ扶助シ其ノ遺子ヲ教養スルノ途共ニ周到ヲ期シ以テ其ノ奉公忠烈ノ義ニ酬ユヲノ志ヲ明ニシ廢兵ニ對シテハ鄉黨隣保又努メテ其ノ負傷ノ因テ以テ基ク所ノ名譽ヲ表彰スルノ方法ヲ案シ其ノ負傷ノ輕重ニ從ヒ各適應ノ施設ニ依リ其ノ不幸ヲ救済スルノ途ヲ講シ以テ鄉黨隣里各其ノ譽ヲ競フノ美風ヲ發揚シ長ヘニ帝國士氣ノ涵養其ノ淵源ノ深キヲ中外ニ示スハ獨リ負傷者ニ對シ感謝ノ誠ヲ致ス所以ナルノミナラス國民風化ノ振否亦之ニ依リテ上下スル所ナキニアラス是等ニ就テハ政府亦措畫セラル、所アリト雖モ其ノ完キヲ期スル上ニ於テ地方有志ノ協力ニ俟ツヘキモノ極テ勵カラス各位特ニ周密提擧ノ勞ヲ盡サシコトヲ望ム

一 偉大ノ功績ヲ奏シタル軍人ノ凱旋セントスルニ際シ其ノ將來ヲ戒飭スルノ必要ナルハ固ヨリ其ノ所ニシテ今般陸軍大臣ハ特ニ隆軍一般ニ對シ訓示セラル、所アリタリ惟フニ右等多數ノ軍人ハ久シク戰場ノ生活ヲ爲シ死生ノ間ニ出入シタル結果其ノ意氣概子軒昂シ凱旋後鄉里ニ歸還スルモ直ニ平常ノ生活ニ復シテ從來ノ職業ニ拮据スルコト難ク動モスレハ粗放

ニ流レ本業ヲ拋擲スルニ至ルノ虞ナシトセス之ヲ等閑ニ付スルトキハ當ニ本人既得ノ名譽ヲ汚損スルノミナラス延テ一國ノ産業ニ多大ノ影響ヲ來スヘシ故ニ各位ハ宜シク此等在郷者ヲ指導シテ本業ニ勉勵セシメ其ノ出征ノ爲メ職業ヲ失ヒタル者ハ適當ノ業務ニ就カシムル等以テ前叙ノ弊害ヲ防止スルニ努メントコトヲ望ム

一 戰後ノ今日ニ於テ國民一般勤勉力行以テ國本ヲ培養セサルヘカラス而シテ國民ヲシテ事ニ此ニ從ヒ以テ其ノ効果ヲ收メシムルニ就テハ各位ノ啓迪指導ニ待ツモノ屈指ニ逸アラス本官ハ各位ノ今後一層奮勵センコトヲ望ム

イ 農業ハ我邦ノ古來最モ重キ措ク所ニシテ其ノ發達ノ程度ハ他業ノ比ニアラサレトモ尙土地ノ利用智識資本ノ應用等ニ於テ缺クル所鮮少ニアラス現ニ邦内農業上利用スヘキノ土地尙數百萬町歩ヲ存セリ之ヲ開發シ之カ遺利ヲ收得スルト共ニ現在ノ耕地ヲ整理シ灌溉排水ノ便ヲ謀リ且農業ニ一層ノ改良ヲ施シ大ニ生産力ヲ増加シ收穫ヲシテ今日ニ倍加セシムルコト亦敢テ難キニアラス又蠶絲畜産園藝等ハ將來發達ノ餘地頗ル多キヲ以テ適長ノ改善ヲ施サハ大ニ其ノ產額ノ増加ヲ見ルコト亦疑ヲ容レサルナリ特ニ蠶絲ハ輸出品中ノ巨擘ニシテ正貨吸收ノ作用之ニ待ツコト大ナルヲ以テ力ヲ盡ニ盡サ、ルヘカラス而シテ近時産業組合ノ漸次發達セントスルノ機運ハ實業ノ四則タル勤勉儉約信用一致ノ活用

及普及ヲ促シ農業ノ發達農産ノ増殖上其ノ利スル所至大ナリトス之ヲ要スルニ農業ノ前途尙遼遠ニシテ且多望ナリ故ニ各位ハ當業者ヲシテ奮テ之カ振興ニ努メシムヘキハ勿論農會農事試驗場巡回教師其ノ他關係組合團體等ヲシテ大ニ助力勞援以テ其ノ効果ヲ擧クルニ努メシメンコトヲ望ム

日 商工業ニ關シ最モ急務ナルハ經濟組織ノ革新ニアリ本邦ノ工業ハ概子其ノ規模狹小ニシテ貿易品ノ統一改良ヲ沮害スルモノ亦少シトセス且現時ノ如キ過渡時代ニ於テハ舊態ノ生産組織ニ關スル幾多複雑ナル機關ノ介在スルアリテ生産費ヲ累加スルハ數ノ免ルヘカラサル所ナリ要スルニ此ノ如キ經濟組織ハ海外貿易ノ發達ヲ企圖シ國際的商品ヲ改造スルニ於テ最大ノ障礙ナリ固ヨリ一朝ニシテ之カ釐革ヲ望ムヘキニアラスト雖モ漸次國際市場ノ需要ニ應スルノ方針ヲ執リ適當ノ方法ヲ講セサルヘラス是ニ於テ事業ノ種類ト經濟事情トニ鑑ミ合同ヲ利便ナリトスルモノハ可成沿革的ノ事情ヲ排シテ合同ヲ企圖シ已ムナクハ事業一部ノ合同ヲ爲スハ企業ノ基礎ヲ鞏固ナラシムニ於テ最必要ナル措置ナリトス而シテ此ノ如キハ獨リ工業上ニ於ケルノミナラス商業上ニ於テモ亦頗ル利益アル方法ニシテ此等協力一致ノ行動ニ依リテ中間ニ介在スル幾多ノ複雑ナル機關ヲ撤シ以テ利便ナル取引ヲ爲スヲ得ルニ至ルヤ必セリ

ハ 商工業ノ進歩發達ハ工業所有權ノ保護ト相待チテ離ルヘカラサルモノナリ然ルニ我商工業者ニシテ法律ノ保護ヲ利用スルモノ多カラサルハ常ニ憾トスル所ナリ發明意匠實用新案ハ工業ニ創意嶄新ノ要素ヲ附與シ商標ハ商品ノ聲價ヲ標識シ各其ノ効用ヲ發揮スルモノナルヲ以テ各位ハ商工業者ヲシテ宜シク法律ヲ利用シ以テ其ノ獨立ヲ鞏固ナラシメンコトヲ望ム

ニ 我邦ノ森林タル嘗テ濫伐ノ弊ヲ襲ヒ荒廢ニ歸セルモノ多キヲ以テ之ヲ養成シ且豊富ナル利源ノ未タ開發セサルモノアルヲ以テ之ヲ拓殖スルハ刻下ノ急務ナリトス本邦森林ニ於ケル主副産物ハ工藝其ノ他各種ノ原料ニ資シ之ヲ利用スルノ餘地亦乏シカラサルモノアリ幸ニ戰時中紀念其ノ他ノ目的ヲ以テ各地造林ヲ行ヒ財力ノ充實ニ資センコトヲ期スルモノアルハ洵ニ喜フヘキコトナリ今後益々森林ノ養成開發ヲ勉ムルト共ニ林産利用ノ發達ヲ期シ海外ノ販路ヲ擴張シ以テ森林ノ利益ヲ増進セサルヘカラス蓋シ森林ノ養成ハ永遠ヲ期スルノ事業ニ屬シ其ノ養成開發及販路ノ擴張各適當ノ計畫ヲ要スルヲ以テ用意周到ニ當リ以テ森林ヲシテ國家財力ノ資源タラシムヘシ

ホ 金銀ノ産出ハ貨幣制度ノ基礎ヲ鞏固ニシ銅石炭鐵石油等ノ産出ハ或ハ輸出ヲ増シ或ハ輸入ヲ減シテ貿易ノ均衡ヲ維持ス而シテ此種ノ鑛業ハ我邦ニ於テ大ニ發達ノ望アルモノニ

屬スルニモ拘ハラス數多ノ鑛區中實際ニ操業セラル、モノ頗ル稀ナルハ最遺憾ニ堪ヘサル所ナリ既ニ事業ニ從事スルモノト雖トモ其ノ設備往々疎漫ニ流レ探鑛及開坑ノ施設採鑛ノ進捗ニ伴ハサルカ爲ニ或ハ需要ノ急ニ應スル能ハス或ハ産出ノ減少ヲ來スカ如キ事實ナキニアラス此際斯業發展ニ資スルノ方法ヲ講スルハ戰後經營上一日ヲ忽カセニスヘカテサルナリ故ニ各位ハ營業者ヲシテ宜シク同心協力以テ遠大ノ計畫ヲ立テ測國ノ産業ニ對峙スルノ實ヲ舉ケシメ以テ國家經濟上遺憾ナカラシメンコトヲ望ム

本邦沿海ノ漁業方法ヲ改良スルハ勿論北ハ白令海オコツク海日本海及滿韓ノ近海ヨリ南ハ臺灣附近南洋ニ亘リ廣瀾ナル海洋ニ於テ漁利ヲ舉クル爲ニ大ニ遠洋漁業ノ發達ヲ期スルヲ要ス殊ニ今般樺太島北半部我版圖ニ歸シ且露領沿海ノ漁業權獲得セラレタルヲ以テ此等ノ地方ニ於ケル水産業ニ對シテハ施設其ノ宜キヲ得サルヘカラス而シテ其ノ漁獲物ハ獨リ内地ノ需要ニ供スルノミナラス諸種ノ製造方法ヲ用ヒ近クハ東亞南洋遠クハ歐米諸國ノ需要ニ充テ以テ國富増進ニ資セサルヘカラス此ノ如ク漁業ノ發達及漁獲物ノ利用ヲ増進スルト同時ニ内地沿海及河川湖沼ニ於ケル魚介藻ノ養殖事業ヲ獎勵シテ水族ノ蕃殖ヲ圖リ以テ無盡ノ富源ヲ涵養センコトヲ要ス前叙水産業ノ改良發達ヲ圖ラントセハ多大ノ資金ヲ要スルハ勿論ナリ然ルニ從來漁業者ハ貯蓄ノ念ニ乏シキヲ以テ此等改良事業

ハ獨力ヲ以テ之ヲ實行シ得サルノ憾アリ故ニ各位ハ營業者ヲシテ宜シク共同團結シテ資金ノ方法ヲ設ケ自家ノ資財ヲ充實シ以テ急須ニ應スルノ途ヲ講セシメンコトヲ望ム

滿韓地方ノ利源開發ニ關シテハ政府ニ於テ特ニ吏員ヲ派シテ之ヲ踏査セシメラレツ、アルヲ以テ時々其ノ調査ノ結果ヲ公示シ營業者ノ參考ニ資セラル、コトアルヘシ特ニ滿洲ニ於ケル鐵道ノ大半我有ニ歸シ運輸ノ便大ニ開ケタルヲ以テ各位ハ營業者ヲシテ奮テ此等ノ便宜ヲ利用シ該地ニ向テ速ニ經營ノ歩武ヲ進メ以テ戰捷ニ伴フノ美果ヲ收得セシメンコトヲ望ム

一 教育ノ事ハ軍國多事ナリシニ關ハラス減退ノ形迹ナク却テ好影響ノ認ムヘキモノアルハ職トシテ教育ノ事ニ當ルモノ、皆能ク平時ニ於ケルヨリモ一層勵精其ノ事ニ從ヒ誠實其ノ任ヲ盡シタルニ由ラスンハアラス今ヤ皇軍連戰連捷ノ結果開戰ノ目的ヲ達シ平和克復ヲ告グルニ當リ 大詔煥發將來ノ嚮フ所ヲ明ニセラル我國民タルモノ能ク 聖意ノ在ル所ヲ體シ國家富強ノ根源ヲ培養シ社會文明ノ進歩ヲ企圖スルニアラスンハ安ソ能ク國運ノ發展ニ應スルヲ得ン然リ而シテ國本ノ培養文化ノ發達ハ教育ニ待ツ所頗ル大ナルモノアリ戰後教育ノ經營ハ實ニ國家ノ急務ト謂フヘシ本官ハ各位カ教育ノ事ニ今後一層奮勵センコトヲ望ム

イ 忠君愛國ノ精神ハ我國體ノ精華ニシテ國民ノ特長タリ今回ノ戰役ニ當リ陸海軍人カ皆死

ヲ決シテ勇敢ニ奮闘シ一般國民カ舉國一致其ノ後援ヲ爲シ内外相應シ終始一貫シテ赤誠奉公以テ能ク開戦ノ目的ヲ貫徹スルニ努メタル皆此精神ノ發現ニ外ナラス故ニ各位ハ教育ノ事ニ當ル者ヲシテ宜シク茲ニ鑑ミ常ニ此精神ノ涵養ヲ努メ此精神ヲ基礎トシテ諸般ノ教育ヲ施サシメ平時ニ在リテハ國民ヲシテ舉國一致平和的國運ノ發展ニ盡サシメ又一且緩急アレハ義勇公ニ奉スルノ實ヲ舉ケシムルノ用意ナカラシメサルヘカラス

ハ 國本ノ培養ニ就キテハ今後一層國民ノ努力ヲ要スルモノアリ國本培養ノ方法ハ一ニシテ足ラスト雖トモ其ノ本源ニ至リテハ主トシテ教育ニ由ラスンハアラス故ニ各位ハ其ノ局ニ當ル者ヲシテ銳意學術技藝ノ發達ヲ圖ラシムヘキハ勿論實業教育ノ如キ之ヲシテ益々適切有效ナラシムヘク一般教育ニ於テモ正直勤勉忍耐等ノ精神ヲ養成シ進取ノ觀念及勞働ヲ尙フノ氣風ヲ助長シ又時習ヲ重スル習慣ヲ作ラシムヘシ若シ夫レ今後國民勝ニ狂レテ或ハ安逸遊惰ニ傾キ或ハ驕傲奢侈ニ陷ルカ如キコトアラハ管ニ戰勝ノ效果ヲ没却スルノミナラス國家將來ノ爲メ深ク憂フヘキナリ此ノ如キハ今ヨリ嚴ニ戒慎ヲ加ヘサルヘカラス

ハ 近時學生生徒ノ體格ハ從前ニ比シテ漸次良好ニ赴クノ傾向アリト雖モ我國民ノ體格ハ尙改善ヲ要スルコト甚々切ナルモノアリ故ニ各位ハ教育ニ當ル者ヲシテ學校ニ於テハ勿論

學校外ニ於テモ一層ノ注意ヲ加ヘ益々體育ヲ獎勵セシメ以テ智育德育ト相並進シテ決シテ偏輕スル所ナカラシメントトト要ス

ニ 戰時各地方ニ施設シタル各種ノ紀念事業ハ戰爭ノ終局ト共ニ廢滅ニ歸セシムヘキモノニアラス益々之カ維持發達ヲ圖リ一ハ以テ永久ノ紀念ト爲シ一ハ以テ教育上ノ目的ニ利用スルコトヲ怠ルヘカラス且戰役紀念事業中其ノ計畫略成リテ未タ實驗ノ施設ヲ見ルニ至ラサルモノ勘カラサルカ如シ此ノ如キハ宜シク速ニ之ヲ遂行完成シ以テ當初ノ目的ヲ達セシメントトト期スヘシ

ホ 戰後各地方ニ於テ教育上施設ヲ爲スヘキモノニ至リテハ多々之アルヘシト雖トモ須ク其ノ狀況ニ應シテ事業ノ選擇ヲ審ニシ事ノ緩急ヲ稽ヘ宜シキニ從ヒテ國家ノ進運ニ伴フノ計畫ヲ爲スヲ要ス又是等積極的經營ヲ爲スト同時ニ從來ノ施設中其ノ散漫ニ流ル、モノ、如キハ漸次之ヲ整理シ以テ益々經濟的利用ノ途ヲ講センコトヲ望ム

之ヲ要スルニ今日ノ事外列國ノ形勢ニ鑑ミ内國力充實ノ計一日ヲ緩フスヘキノ秋ニアラス其ノ戰時ニ於テ見ルヲ得タル鬱勃旺盛ナル國民ノ意氣ノ亦之ヲ治平ノ時ニ移シテ上下一致益々其ノ事ヲ勉メ其ノ業ヲ勵ミ進取經營積累蘊蓄以テ國是ノ嚮フ所ニ從テ國本ノ培養ヲ圖ルヘシ乃チ是ニ依テ國家ノ光榮ヲ無疆ニ保テ國家ノ進運ヲ永遠ニ扶持スルヲ得ヘク此ノ如クニシテ始メテ以テ優渥深

厚ノ 聖旨ニ奉答スルヲ得ヘシ谷位能ク此旨ヲ體シテ鞠躬努力其ノ計ヲ悉クシ其ノ任ヲ完フシ國民ノ氣宇ヲ大局ニ善導シ及時ノ務永遠ノ業ニツナカテ之ヲ克クセンコトヲ期スヘシ

●富山縣訓令甲第七十五號

明治三十八年十二月二十九日

郡	役	所	
市	役	所	
町	村	役	場

開戦以來邦家最モ多難ノ秋ニ處シ内能ク經濟界ノ秩序ヲ保テ外益々國國ノ信用ヲ厚カラシメタルモノ是レ固ヨリ國民奉公ノ至誠ニ因ルコト論ナカルヘキモ抑亦當局一般吏員カ誘掖提撕能ク勤勞ノ風ヲ興シ併セテ貯蓄ノ道ヲ獎メタルニ由ラスンハアラス今ヤ郵便貯蓄ニ付テ之ヲ觀ルモ其ノ現在ノ貯金額ハ五千餘萬圓ノ多キニ上ホリ開戦當時ニ比シ約六割ノ増嵩ヲ示セルカ如キ斯業開始以來會テアラサルノ好況タリ尙ホ戦後ニ通シ此ノ趨勢ヲ持續シ益々之カ涵養發達ヲ計ラスンハ實ニ將來ニ於ケル國富ノ充實ヲ完フスルコト能ハサルノミナラス却テ日清戦役後ニ於ケルカ如ク斯業ノ衰退ヲ來スノ虞ナキヲ保セサルヘシ其ノ貯金獎勵ノ方法ニ至テハ固ヨリ一ニシテ足ラスト雖郵便規約貯金ノ制ヲ利用シ益々管下民人ヲ誘導シテ之カ進歩ヲ圖ルカ如キ刻下ノ狀況ニ照ラシテ適

切ノ措置タルヘク又戦役ノ勳功ニ依リ軍人軍屬及其ノ遺族ニ下賜セラレタル現金及公債證書ハ鉅額ニ達シ今後下賜セラル、モノモ亦多カルヘキヲ以テ之ヲ郵便官署ニ預入保管セシメ以テ安全ニ保存利殖ノ方法ヲ講セシムルカ如キハ恩賜ノ紀念ヲ永遠ニ保有セシムル所以タルノミナラス亦國民貯蓄思想ノ涵養ニ裨益スルコト鮮少ニアラサルヘシ特ニ政府ハ從來ノ實況ニ徴シ將來郵便貯金ト地方經濟トノ調和ヲ圖リ益々其ノ干係ヲ密接ナラシムルカ爲メ土地ノ現況ニ鑑ミ大藏省預金部ニ於ケル資金運用ノ狀況ニ應シ漸次其ノ幾分ヲ以テ地方公共團體等ニ對スル資金融通ノ利便ヲ圖ルノ途ヲ開カントスル趣ナルヲ以テ理事ノ局ニ該ルモノハ能ク此ノ意ヲ體シ管下民人ヲシテ一層其ノ業ニ勤メ餘資ヲ蓄積シ以テ將來ノ發展ニ資セシメラル、コトヲ努ムヘシ

明治三十九年七月二十日印刷
明治三十九年七月二十六日發行

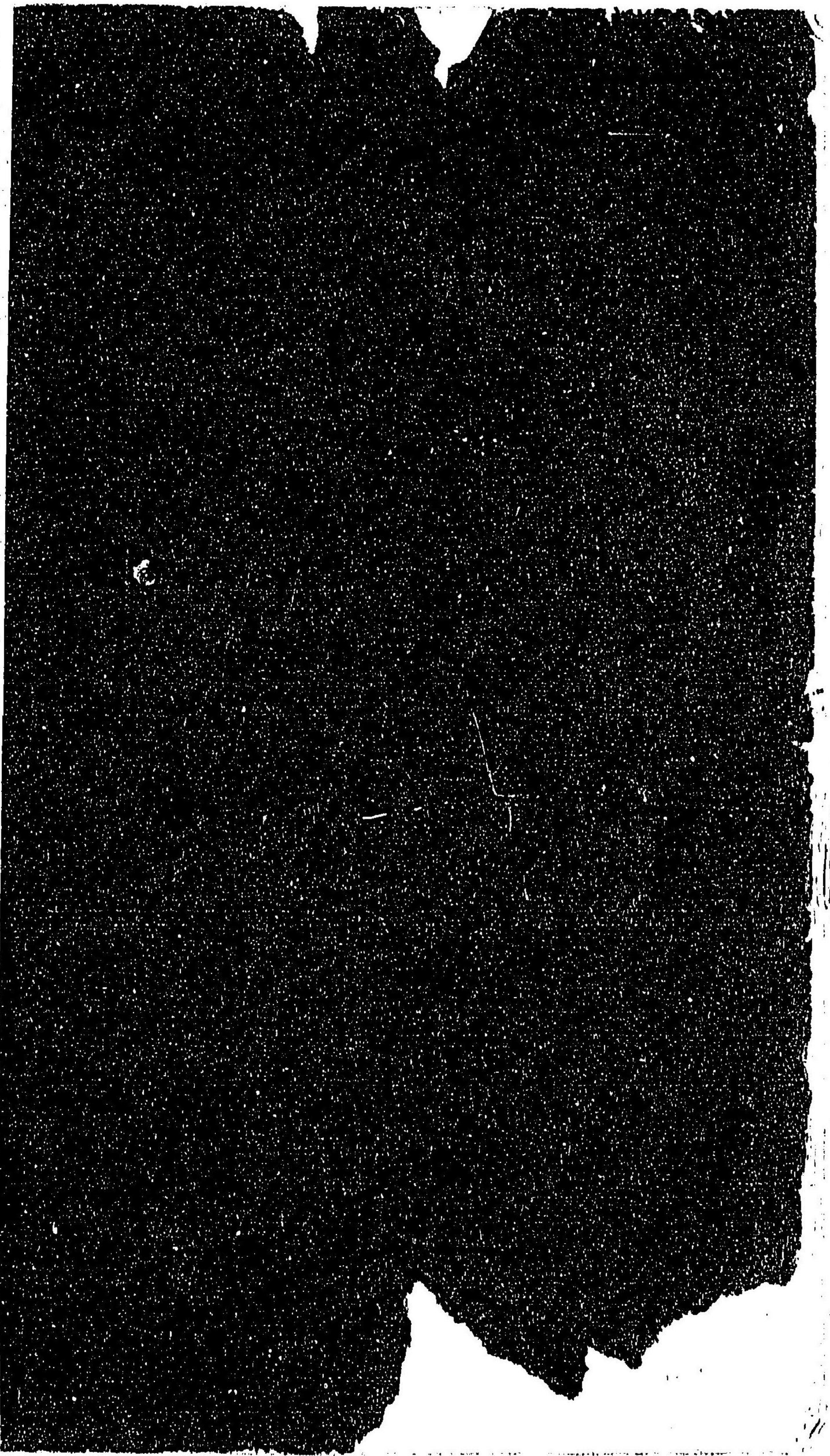
富山縣知事官房

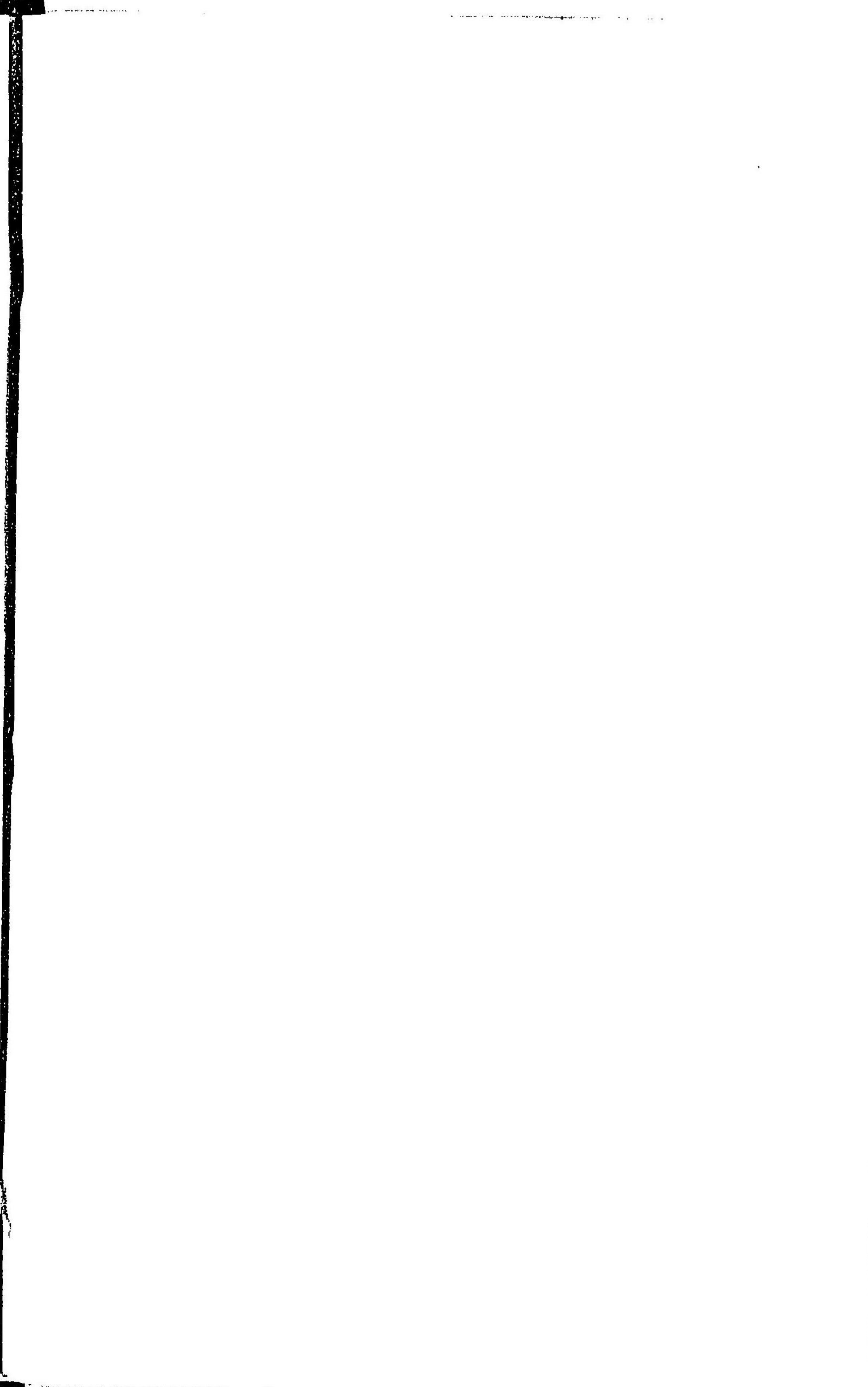
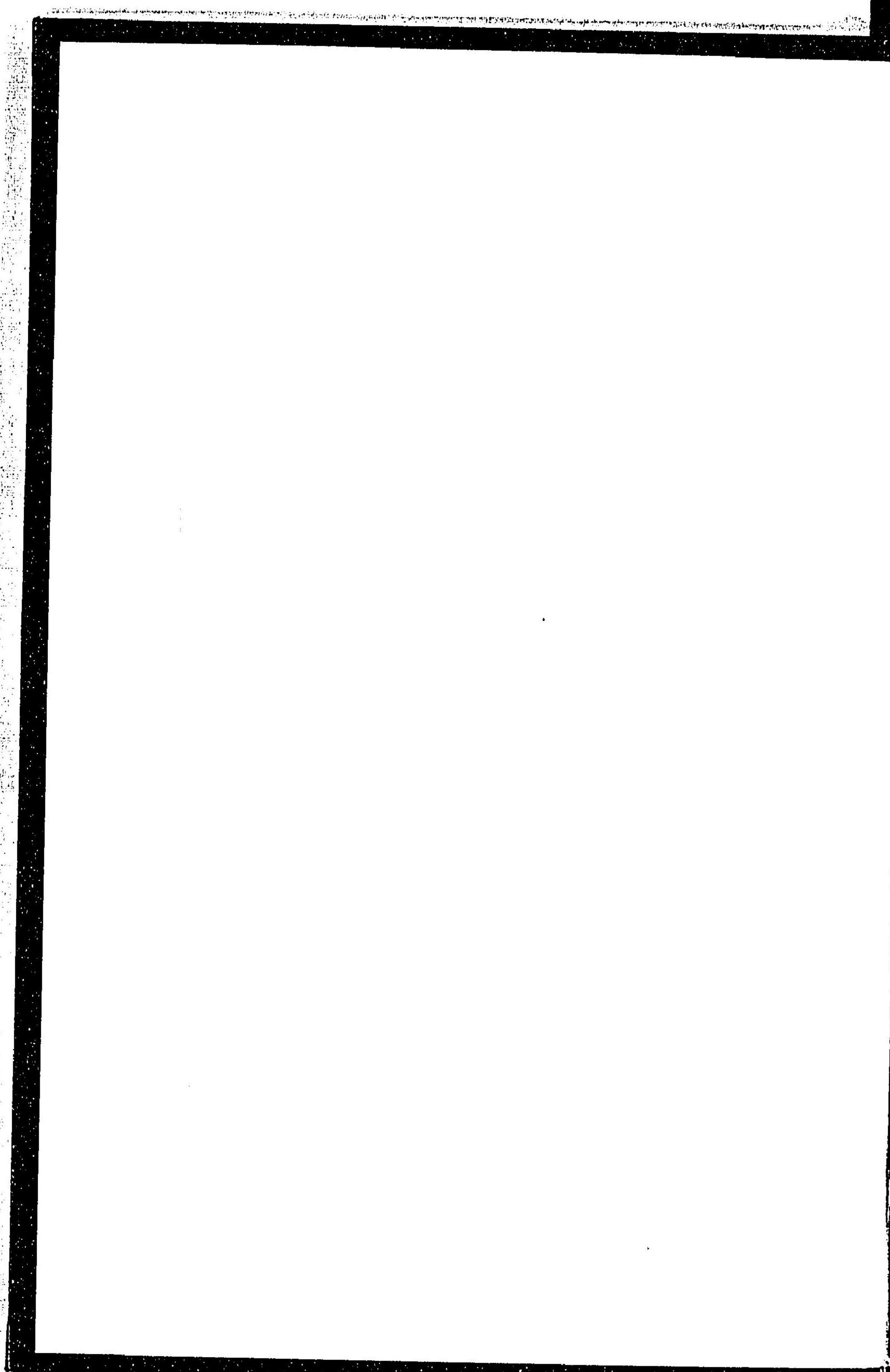
富山市鐵砲町七番地

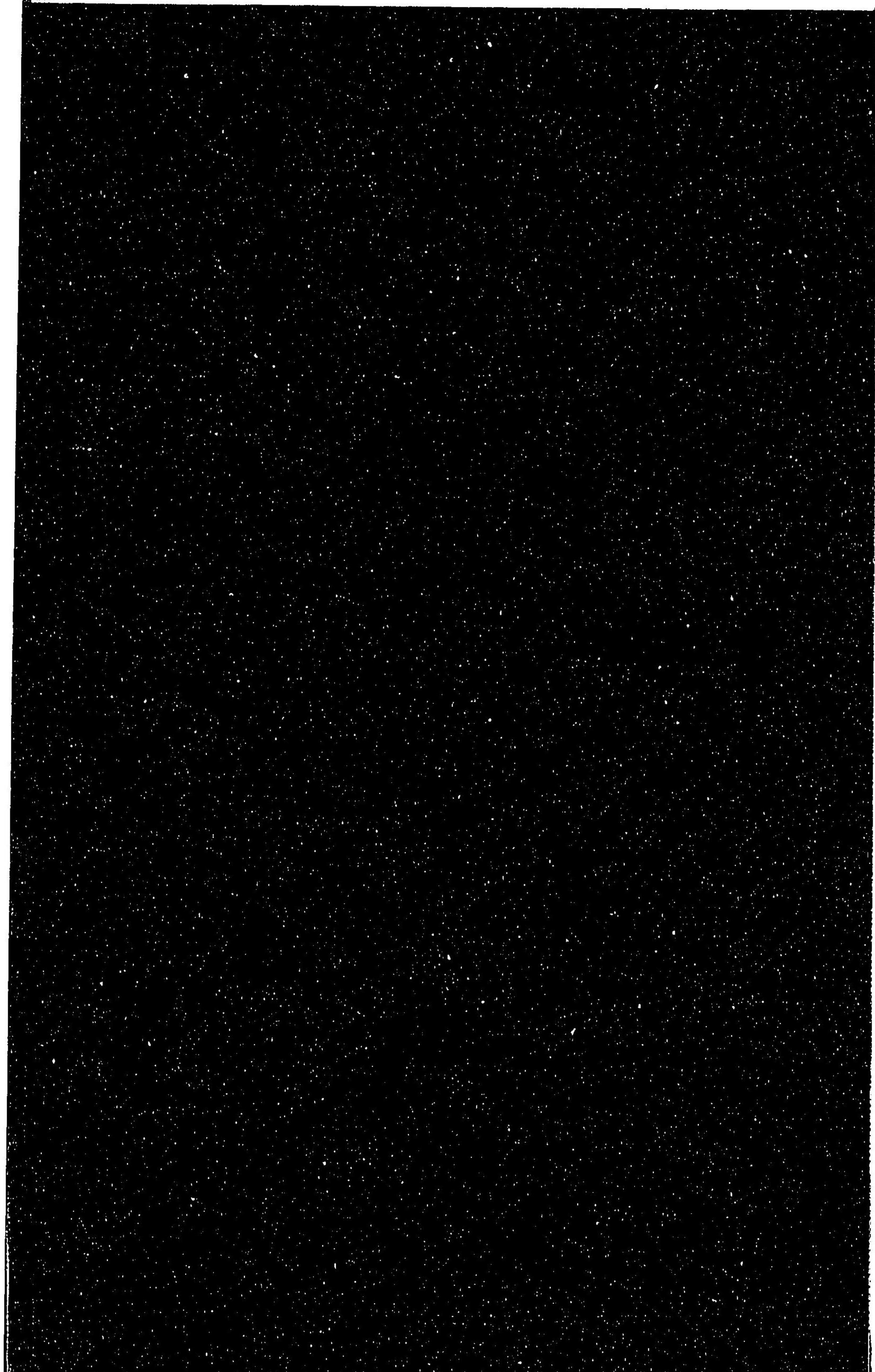
印刷者 藤田理茂

富山市總曲輪貳百五十五番地

印刷所 株式會社 富山日報社







禁電子式複写

